

日本学術振興会海外特別研究員

平成26年度採用分募集要項

1. 趣旨

独立行政法人日本学術振興会（Japan Society for the Promotion of Science:JSPS）は、我が国における学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成・確保するため、優れた若手研究者を海外に派遣し、特定の大学等研究機関において長期間研究に専念できるよう支援します。

本募集は、我が国の大学等学術研究機関（「4. 申請資格」(1) ※1参照）に所属する常勤研究者、又は当該常勤研究者を志望する者を対象とします。

2. 対象分野

人文・社会科学及び自然科学の全分野

3. 採用予定数

約130名

※ 平成26年度予算の状況により変更されます。

4. 申請資格

(1) 次に掲げる資格（Ⅰ）（Ⅱ）のいずれかに該当する者であること。なお、採用時においてもこの申請資格を満たしている必要があります。

なお、審査においては全て同一に取り扱い、資格毎に審査を行うわけではありません。

資格	(Ⅰ)	(Ⅱ)
身分	我が国の大学等学術研究機関※1に所属する常勤研究者。	「我が国の大学等学術研究機関※1の常勤研究者」を志望する者※2。
年齢	平成26年4月1日現在 ① 34歳未満 ② 医学、歯学又は獣医学を履修する我が国の4年制の博士課程修了者（次の③、④を除く）：35歳未満 ③ 法律（医師法（平成12年の法改正前）、歯科医師法又は獣医師法）に定める臨床研修を修了した者で、医学（次の④を除く）、歯学又は獣医学を履修する我が国の4年制の博士課程修了者：36歳未満 ④ 医師法（平成12年の改正法）により義務付けられた2年以上の臨床研修を修了した者で、医学を履修する我が国の4年制の博士課程修了者：37歳未満	
学位	平成26年4月1日現在、博士の学位を取得している者（申請時においては、見込みでも良い。）。 ただし、我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、平成26年3月31日までに所定の単位を修得の上退学した者で、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者も含む。 ※資格（Ⅰ）に該当する常勤研究者のうち、任期の定めのない者については学位の有無を問いません。	
国籍	申請時において、日本国籍を持つ者、又は我が国に永住を許可されている外国人	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術振興会海外特別研究員に採用されたことのある者は申請できません。 ・「6. 派遣期間」の期間中に特定の研究課題を遂行するための競争的資金等により雇用されている者は、支援の対象とはなりません。 	

※1 科学研究費補助金取扱規程（文部省告示）第 2 条に規定されている研究機関（※）に限ります。

※科学研究費補助金取扱規程（文部省告示）第 2 条に規定される研究機関

- a) 大学及び大学共同利用機関
- b) 文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの
- c) 高等専門学校
- d) 文部科学大臣が指定する機関

※2 申請時の所属状況は問わない。

(2) 採用時の資格確認

採用内定後の諸手続において、次に記載の書類等の必要書類を指定の期日前までに提出できない場合は、採用されません。

① 学位取得証明書等

- ・「[4.申請資格](#)」で(I)に該当する常勤研究者のうち、任期の定めのない者を除き、学位取得証明書の提出が必要です。
- ・我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、平成 26 年 3 月 31 日までに所定の単位を修得の上退学したことを証明する書類でも構いません。
- ・学位の取得日が平成 26 年 4 月 2 日以降となる場合であっても、平成 26 年 4 月 1 日までに博士の学位を授与することが決定している旨、学位を授与する大学が証明した文書を指定の期日までに提出することにより、学位取得証明書の提出は学位取得証明書が交付されるまで猶予されます。

② 臨床研修の修了証明書

- ・「[4.申請資格 年齢](#)」で、②～③に該当する者のみ提出が必要です。
- ・「医師法、歯科医師法又は獣医師法 16 条の 2 に基づく臨床研修であること」、「当該臨床研修を修了したこと」（申請時点で修了まで至っていない場合は採用されません。）、「臨床研修期間」が明記されたもので、臨床研修病院から交付されたものを提出してください。（詳細は、「平成 26 年度採用分海外特別研究員申請書作成要領」(http://www.jsps.go.jp/j-ab/ab_sin.html)の別紙参照)。

③ 外国人登録証明書などの日本に永住を許可されていることを証明する書類

- ・外国人の場合のみ（「[4.申請資格 国籍](#)」参照）提出が必要です。永住許可年月日が申請時以前であることが確認できるものを提出してください。

5. 平成 25 年度海外特別研究員採用内定者の申請資格

平成 26 年度採用分については、申請時まで平成 25 年度採用分の辞退届を提出している（渡航開始日前までに辞退手続きを完了している）場合を除き、申請することができません。

6. 派遣期間

派遣開始日から 2 年間

<平成 26 年度採用分>

派遣開始日：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日

7. 派遣先機関

海外の優れた大学等研究機関とします。

なお、次に挙げる機関等は派遣先機関として認められません。

- ・我が国の大学等学術研究機関が海外に設置する研究所等
- ・営利を目的とした民間研究所等

8. 本会支給経費

- (1) 往復航空賃（日本国内の移動分は除く。）
- (2) 滞在費・研究活動費（派遣国によって異なる。年額約380万円～520万円）

9. 申請手続【平成26年度採用分募集より電子申請システムのみで申請を受け付けます】

海外特別研究員の申請は電子申請システムを通じて受け付けます。（郵送による提出はありません。）詳細は、本会ホームページ内「電子申請のご案内」から「研究者養成事業」を参照してください。

電子申請のご案内 URL <http://www.shinsei.jps.go.jp/>

申請書の作成にあたっては、必ず「平成26年度採用分海外特別研究員申請書作成要領」及び電子申請システムの該当の「操作手引」を熟読してください。

作成要領 URL http://www.jps.go.jp/j-ab/ab_sin.html

操作手引 URL <http://www.shinsei.jps.go.jp/topyousei/download-yo.html>

(1) 申請手続を行う機関

海外特別研究員の申請は、申請時点（申請書受付期間時点）での所属状況により手続きが異なります。「機関申請者」と「個人申請者」のいずれに該当するか、以下により各自確認してから適切な手続きを踏んでください。

- ・科学研究費補助金取扱規程（文部省告示）第2条に規定されている研究機関 → 「機関申請者」
（[「4. 申請資格」（1）※1](#)参照）
- ・科学研究費補助金取扱規程（文部省告示）第2条に規定されていない研究機関 → 「個人申請者」
- ・海外の研究機関等に所属の者 → 「個人申請者」
- ・申請時点においては所属のない者 → 「個人申請者」

※本会の特別研究員に採用されている者は、海外特別研究員申請時に海外の大学等研究機関において研究活動を行っている場合であっても、必ず日本国内の所属機関を通じて申請手続を行ってください。（この場合は、「機関申請者」に該当します。）

<機関申請者>

申請手続は、必ず申請時点の所属機関（以下「申請機関」という。）を通じて行ってください。

（機関申請者に該当する者が、申請書を電子申請システムにより直接本会へ提出（送信）したものは、受け付けません。）

<個人申請者>

申請手続は各自で行い、申請書は電子申請システムにより直接本会へ提出（送信）してください。

(2) 電子申請システムによる手続（参考「申請手続の概要」を参照）

機関申請者の場合には予め申請機関を通じて、個人申請者の場合には各自直接、ID・パスワードを取得した上で、電子申請システムにより申請書を提出（送信）してください。

具体的手続は、本会ホームページ内「電子申請のご案内」から「研究者養成事業」を参照してください。

電子申請のご案内 URL <http://www-shinsei.jsps.go.jp/>

(3) 申請書類（申請書）の作成等

① 申請書【紙媒体による申請は受理しません】

申請書は次の4つから構成されます。

(ア) 申請書情報（Web入力項目）（申請書：1～4頁）（使用言語：日本語）

学歴・研究課題名等を記載する部分。電子申請システム上で直接入力して作成してください。

(イ) 申請内容ファイル（申請書：5頁以降）（使用言語：日本語）

現在までの研究状況・これからの研究計画・研究業績等を記載する部分。[本会ホームページ](#)又は電子申請システムから所定の様式を取得し、作成後、電子申請システムに登録してください。

※申請内容ファイルの様式は、電子申請システムのID・パスワード取得前でも本会ホームページから取得することができます。

ホームページ URL http://www.jsps.go.jp/j-ab/ab_sin.html

(ウ) 評価書（使用言語：日本語又は英語）

評価者は申請者の研究を良く理解している研究者1名に限ります。電子申請システムにより、評価者へ評価書作成依頼を行ってください。評価者は発行されたID・パスワードで電子申請システムにログインし、評価書を作成してください。

(エ) 受入意思確認書（使用言語：日本語又は英語）

海外での受入研究者の受入に関する意思を確認するもの。電子申請システムにより、受入研究者へ受入意思確認書作成依頼を行ってください。受入研究者は発行されたID・パスワードで電子申請システムにログインし、受入意思確認書を作成してください。

[作成にあたっての注意事項]

- ・申請書はモノクロ（グレースケール）印刷を行い審査委員に送付するため、印刷した際、内容が不鮮明とならないよう、作成に当たっては留意してください。
- ・「平成26年度採用分海外特別研究員申請書作成要領」および電子申請システムの操作手引に基づいて作成してください。

作成要領 URL http://www.jsps.go.jp/j-ab/ab_sin.html

操作手引 URL <http://www-shinsei.jsps.go.jp/topyousei/download-yo.html>

② 申請機関において作成する書類【紙媒体による提出が必要】

次の(ア)～(イ)については、申請機関において電子申請システムを用いて作成してください。

- (ア) 平成26年度海外特別研究員申請件数一覧 …………… 1部
- (イ) 平成26年度海外特別研究員申請リスト …………… 1部

(4) 申請方法

申請書は、機関申請者については申請機関を通じて本会へ提出（送信）してください。また、個人申請者については本会へ直接提出（送信）してください。

10. 本会の申請受付期間

① 機関申請者について

・【申請者】

申請機関が指定する期限までに、電子申請システムより申請書を提出(送信)してください。

・【申請機関担当者】

以下の期限までに、電子申請システム上で申請書を承認(「申請リスト」を確定)し、申請書を本会に提出(送信)してください。

提出(送信)期限：平成25年5月13日(月)17:00

また、9.申請手続(3)②(ア)(イ)を以下の期間に**紙媒体**で提出してください。

受付期間：平成25年5月13日(月)～16日(木)(必着)

受付時間：9:30～12:00 及び13:00～17:00(日本時間)

<申請書類提出先>

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1 麹町ビジネスセンター

独立行政法人 日本学術振興会 海外特別研究員 募集担当

② 個人申請者について

・【申請者】

以下の期限までに、電子申請システムより申請書を提出(送信)してください。

提出(送信)期限：平成25年5月13日(月)17:00(日本時間)

11. 選考及び結果の開示

(1) 選考

選考は、本会の特別研究員等審査会において第1次選考(書類選考)及び第2次選考(面接選考)により行います。ただし、第1次選考(書類選考)合格者のうち、書類選考の結果によっては、第2次選考(面接選考)を免除し、第1次選考をもって採用内定とする場合があります。

第2次選考(面接選考)は、第1次選考(書類選考)合格者のうち、面接選考を要する者について平成25年9月下旬に行う予定です。

主要な審査方針は、以下のとおりです。(審査の詳細については、本会「海外特別研究員」ホームページ上の「[選考方法](#)」の項目を参照してください。)

海外特別研究員ホームページ URL <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>

[審査方針]

- ① 海外での研究経験を通じて、学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できること。
- ② 申請者が海外の研究機関で研究活動を行うことにより、研究環境を変えて、新たな研究課題に挑戦することを目指す研究計画や、派遣前に行っている研究を大きく発展させることが期待できる研究計画を有するものについて優先させること。
- ③ 研究計画が具体的であり、申請者と海外における受入研究者との事前交渉等が十分になされていること。海外で研究活動を行うにあたり、相応の語学能力(英語であれば、TOEFL(Internet-based)79点、TOEIC730点、英検準1級のいずれか程度)を有することが望ましい。

※所属機関内で承認手続き等が必要な研究計画について

研究計画を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策や措置を講じるのかについて確認の対象となります。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

(2) 選考結果の開示

① 第1次選考（書類選考）の結果は、平成25年8月中旬に電子申請システムにより開示する予定です。

第1次選考（書類選考）の不合格者には、特別研究員等審査会における各審査項目の評価及び当該領域におけるおおよその順位についても開示します。

② 第2次選考（面接選考）の結果（採用内定・補欠・不合格）は、平成25年10月下旬までに電子申請システムにより開示する予定です。

③ 機関申請者については、申請機関の長にも第1次および第2次選考の結果を電子申請システムにより開示します。

④ 各結果を開示した際には、「海外特別研究員」のホームページにて、その旨を公表します。

海外特別研究員ホームページ URL <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>

※ 選考に関する個別の問い合わせには、応じません。

1.2. 受入承諾書の提出

採用内定を通知された者は、派遣期間開始日の40日前までに受入研究者の受入承諾書（海外の受入研究者が、受入を正式に承諾している旨の証明書）、及び必要書類を提出してください。提出期限までに必要書類を提出しない場合には、採用されません。

1.3. 海外特別研究員の義務・遵守事項等

海外特別研究員は、次に掲げる事項を遵守してください。

(1) 海外特別研究員は、出産・育児に係る採用中断の扱いを受ける場合を除き、研究計画に基づいて研究に専念しなければなりません。なお、研究計画、派遣先機関、受入研究者については原則として変更することはできません。研究遂行上の理由によりやむを得ずこれらを変更する必要がある場合、その理由を示して本会の承認を求めなければなりません。

(2) 派遣開始1年後（出産・育児に係る採用中断期間中を除く）に中間研究報告書を、派遣期間終了後1か月以内に最終研究報告書を提出しなければなりません。

(3) 派遣期間中、他のフェローシップ、給与等同種の資金援助を海外特別研究員と重複して受けてはなりません（ただし、「[4. 申請資格 \(1\)](#)」で (I) に該当する者が我が国の所属研究機関から給与を受ける場合は例外的に認められます）。派遣期間中に他の資金援助を受けることとなった場合には、速やかに本会に連絡してください。

(4) 資格 (II) の者については、原則として、他の身分を持つことはできません。

ただし、受入研究機関の研究施設を利用する上で必要となるなどの理由で形式的（無報酬かつ義務を生じない等。）な身分を得ることは、例外的に認められます。

- (5) 研究活動における不正行為を行ってははいけません。
- (6) 不正受給を行ってははいけません。
- (7) 研究費の不正使用を行ってははいけません。
- (8) 派遣期間中、大学・大学院等に学生として入学してはいけません。
- (9) その他、公序良俗に反する行為を行ってははいけません。

上記の義務・遵守事項等の他、次に掲げる事項のいずれかに該当すると本会が判断した場合にも、海外特別研究員の採用の取り消し、経費の支給停止、又は支給済の経費の返還要求を行います。なお、採用時に誓約書の提出を求めます。詳細は、採用手続き時に配布する「日本学術振興会海外特別研究員遵守事項及び諸手続の手引」に定めます。

- (1) 病気等のために研究を継続できないことが明らかな場合
- (2) 研究の進捗状況に著しい問題があり、所期の目標を達成することが不可能又は著しく困難と判断される場合
- (3) 申請書の記載事項に重大な虚偽が発見された場合
- (4) 海外特別研究員の資格を有していないことが明らかになった場合
- (5) 過去に、研究活動における不正行為、不正受給、研究費の不正使用、又は公序良俗に反する行為を行ったことが明らかになった場合
- (6) 本会に無断で一時帰国や派遣期間短縮等、計画の変更を行った場合
- (7) 「日本学術振興会海外特別研究員遵守事項及び諸手続の手引」に記載されている条件に違反し、本会の指示に従わなかった場合

1 4. その他

(1) 申請書及び選考について

- ① 申請内容ファイルは、本会所定の様式を使用してください。様式の変更、ページの追加、指定ファイル以外の登録は認められません。
- ② 申請書の提出（送信）後、その記載事項を変更し、又は補充することは認められません。
- ③ 申請は1人1件とします。なお、2件以上申請した場合、全ての申請が無効となります。
- ④ 本会は、第2次選考（面接選考）のための旅費は負担しません。
- ⑤ 申請書に重大な虚偽が発見された場合は、採用後であっても採用を取り消すことがあります。
- ⑥ 審査結果は平成26年度採用分にものみ有効です。

(2) 採用内定後の資格の変更について

申請時において、「[4. 申請資格](#)」で（Ⅰ）に該当する者が、採用内定後、又は派遣期間中に（Ⅱ）に変更する場合には、（Ⅱ）の資格要件を全て満たさなくてはなりません。また、申請時に（Ⅱ）に該当する者が、採用内定後、又は派遣期間中に我が国の大学等学術研究機関の常勤研究者の職に就き、かつ就職先の研究機関の承認を得られた場合、資格（Ⅰ）への変更を届け出ることで、引き続き海外特別研究員としての派遣が認められます。なお、派遣期間中に、我が国の大学等学術研究機関における常勤研究者以外の職、又は海外の研究機関の職に就いた場合は、海外特別研究員としての身分を喪失します。これらの変更が生じた場合には、本会に遅滞なく届け出なくてはなりません。

(3) ビザ等について

- ① 派遣国に滞在するためのビザ等の申請について、本会は一切関わらないので留意してください。すでに海外に滞在している者は、ビザの延長や切り替えに十分注意し、申請者の責任において、研究計画が遂行できるよう準備・手配してください。
- ② 派遣先機関と雇用契約を結び当該機関から給与の支給を受ける前提でビザを取得する者は、採用されませんので、留意してください。
- ③ 海外特別研究員事業のために派遣先機関と本会は協定等の締結および調整等を行いません。
- ④ 本会は、派遣期間中に生じた傷害、疾病等の事故について責任を負いません。

(4) 関連情報について

過去数年の申請状況、申請書様式等を本会「海外特別研究員」のホームページで公開しています。

海外特別研究員ホームページ URL <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>

15. 個人情報の取扱い

申請書類に含まれる個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び本会の「個人情報保護規程」に基づき厳重に管理し、日本学術振興会の業務遂行のみに利用（データの電算処理及び管理を外部の民間企業等に委託して行わせるための個人情報の提供を含む。）します。

なお、海外特別研究員に採用された場合、氏名、申請時における所属・職、申請領域・分科・細目、研究課題名、派遣国名、受入研究機関名及び研究報告書が公表されます。

16. 採用終了後の調査への協力義務

我が国の学術の振興や海外特別研究員制度の充実等を図るため、海外特別研究員採用経験者に対し、採用終了時およびその後の10年間程度まで、就職等の現況調査等を行っています。本調査への協力を海外特別研究員採用の条件とするので、ご承知ください。

なお、本調査実施にあたり、調査書類送付時に使用する最新の連絡先を把握する必要があるため、採用終了後に連絡先の住所・就職先等が変更になった場合は速やかに本会に届け出てください。

17. 本募集に関する連絡先

独立行政法人 日本学術振興会 研究者養成課 海外特別研究員募集担当

電話 (03)3263-0925 (ダイヤルイン)

受付時間：月曜～金曜日（祝日を除く。）9：30～12：00 及び 13：00～17：00（日本時間）

海外特別研究員ホームページ URL <http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>

申請書作成要領、申請書（申請内容ファイル）等は、本会「海外特別研究員」のホームページの「申請手続き」の「[募集要項](#)」よりダウンロードしてください。

特別研究員-RPD（出産・育児による研究中断者への復帰支援フェローシップ）及び特別研究員-PDの平成26年度採用分も募集しています。特別研究員-RPDと特別研究員-PDは海外特別研究員との併願も可能です。特別研究員-PDは申請受付期間が、本募集要項と異なり6月上旬ですので、ご注意ください。詳細は、特別研究員-RPD及び特別研究員-PDの募集要項又は、本会ホームページをご参照ください。

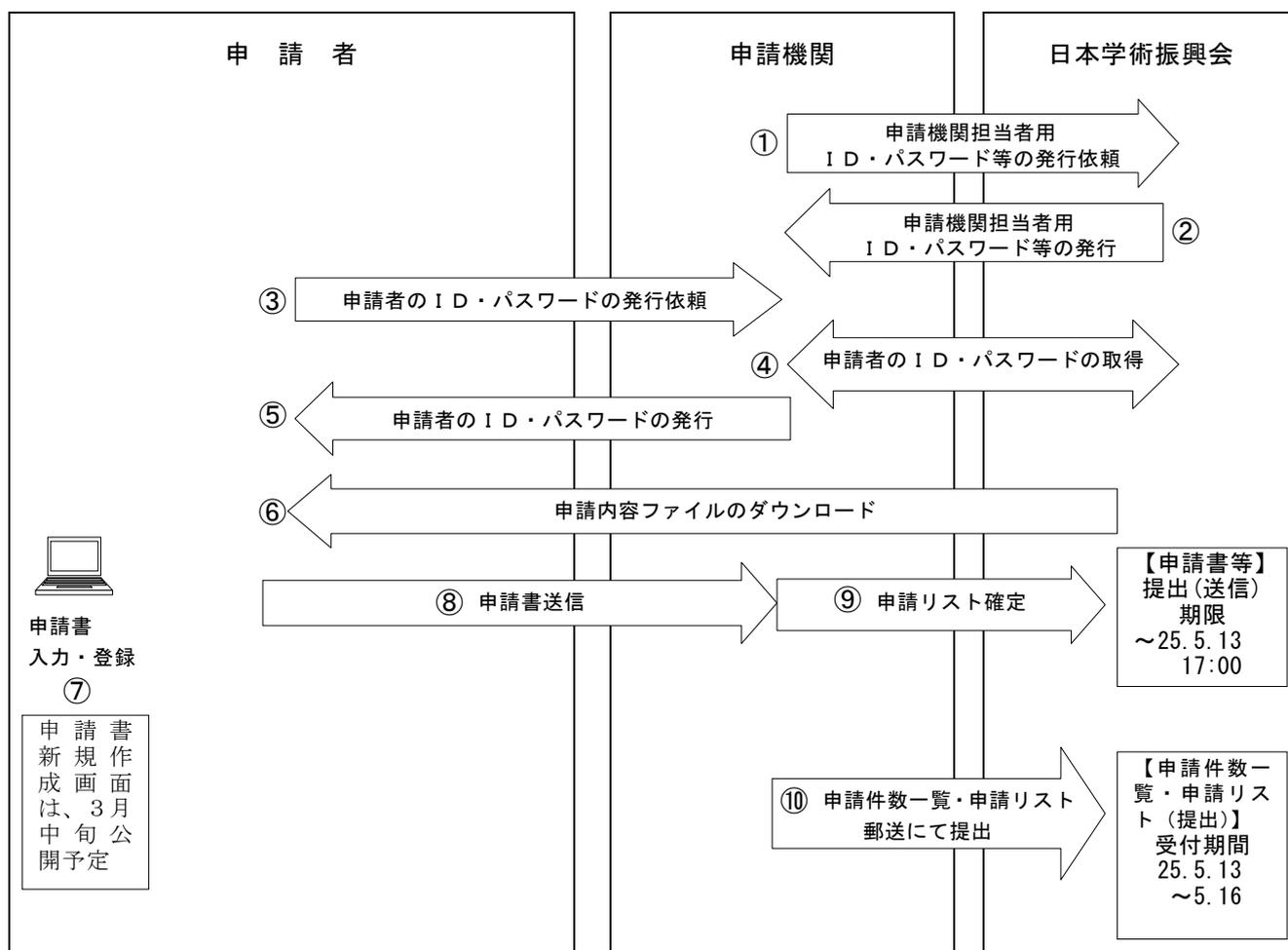
(申請手続の概要)

<機関申請者>

- ① 【申請機関担当者】日本学術振興会電子申請システム利用申請書(研究者養成事業用)を、郵送にて本会へ送付します。(既に研究者養成事業用のID・パスワードを取得済の申請機関は引き続き使用できるので再取得する必要はありません。)
- ② 【本会】申請機関担当者にID・パスワードを発行し、電子メール及び郵送で送付します。
※既に、特別研究員事業にて申請機関担当者のID・パスワードを取得済の申請機関で、現在登録されている申請機関担当者が海外特別研究員の申請の取りまとめを担当しない場合には、機関担当者メニューから新たに海外特別研究員担当者の登録を行ってください。海外特別研究員担当者には、海外特別研究員事業に限り、申請機関担当者と同等の権限があります。申請の取りまとめを海外特別研究員担当者が行う場合には、以下「申請機関担当者」を「海外特別研究員担当者」と読み替えてください。
- ③ 【申請者】申請機関担当者へ申請者用ID・パスワードの発行依頼を行います。ID・パスワードは、特別研究員事業(PD・DC2・DC1・RPD)と共通して使用することが可能です。
- ④ 【申請機関担当者】申請機関用ID・パスワードで電子申請システムにアクセスし、申請者用ID・パスワードを取得します。
- ⑤ 【申請者】申請機関担当者※から申請者用ID・パスワードを受領します。
- ⑥ 【申請者】本会「海外特別研究員」ホームページ(<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>)の「申請手続き」の「募集要項」の「申請書等様式」から「申請内容ファイル」をダウンロードします。(ID・パスワード不要)
- ⑦ 【申請者】受領したID・パスワードで電子申請システムにアクセスし、画面に従い以下を行います。
 - ・申請書情報(Web入力項目)を入力
 - ・海外における受入研究者へ受入意思確認書の作成を依頼
 - ・評価書作成者へ評価書の作成を依頼
 - ・⑥で作成した申請内容ファイルを登録 (注)⑦⑧~⑩の手続きは、3月中旬に平成26年度採用分の申請書新規作成画面が公開されてからとなります。
- ⑧ 【申請者】受入意思確認書および評価書とともに提出済みの状態になった後、申請書情報および申請内容ファイルに不備がないか確認し、不備がなければ「確認完了・提出」操作を行い、申請機関担当者※に申請書を提出(送信)します。
- ⑨ 【申請機関担当者】申請書一式の内容等に不備がないかを確認します。不備がない場合は申請書一式を承認(「申請リスト」を確定)し、申請書一式を本会に提出(送信)します。
- ⑩ 【申請機関担当者】申請件数一覧および提出用申請リストを電子申請システムより印刷し、本会へ郵送にて提出します。

※印を付した申請機関担当者の業務の一部は、機関によっては部局担当者が行う場合もあります。

<機関申請者の申請手続イメージ>



(申請手続の概要)

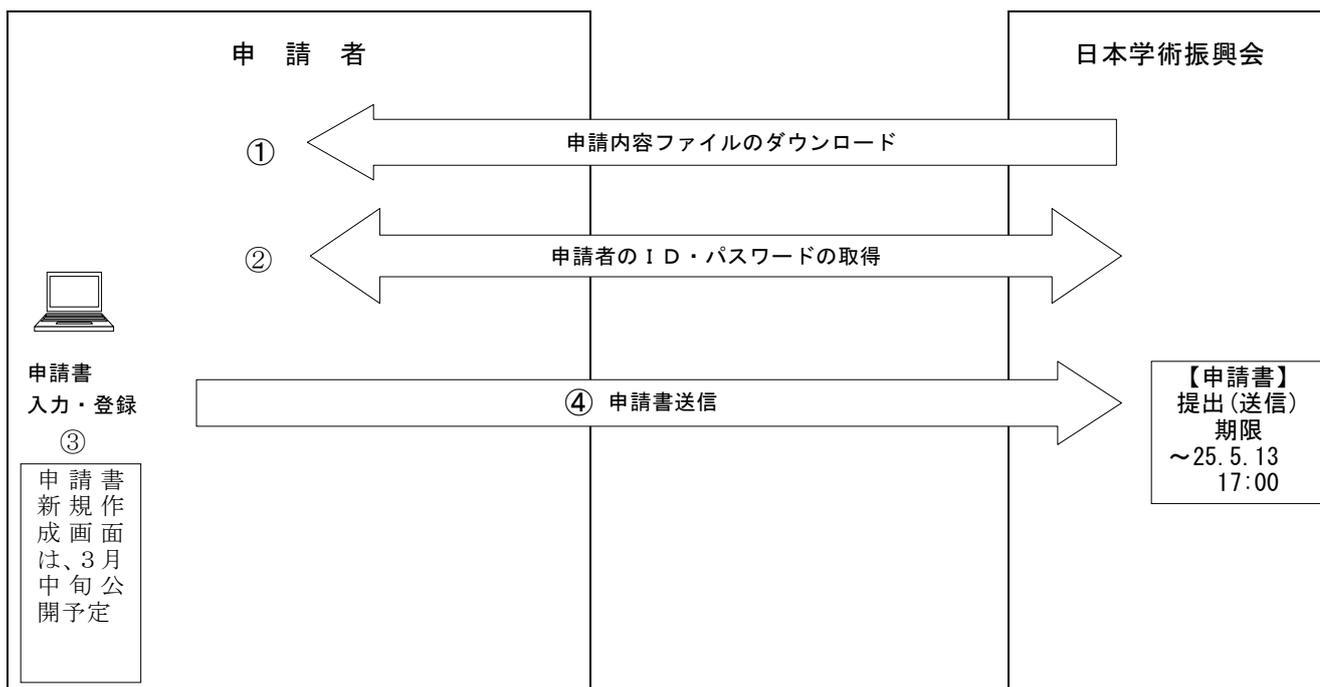
<個人申請者>

- ① 【申請者】 本会「海外特別研究員」ホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>) の「申請手続き」の「募集要項」の「**申請書等様式**」から「申請内容ファイル」をダウンロードします。(ID・パスワード不要)
- ② 【申請者】 電子申請システム (<http://www.shinsei.jsps.go.jp/login.html>) にアクセスし、個人申請用ID・パスワード取得をします。取得時に出力される「個人申請用ID・パスワード取得時登録内容確認書」は、大切に保管しておいてください。(なお、海外特別研究員個人申請用として取得したID・パスワードは、本年度の海外特別研究員事業にのみ有効であり、翌年度以降の海外特別研究員事業および全ての特別研究員事業(PD・DC2・DC1・RPD)への申請には使用できません。)
- ③ 【申請者】 取得したID・パスワードで電子申請システムにアクセスし、画面に従い以下を行います。
 - ・申請書情報(Web入力項目)を入力
 - ・海外における受入研究者へ受入意思確認書の作成を依頼
 - ・評価書作成者へ評価書の作成を依頼
 - ・①で作成した申請内容ファイルの登録
- ④ 【申請者】 受入意思確認書および評価書がともに提出済みの状態になった後、申請書情報および申請内容ファイル申請書に不備がないか確認し、不備がなければ「確認完了・提出」操作を行い、申請書を提出(送信)します。

[注]

- ・個人申請者が、ID・パスワード取得時より所属状況等の「個人申請用ID・パスワード取得時登録内容確認書」の内容に変更が生じた場合には、改めてID・パスワードを取得する必要があります。
- ・個人申請者が、申請書を、一度「確認完了・提出」操作を行ってから、誤りが見つかった場合には、「[1.7. 本募集における連絡先](#)」へ連絡してください。

<個人申請者の申請手続イメージ>



申請書1～4ページの「申請書情報」は、「電子申請システム」より作成してください。

No.
(申請書情報)

平成26年度採用分
海外特別研究員
申請書

第 版

①審査領域		受付番号
②分科		
③細目		⑤専門分野
④分科・細目 コード		

1. 申請資格等

(所属機関コード:)

⑥氏名	(フリガナ) 登録名		⑦性別
	(フリガナ) 戸籍名		
	ローマ字 表記		
⑧国籍			
⑨生年月日	(西暦) 年 月 日生 (西暦2014年4月1日現在 歳)		

⑩大学院 博士課程 (出身または在学)	入学年月	(西暦) 年 月 入・進学	
	大学名		
	研究科名		
	課程種別		
	修了・退学等		
	学位	(西暦) 年 月 日	
	学位付記 専攻分野		

⑪学歴 (学部、 修士、博士)	
--------------------	--

⑫研究・職歴等	
---------	--

⑬現在の 所属機関	所属機関名			
	部局名		部局 種別	
	職名		任期の有無	

⑭申請資格	()
-------	-----

⑮海外特別研究員 終了後の進路	
--------------------	--

⑯奨学金・フェローシップの有無	名称：
⑰研究課題名	(和文)
	(英文)
⑱派遣を希望する期間	(西暦) 年 月 日 ~ (西暦) 年 月 日
⑲派遣国	
⑳海外における受入の大学等研究機関での身分	
㉑平成26年度採用分特別研究員との併願	
㉒現住所	〒
	国名： 電話番号： 携帯電話番号： FAX番号： Email 1： Email 2：
㉓所属機関 (所在地・機関名・部局等名)	〒
	国名： 電話番号： (内線) FAX番号： Email：
㉔希望連絡先	
	〒 国名： 電話番号： (内線) 携帯電話番号： FAX番号： Email 1： Email 2：

㉔現在の 受入研究者	(フリガナ) 氏 名 (ローマ字)			
	科研費 研究者番号			
	所属機関名			
	部 局 名		部局 種別	
	職 名			
㉕出身大学院の 研究指導者	(フリガナ) 氏 名			
	所属機関名			
	職 名			
㉖海外における 受入研究者	氏 名	(FAMILY NAME) (First Name) (Middle Name) (英文)		
		(漢字等)		
	職	(英文)		
		(和文)		
	受入機関名	(種別)		
		(英文)		
	受入部局名	(和文)		
		(英文)		
	連 絡 先	(和文)		
		電話番号 : (内線) FAX 番号 : Email :		
㉗評価書作成者	(フリガナ) 氏 名			
	所属機関名			
	部 局 名		部局 種別	
	職 名			
	連 絡 先	Email :		

㉓ 研究活動における主な使用言語					
㉔ 語学検定試験結果	言語：	試験名称：			
	級／スコア：	取得年月日：(西暦) 年 月 日			
	言語：	試験名称：			
	級／スコア：	取得年月日：(西暦) 年 月 日			
㉕ 自己評価	言語	読解力	作文力	ヒアリング力	会話力

㉖ 海外における研究・留学歴	訪問先： 目的：				
	期間：(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日				
	訪問先： 目的：				
	期間：(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日				
	訪問先： 目的：				
	期間：(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日				

㉗ 海外特別研究員制度における支援の必要性					
-----------------------	--	--	--	--	--

2. 現在までの研究状況 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の改変・追加は不可(以下同様))

- ①これまでの研究の背景、問題点、解決方策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。
- ②申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について整理し、①で記載したことと関連づけて説明してください。「4. 研究業績」欄に記載した論文、学会発表等を引用する場合には、同欄の番号を記載するとともに、申請者が担当した部分を明らかにして記述してください。

(現在までの研究状況の続き)

申請者登録名

3. 派遣先における研究計画

(1) 研究目的・内容 (図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください)

①研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。

②どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのかを、年次毎に（1年目、2年目）分けて具体的に記入してください。

③なお共同研究の場合には、申請者が担当する部分を明らかにしてください。

申請者登録名 _____

(研究目的・内容の続き)

(2) 研究の特色・独創的な点

次の項目について記載してください。

- ①これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点
- ②国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義
- ③本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

(3) 外国で研究することの意義（派遣先機関・指導者の選定理由）

①申請者のこれまでの研究と派遣先機関（指導者）の研究との関連性について記述してください

②国内外の他研究機関（研究者）と派遣先機関（指導者）とを比較し、派遣先で研究する必要性や意義について明らかにしてください。
（フィールドワーク・調査研究を行う場合、派遣先地域で研究する必要性や意義を中心に述べても構いません。）

申請者登録名 _____

(4) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本欄には、研究計画を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策や措置を講じるのか記述してください。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、「該当しない」と記載してください。

申請者登録名 _____

4. 研究業績（下記の項目について申請者が中心的な役割を果たしたもののみに項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください）業績が多くて記載しきれない場合には、主要なものを抜粋し、各項目の最後に「他〇報」等と記載してください。）

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を区分して記載してください。査読がある場合、印刷済及び採録決定済のものに限り、**査読中・投稿中のものは除きます**）

著者（申請者を含む全員の氏名（最大20名程度）を、論文と同一の順番とします）、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp 開始頁－最終頁、発行年をこの順で記入してください。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

(3) 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください）

著者（申請者を含む全員の氏名（最大20名程度）を、論文等と同一の順番で記載すること）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に〇印を付すこと。（発表予定のものは除きます。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもかまいません。）

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

(3)と同様に記載してください。

(5) 特許（申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。）

(6) その他（受賞歴等）

申請者登録名

(研究業績の続き)

申請者登録名

Letter of Intent to Accept Prospective Fellow by Host Researcher

I am willing to host the following person if she/he is awarded
a JSPS Postdoctoral Fellowship for Research Abroad.

Applicant name 申請者氏名	SHINSEI, Taro
Duration (as JSPS fellow from FY2011) 派遣を希望する期間	1 / April / 2014 ~ 31 / March / 2016 (day) (month) (year) (day) (month) (year)
Research project (a title of the research project applying for JSPS fellow) 研究課題名	XXXXX XXXXX XXXXXXXXXXXXX

Host Researcher 受入研究者	Name 氏名	UKEIRE, Taro
	Position 職	Professor
	Department 受入部局名	Department of XXXXXXXXXXXX
	Institute 受入機関名	University of XXXXXXXXXXXX

EXCEPTION CAUSE 特記事項
(空欄可。特記すべき事項がある場合のみ記入。) (全角 500 文字 (半角英数字の場合は 1000 文字) 以内、改行は 5 回まで)

Date: 1 / March / 2013)
(day) (month) (year)

申請書14ページの「評価書」は、「電子申請システム」より作成してください。

日本学術振興会海外特別研究員申請者に関する評価書

①評価書作成者	氏名	ヒョウカ タロウ 評価 太郎		
	所属機関名	〇〇の研究機関		
		〇〇〇〇〇〇 (XXXXXX)		
	部局名	〇〇〇〇〇 (XXXX)	部局種別	〇〇〇
職名	〇〇〇 (XXX)			
②申請者登録名	シンセイ タロウ 申請 太郎			
③申請者との関係	現在の受入研究者			
④申請者の研究姿勢・忍耐力・研究の進捗状況、専門知識・技量、着想力・創造力、コミュニケーション能力、語学能力、リーダーシップ、将来性などについて。また、研究の独創性又は特色について（その研究が共同研究である場合は、特に申請者の当該共同研究において果たした役割及びその寄与の程度を明記）。				
コメント コメント コメント コメント コメント （全角2100文字（半角英数字の場合は4200文字）以内、改行は10回まで）				

見本

分科・細目コード表

RPD・海特用

分野	分科	細目	分科・細目 コード	審査可能領域								
				人文学	社会科学	数物系 科学	化学	工学	生物学	農学	医歯薬学	
総 合	情報学基礎	情報学基礎理論	1001			○		○				
		数理情報学	1002			○		○		○		
		統計科学	1003		○	○		○		○		
	計算基盤	計算機システム	1101					○				
		ソフトウェア	1102					○				
		情報ネットワーク	1103					○				
		マルチメディア・データベース	1104		○			○				
		高性能計算	1105			○		○				
		情報セキュリティ	1106		○	○		○			○	
	人間情報学	認知科学	1201	○	○			○				○
		知覚情報処理	1202					○				○
		ヒューマンインタフェース・インタラクション	1203					○				○
		知能情報学	1204					○				○
		ソフトコンピューティング	1205					○				○
		知能ロボティクス	1206					○				○
	情報学フロンティア	感性情報学	1207	○	○			○				○
		生命・健康・医療情報学	1301					○	○			○
		ウェブ情報学・サービス情報学	1302		○			○				○
		図書館情報学・人文社会情報学	1303	○	○			○				○
		学習支援システム	1304		○			○				○
		エンタテインメント・ゲーム情報学	1305	○	○			○				○
	環境解析学	環境動態解析	1401			○	○	○	○	○	○	○
		放射線・化学物質影響科学	1402				○	○	○	○	○	○
		環境影響評価	1403		○			○	○	○	○	○
	環境保全学	環境技術・環境負荷低減	1501				○	○	○	○	○	○
		環境モデリング・保全修復技術	1502				○	○	○	○	○	○
		環境材料・リサイクル	1503				○	○	○	○	○	○
		環境リスク制御・評価	1504		○		○	○	○	○	○	○
	環境創成学	自然共生システム	1601	○	○		○	○	○	○	○	○
		持続可能システム	1602	○	○		○	○	○	○	○	○
		環境政策・環境社会システム	1603		○		○	○	○	○	○	○
	デザイン学	デザイン学	1651	○	○		○	○	○	○	○	
	生活科学	家政・生活学一般	1701		○							○
		衣・住生活学	1702	○	○			○				○
		食生活学	1703		○							○
	科学教育・教育工学	科学教育	1801		○	○						○
		教育工学	1802		○			○				○
	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1901	○	○	○					○	
	文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学(A)	2001	○	○	○				○	○	○
		文化財科学・博物館学(B)	2002	○	○	○				○	○	○
	地理学	地理学	2101	○	○						○	
	社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201		○							○
		自然災害科学・防災学	2202			○						○
	人間医工学	生体医工学・生体材料学	2301				○	○				○
		医用システム	2302					○				○
		医療技術評価学	2303					○				○
		リハビリテーション科学・福祉工学	2304		○			○				○
	健康・スポーツ科学	身体教育学(A)	2401		○			○				○
		身体教育学(B)	2402		○			○				○
		スポーツ科学(A)	2403		○			○				○
		スポーツ科学(B)	2404		○			○				○
		応用健康科学(A)	2405		○			○				○
		応用健康科学(B)	2406		○			○				○
	子ども学	子ども学(子ども環境学)	2451	○	○							○
	生体分子科学	生物分子化学	2501				○		○	○	○	○
		ケミカルバイオロジー	2502				○		○	○	○	○
	脳科学	基盤・社会脳科学	2601		○							○
		脳計測科学	2602		○							○
	社人総 会文合	地域研究	2701	○	○							
		ジェンダー	2801	○	○							
	総 合 理 工	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学	4301			○	○	○			
			ナノ構造物理	4302			○	○	○			
			ナノ材料化学	4303			○	○	○			
			ナノ材料工学	4304			○	○	○			
			ナノバイオサイエンス	4305			○	○	○			○
			ナノマイクロシステム	4306			○	○	○			○
応用物理学		応用物性	4401			○	○	○				
		結晶工学	4402			○	○	○				
		薄膜・表面界面物性	4403			○	○	○				
		光工学・光子科学	4404			○	○	○				
		プラズマエレクトロニクス	4405			○	○	○				
		応用物理学一般	4406			○	○	○				
量子ビーム科学		量子ビーム科学	4501			○	○	○				
計算科学		計算科学	4601			○	○	○				
総 合 生 物	神経科学	神経生理学・神経科学一般	6201						○	○	○	
		神経解剖学・神経病理学	6202						○	○	○	
		神経化学・神経薬理学	6203						○	○	○	
	実験動物学	実験動物学	6301						○	○	○	
	腫瘍学	腫瘍生物学	6401						○	○	○	
		腫瘍診断学	6402						○	○	○	
		腫瘍治療学	6403						○	○	○	
	ゲノム科学	ゲノム生物学	6501						○	○	○	
		ゲノム医科学	6502						○	○	○	
		システムゲノム科学	6503						○	○	○	
生物資源保全学	生物資源保全学	6601						○	○	○		

分科・細目コード表

RPD・海特用

分野	分科	細目	分科・細目コード	
人文学	哲学	哲学・倫理学	2901	
		中国哲学・印度哲学・仏教学	2902	
		宗教学	2903	
		思想史	2904	
	芸術学	美学・芸術諸学	3001	
		美術史	3002	
		芸術一般	3003	
	文学	日本文学	3101	
		英米・英語圏文学	3102	
		ヨーロッパ文学	3103	
		中国文学	3104	
		文学一般	3105	
	言語学	言語学	3201	
		日本語学	3202	
		英語学	3203	
		日本語教育 外国語教育	3204 3205	
	史学	史学一般	3301	
		日本史	3302	
		アジア史・アフリカ史	3303	
		ヨーロッパ史・アメリカ史	3304	
人文地理学	考古学	3305		
	人文地理学	3401		
文化人類学	文化人類学・民俗学	3501		
社会科学	法学	基礎法学	3601	
		公法学	3602	
		国際法学	3603	
		社会法学	3604	
		刑事法学	3605	
		民事法学	3606	
		新領域法学	3607	
		政治学	政治学 国際関係論	3701 3702
	経済学	理論経済学	3801	
		経済学説・経済思想	3802	
		経済統計	3803	
		経済政策	3804	
		財政・公共経済	3805	
	経営学	金融・ファイナンス	3806	
		経済史	3807	
		経営学	3901	
	社会学	社会学	4001	
		社会福祉学	4002	
	心理学	社会心理学	4101	
		教育心理学	4102	
		臨床心理学 実験心理学	4103 4104	
	教育学	教育学	4201	
		教育社会学 教科教育学 特別支援教育	4202 4203 4204	
	数物系科学	数学	代数学	4701
			幾何学	4702
			解析学基礎	4703
			数学解析	4704
			数学基礎・応用数学	4705
		天文学	天文学	4801
		物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理(理論)	4901
素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理(実験)			4902	
物性Ⅰ(理論)			4903	
物性Ⅰ(実験)			4904	
物性Ⅱ(理論)			4905	
物性Ⅱ(実験)			4906	
数理物理・物性基礎(理論)			4907	
数理物理・物性基礎(実験)			4908	
原子・分子・量子エレクトロニクス			4909	
生物物理・化学物理・ソフトマターの物理			4910	
地球惑星科学		固体地球惑星物理学	5001	
		気象・海洋物理・陸水学	5002	
		超高層物理学	5003	
		地質学	5004	
	層位・古生物学	5005		
	岩石・鉱物・鉱床学	5006		
	地球宇宙化学	5007		
プラズマ科学	プラズマ科学	5101		
化学	基礎化学	物理化学	5201	
		有機化学	5202	
		無機化学	5203	
	複合化学	機能物性化学	5301	
		合成化学	5302	
		高分子化学	5303	
		分析化学	5304	
		生体関連化学	5305	
	材料化学	グリーン・環境化学	5306	
		エネルギー関連化学	5307	
		有機・ハイブリッド材料	5401	
		高分子・繊維材料 無機工業材料	5402 5403	
	デバイス関連化学	5404		

分野	分科	細目	分科・細目コード
工学	機械工学	機械材料・材料力学	5501
		生産工学・加工学	5502
		設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5503
		流体工学	5504
		熱工学	5505
	電気電子工学	機械力学・制御	5506
		知能機械学・機械システム	5507
		電力工学・電力変換・電気機器	5601
		電子・電気材料工学	5602
		電子デバイス・電子機器	5603
土木工学	通信・ネットワーク工学	5604	
	計測工学	5605	
	制御・システム工学	5606	
	土木材料・施工・建設マネジメント	5701	
	構造工学・地震工学・維持管理工学	5702	
建築学	地盤工学	5703	
	水工学	5704	
	土木計画学・交通工学	5705	
	土木環境システム	5706	
	建築構造・材料	5801	
材料工学	建築環境・設備	5802	
	都市計画・建築計画	5803	
	建築史・意匠	5804	
	金属物性・材料	5901	
	無機材料・物性	5902	
プロセス・化学工学	複合材料・表面工学	5903	
	構造・機能材料	5904	
	材料加工・組織制御工学	5905	
	金属・資源生産工学	5906	
	化工物性・移動操作・単位操作	6001	
総合工学	反応工学・プロセスシステム	6002	
	触媒・資源化学プロセス	6003	
	生物機能・バイオプロセス	6004	
	航空宇宙工学	6101	
	船舶海洋工学	6102	
生物科学	地球・資源システム工学	6103	
	核融合学	6104	
	原子力学	6105	
	エネルギー学	6106	
	分子生物学	6701	
基礎生物学	構造生物化学	6702	
	機能生物化学	6703	
	生物物理学	6704	
	細胞生物学	6705	
	発生生物学	6706	
人類学	植物分子・生理科学	6801	
	形態・構造	6802	
	動物生理・行動	6803	
	遺伝・染色体動態	6804	
	進化生物学	6805	
生産環境農学	生物多様性・分類	6806	
	生態・環境	6807	
	自然人類学	6901	
	応用人類学	6902	
	遺伝育種科学	7001	
農芸化学	作物生産科学	7002	
	園芸科学	7003	
	植物保護科学	7004	
	植物栄養学・土壌学	7101	
	応用微生物学	7102	
森林園科学	応用生物化学	7103	
	生物有機化学	7104	
	食品科学	7105	
	森林科学	7201	
	木質科学	7202	
水圏応用科学	水圏生産科学	7301	
	水圏生命科学	7302	
	経営・経済農学	7401	
	社会・開発農学	7402	
	地域環境工学・計画学	7501	
社会経済農学	農業環境・情報工学	7502	
	動物生産科学	7601	
	獣医学	7602	
	統合動物科学	7603	
	昆虫科学	7701	
境界農学	環境農学(含ランドスケープ科学)	7702	
	応用分子細胞生物学	7703	

分科・細目コード表

RPD・海特用

分野	分科	細目	分科・細目 コード
医 歯 薬 学	薬学	化学系薬学	7801
		物理系薬学	7802
		生物系薬学	7803
		薬理系薬学	7804
		天然資源系薬学	7805
		創薬化学	7806
		環境・衛生系薬学	7807
		医療系薬学	7808
	基礎医学	解剖学一般(含組織学・発生学)	7901
		生理学一般	7902
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	7903
		薬理学一般	7904
		医化学一般	7905
		病態医化学	7906
		人類遺伝学	7907
		人体病理学	7908
		実験病理学	7909
		寄生虫学(含衛生動物学)	7910
		細菌学(含真菌学)	7911
		ウイルス学	7912
		免疫学	7913
		境界医学	医療社会学
	応用薬理学		8002
	病態検査学		8003
	疼痛学		8004
	社会医学	疫学・予防医学	8101
		衛生学・公衆衛生学	8102
		病院・医療管理学	8103
		法医学	8104
	内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学)	8201
		消化器内科学	8202
		循環器内科学	8203
		呼吸器内科学	8204
		腎臓内科学	8205
		神経内科学	8206
		代謝学	8207
		内分泌学	8208
		血液内科学	8209
		膠原病・アレルギー内科学	8210
		感染症内科学	8211
		小児科学	8212
		胎児・新生児医学	8213
		皮膚科学	8214
		精神神経科学	8215
		放射線科学	8216
		外科系臨床医学	外科学一般
	消化器外科学		8302
	心臓血管外科学		8303
	呼吸器外科学		8304
	脳神経外科学		8305
	整形外科学		8306
	麻酔科学		8307
	泌尿器科学		8308
	産婦人科学		8309
	耳鼻咽喉科学		8310
	眼科学		8311
	小児外科学		8312
形成外科学	8313		
救急医学	8314		
歯学	形態系基礎歯科学	8401	
	機能系基礎歯科学	8402	
	病態科学系歯学・歯科放射線学	8403	
	保存治療系歯学	8404	
	補綴・理工系歯学	8405	
	歯科医用工学・再生歯学	8406	
	外科系歯学	8407	
	矯正・小児系歯学	8408	
	歯周治療系歯学	8409	
社会系歯学	8410		
看護学	基礎看護学	8501	
	臨床看護学	8502	
	生涯発達看護学	8503	
	高齢看護学	8504	
		地域看護学	8505

「分科・細目表」付表キーワード一覧

このキーワードは、当該分科・細目の内容等を、申請者が理解しやすくするために例示として付したものであり、キーワードに掲げていない内容を当該分科・細目から排除するものではない。

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総 合	情報学基礎	情報学基礎理論	1001	(1)計算理論、(2)オートマトン理論・形式言語理論、(3)プログラム理論、(4)計算量理論、(5)アルゴリズム理論、(6)暗号系、(7)離散構造、(8)計算論の学習理論、(9)量子計算理論、(10)数理論理学
		数理情報学	1002	(1)最適化理論、(2)数理ファイナンス、(3)数理システム理論、(4)システム制御理論、(5)システム分析、(6)システム方法論、(7)システムモデリング、(8)システムシミュレーション、(9)組み合わせ最適化、(10)待ち行列論
		統計科学	1003	(1)調査・実験計画、(2)多変量解析、(3)時系列解析、(4)分類・パターン認識、(5)統計的推測、(6)統計計算・コンピュータ支援統計、(7)統計的予測・制御、(8)モデル選択、(9)医薬生物・ゲノム統計解析、(10)行動計量分析、(11)空間・環境統計、(12)統計教育、(13)統計の品質管理、(14)統計的学習理論、(15)社会調査の計画と解析、(16)データサイエンス
	計算基盤	計算機システム	1101	(1)計算機アーキテクチャ、(2)回路とシステム、(3)LSI設計技術、(4)リコンフィギュラブルシステム、(5)高信頼アーキテクチャ、(6)低消費電力技術、(7)ハード・ソフト協調設計、(8)組み込みシステム
		ソフトウェア	1102	(1)プログラミング言語、(2)プログラミング方法論、(3)プログラミング言語処理系、(4)並列・分散処理、(5)オペレーティングシステム、(6)高信頼システム、(7)仮想化技術、(8)ソフトウェアセキュリティ、(9)クラウドコンピューティング基盤、(10)ソフトウェア工学、(11)仕様記述・検証、(12)開発環境、(13)開発管理
		情報ネットワーク	1103	(1)ネットワークアーキテクチャ、(2)ネットワークプロトコル、(3)モバイルネットワーク、(4)オーバーレイネットワーク、(5)センサーネットワーク、(6)トラフィックエンジニアリング、(7)ネットワーク運用技術、(8)ユビキタスコンピューティング、(9)サービス構築基盤技術、(10)情報家電システム
		マルチメディア・データベース	1104	(1)データモデル、(2)関係データベース、(3)データベースシステム、(4)マルチメディア情報獲得、(5)マルチメディア情報処理、(6)マルチメディア情報表現、(7)マルチメディア情報生成、(8)情報検索、(9)構造化文書、(10)コンテンツ流通・管理、(11)地理情報システム、(12)メタデータ
		高性能計算	1105	(1)並列処理、(2)分散処理、(3)グリッド・クラウドコンピューティング、(4)数値解析、(5)可視化、(6)コンピュータグラフィクス、(7)高性能計算アプリケーション
		情報セキュリティ	1106	(1)アクセス制御、(2)個人識別、(3)暗号、(4)認証、(5)セキュリティ評価・監査、(6)ウイルス対策、(7)ネットワークセキュリティ、(8)不正アクセス対策、(9)ソフトウェア保護、(10)プライバシー保護、(11)情報フィルタリング
	人間情報学	認知科学	1201	(1)進化・発達・学習、(2)認知・記憶・教育、(3)思考・推論・問題解決、(4)感覚・知覚・感性、(5)感情・情動・行動、(6)認知心理学、(7)比較認知心理学、(8)認知哲学、(9)脳認知科学、(10)認知言語学、(11)行動意思決定論、(12)認知工学、(13)認知考古学、(14)認知モデル、(15)社会性、(16)法と心理学、(17)安全・ヒューマンファクターズ
		知覚情報処理	1202	(1)パターン認識、(2)画像情報処理、(3)コンピュータビジョン、(4)コンピュータショナルフォトグラフィ、(5)人間計測、(6)知的映像編集、(7)視覚メディア処理、(8)画像データベース、(9)音声情報処理、(10)音響情報処理、(11)音声音響データベース、(12)情報センシング、(13)センサ融合・統合、(14)センシングデバイス・システム、(15)接触センシング処理
		ヒューマンインタフェース・インタラクション	1203	(1)ヒューマンインタフェース、(2)マルチモーダルインタフェース、(3)ヒューマンコンピュータインタラクション、(4)CSCW、(5)グループウェア、(6)バーチャルリアリティ、(7)拡張現実、(8)複合現実感、(9)臨場感コミュニケーション、(10)ウェアラブル機器、(11)ユーザビリティ、(12)人間工学
		知能情報学	1204	(1)探索・論理・推論アルゴリズム、(2)機械学習、(3)知識獲得、(4)知識ベースシステム、(5)知的システムアーキテクチャ、(6)知能情報処理、(7)自然言語処理、(8)知識発見とデータマイニング、(9)オントロジー、(10)ヒューマンエージェントインタラクション、(11)マルチエージェントシステム
ソフトコンピューティング		1205	(1)ニューラルネットワーク、(2)遺伝アルゴリズム、(3)ファジィ理論、(4)カオス、(5)フラクタル、(6)複雑系、(7)確率の情報処理	
知能ロボティクス		1206	(1)知能ロボット、(2)行動環境認識、(3)モーションプランニング、(4)感覚行動システム、(5)自律システム、(6)デジタルヒューマンモデル、(7)実世界情報処理、(8)物理エージェント、(9)インテリジェントルーム	
感性情報学		1207	(1)感性デザイン学、(2)感性表現学、(3)感性認識学、(4)感性認知科学・感性心理学、(5)感性ロボティクス、(6)感性計測評価、(7)あいまいと感性、(8)感知情報処理、(9)感性データベース、(10)感性インタフェース、(11)感性生理学、(12)感性材料製品、(13)感性産業、(14)感性環境学、(15)感性社会学、(16)感性哲学、(17)感性教育学、(18)感性脳科学、(19)感性経営学	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総	情報学フロンティア	生命・健康・医療情報学	1301	(1)バイオインフォマティクス、(2)ゲノム情報処理、(3)プロテオーム情報処理、(4)コンピュータシミュレーション、(5)生命情報、(6)生体情報、(7)ニューロインフォマティクス、(8)脳型情報処理、(9)人工生命システム、(10)生命分子計算、(11)DNAコンピュータ、(12)医療情報、(13)画像診断、(14)遠隔診断治療、(15)保健情報、(16)健康情報、(17)医用画像、(18)細胞内ロジスティクス解析
		ウェブ情報学・サービス情報学	1302	[ウェブ情報学] (1)ウェブシステム、(2)ウェブコンピューティング、(3)ソーシャルウェブ、(4)セマンティックウェブ、(5)推薦システム、(6)ウェブサービス、(7)ウェブマイニング、(8)ウェブインテリジェンス、(9)社会ネットワーク分析、(10)ネットワークコミュニティ
				[サービス情報学] (11)サービス工学、(12)サービスマネジメント、(13)サービス品質、(14)待ち行列、(15)ビジネスモデル、(16)サービス指向アーキテクチャ、(17)知識マネジメント、(18)教育サービス、(19)医療・福祉サービス、(20)高度交通システム、(21)金融サービス、(22)社会・環境サービス、(23)スマートグリッド、(24)技術マネジメント
		図書館情報学・人文社会情報学	1303	[図書館情報学] (1)図書館学、(2)情報サービス、(3)図書館情報システム、(4)デジタルアーカイブズ、(5)情報組織化、(6)情報検索、(7)情報メディア、(8)計量情報学・科学計量学、(9)情報資源の構築・管理
				[人文社会情報学] (10)情報倫理、(11)メディア環境、(12)文学情報、(13)歴史情報、(14)情報社会学、(15)法律情報、(16)情報経済学、(17)経営情報、(18)教育情報、(19)芸術情報、(20)医療情報、(21)科学技術情報、(22)知的財産情報、(23)地理情報、(24)地域情報化
		学習支援システム	1304	(1)メディア・リテラシー、(2)学習メディア、(3)ソーシャルメディア、(4)学習コンテンツ開発支援、(5)学習管理システム、(6)知的学習支援システム、(7)遠隔学習、(8)分散協調学習支援システム、(9)プロジェクト型学習支援システム、(10)eラーニング、(11)運用・評価
エンタテインメント・ゲーム情報学	1305	(1)音楽情報処理、(2)演奏支援、(3)3Dコンテンツ・アニメーション、(4)ゲームプログラミング、(5)ネットワークエンタテインメント、(6)メディアアート、(7)インタラクティブアート、(8)デジタルアーカイブズ、(9)デジタルミュージアム・ヴァーチャルミュージアム、(10)情報文化		
合	環境解析学	環境動態解析	1401	(1)環境変動、(2)物質循環、(3)環境計測、(4)環境モデル、(5)環境情報、(6)地球温暖化、(7)地球規模水循環変動、(8)極域環境監視、(9)化学海洋、(10)生物海洋、(11)リモートセンシング
		放射線・化学物質影響科学	1402	(1)環境放射線(能)、(2)防護、(3)基礎過程、(4)線量測定・評価、(5)損傷、(6)応答、(7)修復、(8)感受性、(9)生物影響、(10)リスク評価、(11)放射線管理
				(12)トキシコロジー、(13)人体有害物質、(14)微量化学物質汚染評価、(15)内分泌かく乱物質
	環境影響評価	1403	(1)陸圏・水圏・大気圏影響評価、(2)生態系影響評価、(3)影響評価手法、(4)健康影響評価、(5)次世代環境影響評価、(6)極域の人間活動、(7)環境モニタリング、(8)モデルシミュレーション、(9)環境アセスメント	
環境保全学	環境技術・環境負荷低減	1501	(1)排水・排ガス・廃棄物等発生抑制、(2)適正処理・処分、(3)環境負荷低減・クローズド化、(4)汚染質除去技術、(5)騒音・振動・地盤沈下等対策、(6)環境分析、(7)簡易分析	
環境モデリング・保全修復技術	1502	(1)環境負荷解析、(2)汚染調査と評価、(3)汚染除去・修復技術、(4)汚染質動態とモデリング、(5)生物機能利用、(6)環境・生態系影響、(7)土壌・地下水・水環境		
環境材料・リサイクル	1503	(1)循環再生材料設計・生産、(2)3R、(3)有価物回収、(4)分離精製・高純度化、(5)適性処理・処分、(6)リサイクルとLCA、(7)環境配慮設計、(8)グリーンプロダクション、(9)ゼロエミッション、(10)リサイクル化学		
環境リスク制御・評価	1504	(1)汚染質評価、(2)モニタリング、(3)移動・拡散・蓄積、(4)環境基準、(5)生活環境・健康項目、(6)排出基準、(7)越境汚染評価、(8)化学物質管理、(9)暴露シナリオ、(10)リスク評価、(11)予防原則、(12)生分解性・濃縮性、(13)遺伝毒性・生態毒性、(14)リスクコミュニケーション		

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総	環境創成学	自然共生システム	1601	(1)生物多様性、(2)生態系サービス、(3)生態リスク、(4)生態系影響解析、(5)生態系管理・保全、(6)リモートセンシング、(7)景観生態、(8)生態系修復、(9)代償措置、(10)生態工学
		持続可能システム	1602	(1)物質循環システム、(2)低炭素社会、(3)再生可能エネルギー、(4)バイオマス利活用、(5)都市・地域環境創生、(6)水資源・水システム、(7)産業共生、(8)物質・エネルギー収支解析、(9)ライフサイクル評価、(10)統合的環境管理
		環境政策・環境社会システム	1603	(1)環境理念、(2)環境正義、(3)環境経済、(4)環境法、(5)環境情報、(6)環境地理情報、(7)環境教育、(8)環境マネジメント、(9)環境と社会活動、(10)環境規格・環境監査、(11)合意形成、(12)安全・安心、(13)環境CSR、(14)社会システム、(15)公共システム管理、(16)持続可能発展
	デザイン学	デザイン学	1651	(1)情報デザイン(コミュニケーション、メディア情報、コンテンツ、インタラクション、インタフェース)、(2)環境デザイン(建築、都市、ランドスケープ)、(3)工業デザイン(プロダクトデザイン、ユニバーサルデザイン)、(4)芸術、(5)美学、(6)デザイン史、(7)デザイン論、(8)デザイン規格、(9)デザイン設計支援、(10)空間・音響モデリング、(11)デザイン評価分析、(12)デザイン教育
	生活科学	家政・生活学一般	1701	(1)生活経営、(2)家庭経済・消費生活、(3)家族、(4)ライフスタイル、(5)生活情報、(6)生活文化、(7)高齢者生活、(8)生活福祉、(9)保育・子育て、(10)家政・家庭科教育、(11)消費者教育、(12)家政学・生活原論、(13)生活素材・生活財、(14)生活デザイン、(15)ものづくり
		衣・住生活学	1702	(1)衣生活、(2)衣環境、(3)染色・整理、(4)被服設計・生産、(5)被服材料、(6)服飾史、(7)服飾文化、(8)被服心理、(9)住生活、(10)住居計画、(11)住居管理、(12)住居史、(13)インテリア・住居・住環境デザイン、(14)住居環境・設備、(15)住居材料・構造、(16)地域居住・まちづくり、(17)子育て環境、(18)高齢者居住、(19)福祉住環境、(20)住文化、(21)住教育・住情報
		食生活学	1703	[食品と調理] (1)調理と加工、(2)食品と貯蔵、(3)食嗜好と評価、(4)食素材、(5)調理と機能性成分、(6)フードサービス、(7)食文化、(8)テクスチャー、(9)咀嚼・嚥下 [食生活と健康] (10)健康と食生活、(11)食と栄養、(12)食教育、(13)食習慣、(14)食行動、(15)食情報、(16)保健機能食品、(17)食と環境、(18)食生活の評価、(19)フードマネージメント
	科学教育・教育工学	科学教育	1801	(1)高等教育(数学、物理、化学、生物、情報、天文、地球惑星、学際)、(2)初中等教育(算数・数学、理科、情報)、(3)工学教育 (4)科学リテラシー、(5)実験・観察、(6)科学教育カリキュラム、(7)環境教育、(8)産業・技術教育、(9)科学と社会・文化、(10)科学教員養成、(11)科学コミュニケーション
		教育工学	1802	(1)カリキュラム・教授法開発、(2)教授学習支援システム、(3)分散協調教育システム、(4)ヒューマン・インターフェース (5)教材情報システム、(6)メディアの活用、(7)遠隔教育、(8)eラーニング、(9)情報教育、(10)メディア教育、(11)学習環境、(12)教師教育、(13)授業
	科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史	1901	(1)科学社会学、(2)科学史、(3)技術史、(4)医学史、(5)産業考古学、(6)科学哲学・科学基礎論、(7)科学技術社会論(STS)
文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学(A)	2001	(1)年代測定、(2)材質分析、(3)製作技法、(4)保存科学、(5)遺跡探査、(6)動植物遺体・人骨、(7)文化財・文化遺産、(8)文化資源、(9)文化財政策	
	文化財科学・博物館学(B)	2002	(10)博物館展示学、(11)博物館教育学、(12)博物館情報学、(13)博物館経営学、(14)博物館行財政学、(15)博物館資料論、(16)博物館学史	
地理学	地理学	2101	(1)地理学一般、(2)土地利用・景観、(3)環境システム、(4)地域計画、(5)地図・地誌・地理教育、(6)地形、(7)気候、(8)水文、(9)地理情報システム、(10)リモートセンシング、(11)植生・土壌、(12)ツーリズム	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総 合	社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201	[社会システム工学] (1)社会工学、(2)社会システム、(3)政策科学、(4)開発計画、(5)経営工学、(6)経営システム、(7)OR、(8)品質管理、(9)インダストリアルエンジニアリング、(10)モデリング、(11)ロジスティクス、(12)マーケティング、(13)ファイナンス、(14)プロジェクトマネジメント、(15)環境管理
				[安全システム] (16)安全工学、(17)製品・設備・システム安全、(18)リスクマネジメント、(19)危機管理、(20)火災・爆発防止、(21)安全情報、(22)安心の社会技術(避難、群衆誘導、情報伝達、ハザードマップ)、(23)リスクベース工学、(24)診断・回生・維持管理、(25)機器・人間の信頼性、(26)労働安全衛生
		自然災害科学・防災学	2202	[地震・火山防災] (1)地震動、(2)液化化、(3)活断層、(4)津波、(5)火山噴火、(6)火山噴出物・土石流、(7)地震災害、(8)火山災害、(9)被害予想・分析・対策、(10)建造物防災
				[自然災害] (11)気象災害、(12)水災害、(13)地盤災害、(14)土砂流、(15)濁水、(16)雪氷災害、(17)自然災害予測・分析・対策、(18)ライフライン防災、(19)地域防災計画・政策、(20)復旧・復興工学、(21)災害リスク評価
	人間医工学	生体医工学・生体材料学	2301	[生体医工学] (1)医用画像・バイオイメーキング、(2)生体モデリング・フィジオーム、(3)生体シミュレーション、(4)生体情報・計測、(5)人工臓器学、(6)再生医工学、(7)生体物性、(8)生体制御・治療、(9)バイオメカニクス、(10)細胞バイオメカニクス、(11)ナノバイオシステム、(12)医用物理学、(13)超音波医科学、(14)医用生理活性物質応用、(15)バイオインスパイアードシステム、(16)放射線技術工学
				[生体材料学] (17)バイオマテリアル、(18)生体機能材料、(19)細胞・組織工学材料、(20)生体適合材料、(21)ナノバイオ材料、(22)再生医工学材料、(23)薬物送達システム、(24)刺激応答材料、(25)遺伝子・核酸工学材料
		医用システム	2302	(1)医用超音波システム、(2)画像診断システム、(3)検査・診断システム、(4)低侵襲治療システム、(5)遠隔診断治療システム、(6)臓器保存・治療システム、(7)医療情報システム、(8)コンピュータ外科学、(9)医用ロボット
		医療技術評価学	2303	(1)レギュラトリーサイエンス、(2)安全性評価、(3)臨床研究、(4)医療技術倫理、(5)医療機器
		リハビリテーション科学・福祉工学	2304	[リハビリテーション科学] (1)リハビリテーション医学、(2)障害学、(3)理学療法学、(4)作業療法学、(5)言語聴覚療法学、(6)医療社会福祉学、(7)人工感覚器、(8)老年学、(9)臨床心理療法学
				[福祉工学] (10)健康・福祉工学、(11)生活支援技術、(12)介護予防・支援技術、(13)社会参加、(14)バリアフリー、(15)ユニバーサルデザイン、(16)福祉・介護用ロボット、(17)生体機能代行、(18)福祉用具・支援機器、(19)ヒューマンインターフェース、(20)看護工学
	健康・スポーツ科学	身体教育学 (A)	2401	[身体の仕組みと発達メカニズム] (1)教育生理学、(2)身体システム学、(3)生体情報解析、(4)脳高次機能学、(5)身体発育発達学、(6)感覚と運動発達学
				[心身の教育と文化] (7)感性の教育、(8)身体環境論、(9)運動指導論、(10)体育科教育、(11)フィットネス、(12)身体運動文化論、(13)身体性哲学、(14)死生観の教育、(15)体育心理学、(16)情動の科学、(17)野外教育、(18)舞踊教育、(19)ジェンダー教育、(20)成年・老年期の体育、(21)武道論、(22)運動適応生命学
スポーツ科学 (A)		2403	[スポーツ科学] (1)スポーツ哲学、(2)スポーツ史、(3)スポーツ心理学、(4)スポーツ経営学、(5)スポーツ教育学、(6)トレーニング科学、(7)スポーツバイオメカニクス、(8)コーチング、(9)スポーツ・タレント、(10)障害者スポーツ、(11)スポーツ社会学、(12)スポーツ環境学、(13)スポーツ文化人類学	
スポーツ科学 (B)		2404	[スポーツ医科学] (14)スポーツ生理学、(15)スポーツ生化学、(16)スポーツ栄養学、(17)エネルギー代謝、(18)トレーニング医科学、(19)スポーツ障害、(20)ドーピング	
応用健康科学 (A)		2405	[健康教育・健康推進活動] (1)健康教育、(2)ヘルスプロモーション、(3)安全推進・安全教育、(4)保健科教育、(5)ストレスマネジメント、(6)喫煙・薬物乱用防止教育、(7)学校保健、(8)性・エイズ教育、(9)保健健康管理、(10)保健健康情報、(11)栄養指導、(12)心身の健康、(13)レジャー・レクリエーション	
応用健康科学 (B)		2406	[応用健康医学] (14)生活習慣病、(15)運動処方と運動療法、(16)加齢・老化、(17)スポーツ医学、(18)スポーツ免疫学	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総 合	子ども学	子ども学 (子ども環境学)	2451	(1)健康・成長、(2)発達・子育て、(3)運動・遊び、(4)人権・権利、(5)非行・逸脱、(6)社会環境、(7)文化環境、(8)物理的環境、(9)教育的環境
	生体分子科学	生物分子化学	2501	(1)天然物化学、(2)二次代謝産物、(3)生物活性物質の探索、(4)生体分子の化学修飾、(5)生体機能物質、(6)活性発現の分子機構、(7)生合成、(8)生物活性分子の設計・全合成、(9)コンビナトリアル化学、(10)化学生態学、(11)メタボローム解析
		ケミカルバイオロジー	2502	(1)生体内機能発現、(2)医薬品探索、(3)診断薬探索、(4)農薬開発、(5)化合物ライブラリー、(6)構造活性相関、(7)化学プローブ、(8)分子イメージング、(9)生体分子計測、(10)細胞内化学反応、(11)ポストゲノム創薬、(12)プロテオミクス、(13)分子進化学
	脳科学	基盤・社会脳科学	2601	(1)ゲノム脳科学、(2)エピジェネティクス、(3)脳分子プロファイリング、(4)ナノ脳科学、(5)ケミカルバイオロジー、(6)薬物脳科学、(7)脳機能プローブ、(8)脳イメージング、(9)光脳科学、(10)ニューロングリア相互作用、(11)脳機能モデル動物、(12)脳機能行動解析、(13)脳とリズム、(14)睡眠、(15)神経心理学・言語神経科学、(16)病態脳科学、(17)認知神経科学
				(18)コミュニケーション、(19)対人関係、(20)社会行動、(21)発達・教育、(22)感性・情動・感情、(23)価値・報酬・懲罰、(24)動機づけ、(25)ニューロエコノミクス・ニューロマーケティング、(26)政治脳科学
		脳計測科学	2602	(1)脳形態計測、(2)脳機能計測・非侵襲的脳活動計測、(3)リアルタイム脳血流計測、(4)脳活動記録(レコーディング)、(5)脳情報読み出し(デコーディング)、(6)感覚情報、(7)運動情報、(8)認知情報、(9)高次脳機能計測、(10)脳情報処理、(11)脳機能操作、(12)ブレインマシンインターフェイス

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード	
総合人文社会	地域研究	地域研究	2701	(1)ヨーロッパ、(2)ロシア・スラブ地域、(3)北アメリカ、(4)中・南アメリカ、(5)東アジア、(6)東南アジア、(7)南アジア、(8)西アジア・中央アジア、(9)アフリカ、(10)オセアニア、(11)世界、(12)地域間比較研究、(13)援助・地域協力	
	ジェンダー	ジェンダー	2801	(1)性差・性別役割、(2)セクシュアリティ、(3)思想・運動・歴史、(4)法・政治、(5)経済・労働、(6)社会政策・社会福祉、(7)身体・表現・メディア、(8)科学技術・医療・生命、(9)教育・発達、(10)開発、(11)暴力・売買春、(12)比較文化、(13)女性学・男性学・クイア・スタディーズ、(14)キャリア、(15)男女共同参画、(16)国際比較	
人文学	哲学	哲学・倫理学	2901	(1)哲学原論・各論、(2)倫理学原論・各論、(3)西洋哲学、(4)西洋倫理学、(5)日本哲学、(6)日本倫理学、(7)比較哲学	
		中国哲学・印度哲学・仏教学	2902	(1)中国哲学・思想、(2)中国仏教、(3)道教、(4)儒教 (5)印度哲学・思想、(6)仏教学・仏教史全般	
		宗教学	2903	(1)宗教学全般、(2)宗教史、(3)宗教社会学、(4)宗教哲学、(5)比較宗教学	
		思想史	2904	(1)西洋思想史、(2)東洋・日本思想史、(3)比較思想史、(4)宗教思想史、(5)社会思想史、(6)政治思想史、(7)科学思想史、(8)芸術思想史	
	芸術学	美学・芸術諸学	3001	(1)美学、(2)芸術哲学・芸術論、(3)音楽学・音楽史、(4)芸術諸学	
		美術史	3002	(1)日本・東洋美術史、(2)西洋美術史、(3)比較美術史、(4)図像学・宗教美術史、(5)建築史、(6)工芸・意匠・服飾史	
		芸術一般	3003	(1)表象文化論、(2)大衆芸術、(3)映画論、(4)舞台芸術論、(5)芸術政策・産業、(6)芸術表現、(7)メディア芸術	
	文学	日本文学	3101	(1)日本文学一般、(2)古代文学、(3)中世文学、(4)近世文学、(5)近・現代文学、(6)漢文学、(7)関連書誌・文献、(8)関連文学理論・文学批評・比較文学	
		英米・英語圏文学	3102	(1)英文学、(2)米文学、(3)英語圏文学、(4)関連文学理論・文学批評・書誌・文献、(5)比較文学	
		ヨーロッパ文学	3103	(1)仏文学・仏語圏文学、(2)独文学・独語圏文学、(3)ロシア東欧文学、(4)その他のヨーロッパ語系文学、(5)西洋古典学、(6)関連文学理論・文学批評・書誌・文献、(7)比較文学	
		中国文学	3104	(1)中国文学、(2)関連書誌・文献、(3)関連文学批評・文学理論、(4)比較文学	
		文学一般	3105	(1)文学理論・批評、(2)比較文学論、(3)諸地域・諸言語の文学	
	言語学	言語学	言語学	3201	(1)音声学、(2)音韻論、(3)形態論、(4)統語論、(5)意味論、(6)語用論、(7)談話研究、(8)文字論、(9)辞書論 (10)社会言語学、(11)心理言語学、(12)言語の生物学的基盤、(13)歴史言語学、(14)仏語学、(15)独語学、(16)中国語学、(17)その他の語学、(18)危機・少数言語、(19)神経言語学、(20)コーパス言語学
					日本語学
		英語学	3203	(1)音声・音韻、(2)文法、(3)語彙・意味、(4)文体、(5)英語史、(6)英語学史、(7)英語の多様性	
日本語教育		3204	(1)日本語教育制度・言語政策、(2)教師論・教室研究、(3)教授法・カリキュラム、(4)第二言語習得理論、(5)教育工学・教材・教育メディア、(6)母語保持・バイリンガル教育、(7)異文化理解・異文化間コミュニケーション、(8)日本事情、(9)日本語教育史、(10)教育評価・測定		
外国語教育		外国語教育	3205	(1)教授法・カリキュラム論、(2)教育工学・教材・教育メディア一般、(3)eラーニング・コンピュータ支援学習(CALL) (4)第二言語習得理論、(5)早期外国語教育 (6)外国語教育制度・言語政策、(7)外国語教育論・教育史、(8)教育評価・測定、(9)外国語教師養成、(10)異文化間コミュニケーション・翻訳・通訳	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
人 文 学	史学	史学一般	3301	(1)世界史、(2)交流史、(3)比較史、(4)比較文明論、(5)グローバル化、(6)環境史、(7)島嶼・海域史、(8)史料研究
		日本史	3302	(1)古代史、(2)中世史、(3)近世史、(4)近現代史、(5)地方史、(6)文化史、(7)宗教史、(8)環境史、(9)災害史、(10)都市史、(11)農村史、(12)日本史一般、(13)交流史、(14)史料研究
		アジア史・アフリカ史	3303	(1)中国古代・中近世史、(2)中国近現代史、(3)東アジア史、(4)東南アジア史、(5)オセアニア史、(6)南アジア史、(7)西アジア・イスラーム史、(8)中央ユーラシア史、(9)アフリカ史、(10)比較・交流史、(11)史料研究
		ヨーロッパ史・アメリカ史	3304	(1)ヨーロッパ古代史、(2)ヨーロッパ中世史、(3)西欧近現代史、(4)東欧近現代史、(5)南欧近現代史、(6)北欧近現代史、(7)南北アメリカ史、(8)比較・交流史、(9)史料研究
		考古学	3305	(1)考古学一般、(2)先史学、(3)歴史考古学、(4)日本考古学、(5)アジア考古学、(6)古代文明学、(7)物質文化学、(8)実験考古学、(9)埋蔵文化財研究、(10)情報考古学
人文地理学	人文地理学	人文地理学	3401	(1)地理思想・方法論、(2)経済・交通地理学、(3)政治・社会地理学、(4)文化地理学、(5)都市地理学、(6)農村地理学、(7)歴史地理学、(8)地域環境・災害、(9)地理教育、(10)地域計画・地域政策、(11)地誌学、(12)地理情報システム、(13)絵図・地図
		文化人類学	文化人類学・民俗学	3501
社 会 科 学	法学	基礎法学	3601	(1)法哲学・法理学、(2)ローマ法、(3)法制史、(4)法社会学、(5)比較法、(6)外国法、(7)法政策学・立法学、(8)法と経済
		公法学	3602	(1)憲法、(2)行政法、(3)租税法、(4)国法学・憲法史、(5)憲法訴訟、(6)比較憲法・EU法、(7)行政組織法、(8)行政手続法、(9)行政救済法、(10)国際税法
		国際法学	3603	(1)国際公法、(2)国際私法、(3)国際人権・国籍法、(4)国際組織法、(5)国際経済法、(6)国際民事手続法、(7)国際取引法
		社会法学	3604	(1)労働法、(2)経済法、(3)社会保障法、(4)教育法
		刑事法学	3605	(1)刑法、(2)刑事訴訟法、(3)犯罪学、(4)刑事政策、(5)少年法、(6)法と心理
		民事法学	3606	(1)民法、(2)商法、(3)民事訴訟法、(4)会社法・企業組織法、(5)金融法、(6)証券法、(7)保険法、(8)倒産法、(9)紛争処理法制、(10)民事執行法
		新領域法学	3607	(1)環境法、(2)医事法、(3)情報・メディア法、(4)知的財産法、(5)法とジェンダー、(6)法学教育・法曹論・法教育、(7)法人・信託、(8)消費者法、(9)交通法、(10)土地法・住宅法、(11)司法制度論
政治学	政治学	政治学	3701	(1)政治理論、(2)政治学方法論、(3)西洋政治思想史、(4)日本・アジア政治思想史、(5)政治史、(6)日本政治史、(7)日本政治、(8)政治過程論、(9)選挙研究、(10)新制度論、(11)政治経済学、(12)行政学、(13)地方自治、(14)比較政治、(15)公共政策
		国際関係論	3702	(1)国際理論、(2)外交史・国際関係史、(3)対外政策論、(4)安全保障論、(5)非伝統的安全保障・人間の安全保障、(6)国際政治経済論、(7)国際レジーム論、(8)国際統合論、(9)国際協調論、(10)国際交流論、(11)トランスナショナル関係、(12)グローバル・イシュー、(13)東アジア国際関係、(14)国際協力論

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
社会科学	経済学	理論経済学	3801	(1)ミクロ経済学、(2)マクロ経済学、(3)経済理論、(4)ゲーム理論、(5)行動経済学、(6)実験経済学、(7)進化経済学、(8)経済制度・体制論
		経済学説・経済思想	3802	(1)経済学説、(2)経済思想、(3)社会思想、(4)経済哲学
		経済統計	3803	(1)統計制度、(2)統計調査、(3)人口統計、(4)所得・資産分布、(5)国民経済計算、(6)計量経済学、(7)計量ファイナンス
		経済政策	3804	(1)国際経済学、(2)産業組織論、(3)経済発展論、(4)経済政策論、(5)都市経済学、(6)交通経済学、(7)地域経済学、(8)環境経済学、(9)資源経済学、(10)日本経済論、(11)経済事情
		財政・公共経済	3805	(1)財政学、(2)地方財政論、(3)公共経済学、(4)公共政策論、(5)医療経済学、(6)労働経済学、(7)社会保障論、(8)教育経済学、(9)法と経済学、(10)政治経済学
		金融・ファイナンス	3806	(1)金融論、(2)ファイナンス、(3)国際金融論、(4)企業金融、(5)保険論、(6)金融工学
		経済史	3807	(1)経済史、(2)経営史、(3)産業史
	経営学	経営学	3901	(1)経営組織、(2)経営財務、(3)経営情報、(4)経営管理、(5)企業の社会的責任、(6)経営学説
				(7)経営戦略、(8)国際経営、(9)技術経営、(10)ベンチャー企業、(11)人的資源管理
		商学	3902	(1)マーケティング、(2)消費者行動、(3)広告、(4)流通・ロジスティックス、(5)マーケティングリサーチ、(6)商業、(7)保険
	会計学	3903	(1)財務会計、(2)管理会計、(3)会計監査、(4)簿記、(5)国際会計、(6)税務会計、(7)公会計、(8)環境会計	
	社会学	社会学	4001	(1)社会哲学・社会思想、(2)社会学史、(3)社会学理論・社会学方法論、(4)社会システム、(5)社会調査法、(6)数理社会学、(7)相互行為・社会関係、(8)社会集団・社会組織、(9)制度・構造・社会変動、(10)知識・科学・技術、(11)政治・権力・国家、(12)階級・階層・社会移動
				(13)家族・親族・人口、(14)地域社会・村落・都市、(15)産業・労働、(16)福祉社会学、(17)文化・宗教・社会意識、(18)コミュニケーション・情報・メディア、(19)ジェンダー、(20)教育・学校、(21)医療社会学・障害学、(22)社会問題・社会運動、(23)差別・排除、(24)環境・公害、(25)国際社会・エスニシティ、(26)身体・スポーツ、(27)自我・アイデンティティ
		社会福祉学	4002	(1)社会福祉原論・社会福祉思想、(2)社会福祉史、(3)社会保障・社会福祉政策、(4)福祉国家・福祉社会、(5)ソーシャルワーク、(6)貧困・公的扶助、(7)子ども福祉、(8)女性福祉、(9)障害(児)者福祉、(10)高齢者福祉、(11)家族福祉、(12)地域福祉、(13)精神保健福祉・医療福祉・介護福祉、(14)司法福祉・更生保護、(15)福祉マネジメント・権利擁護・評価、(16)国際福祉・福祉NGO、(17)ボランティア・福祉NPO、(18)社会福祉教育・実習
		心理学	4101	(1)自己過程、(2)社会的認知・感情、(3)態度・信念、(4)社会的相互作用・対人関係、(5)対人コミュニケーション、(6)集団・リーダーシップ、(7)集合現象・社会現象、(8)産業・組織・人事、(9)文化、(10)社会問題、(11)環境・環境問題、(12)メディア・電子ネットワーク、(13)消費者行動
	教育心理学	4102		(1)発達、(2)親子関係、(3)発達障害、(4)パーソナリティ、(5)教授法・学習、(6)教育測定・評価、(7)教育相談、(8)対人関係・行動、(9)自己・個人内過程、(10)学校・学級・教師
	臨床心理学	4103		(1)心理的障害、(2)犯罪・非行、(3)心理アセスメント、(4)心理療法、(5)心理学的介入、(6)非言語コミュニケーション、(7)カウンセリング・学生相談、(8)心理面接過程、(9)事例研究、(10)セルフヘルプグループ、(11)セラピスト論、(12)地域援助、(13)健康心理学・健康開発、(14)心理リハビリテーション
	実験心理学	4104		(1)生理、(2)感覚・知覚・感性、(3)意識・認知・注意、(4)記憶、(5)感情・情動・動機付け、(6)思考・推論・言語、(7)学習・行動分析、(8)進化・発達・比較認知、(9)原理・歴史・心理学研究法

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
社 会 科 学	教育学	教育学	4201	(1)教育哲学、(2)教育思想、(3)教育史、(4)カリキュラム論、(5)学習指導論、(6)学力論、(7)教育方法、(8)教育評価、(9)教師教育
				(10)教育行財政、(11)学校経営、(12)学校教育、(13)幼児教育・保育、(14)生涯学習、(15)社会教育、(16)家庭教育、(17)教育政策
		教育社会学	4202	(1)教育社会学、(2)教育経済学、(3)教育人類学、(4)教育政策、(5)比較教育、(6)人材開発・開発教育、(7)学校組織・学校文化、(8)教師・生徒文化、(9)青少年問題、(10)学力問題、(11)多文化教育、(12)ジェンダーと教育、(13)教育調査法、(14)教育情報システム
		教科教育学	4203	(1)各教科の教育(国語・算数・数学、理科、社会、地理・歴史、公民、生活、音楽、図画工作・美術工芸、家庭、技術、英語、情報)、(2)専門教科の教育(工業、商業、農業、水産、看護、福祉)
				(3)カリキュラム構成・開発、(4)教材開発、(5)教科外教育(総合的学習、道徳、特別活動)、(6)生活指導・生徒指導、(7)進路指導、(8)教員養成
特別支援教育	4204	(1)理念・思想・歴史、(2)制度・政策・行政、(3)心理学的臨床・実験、(4)アセスメント、(5)指導・支援・評価、(6)支援体制・コーディネーター、(7)コンサルテーション・カウンセリング、(8)家族・権利擁護、(9)共生社会・インクルージョン、(10)早期発見・早期支援、(11)通常学級・リソースルーム、(12)特別支援学校、(13)高等教育・キャリア教育、(14)発達障害・情緒障害、(15)知的障害、(16)視覚障害・聴覚障害・言語障害、(17)肢体不自由・病弱・身体虚弱、(18)学習困難・不適応・非行、(19)ギフト・才能		

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総 合 理 工	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学	4301	(1)ナノ構造化学、(2)ナノ構造作製、(3)クラスター・ナノ粒子、(4)フラーレン・ナノチューブ・グラフェン、(5)メゾスコピック化学、(6)階層構造・超構造、(7)ナノ表面・界面、(8)自己組織化
		ナノ構造物理	4302	(1)ナノチューブ・グラフェン、(2)ナノ構造物性、(3)ナノ物性制御、(4)ナノマイクロ物理、(5)ナノプローブ、(6)量子情報、(7)量子効果、(8)量子ドット、(9)量子デバイス、(10)電子デバイス、(11)スピンドバイス、(12)ナノトライポロジー
		ナノ材料化学	4303	(1)ナノ材料創製、(2)ナノ材料解析・評価、(3)ナノ表面・界面、(4)ナノ機能材料、(5)ナノ構造形成・制御、(6)分子素子、(7)ナノ粒子、(8)フラーレン・ナノチューブ・グラフェン、(9)ナノカーボン材料、(10)1分子化学、(11)ナノ光デバイス、(12)分子デバイス
		ナノ材料工学	4304	(1)ナノ結晶材料・コンポジット、(2)ナノ粒子・ワイヤー・シート、(3)ナノドット・レイヤー、(4)ナノ欠陥制御、(5)ヘテロ・ホモ構造、(6)ナノ材料・創製プロセス、(7)ナノ加工・成形プロセス、(8)ナノカーボン応用、(9)ナノマイクロ構造解析・評価・試験法
		ナノバイオサイエンス	4305	(1)DNAデバイス、(2)ナノ合成、(3)分子マニピュレーション、(4)バイオチップ、(5)1分子生理・生化学、(6)1分子生体情報学、(7)1分子科学、(8)1分子イメージング・ナノ計測、(9)ゲノム工学
		ナノマイクロシステム	4306	(1)MEMS・NEMS、(2)ナノマイクロファブリケーション、(3)ナノマイクロ光デバイス、(4)ナノマイクロ化学システム、(5)ナノマイクロバイオシステム、(6)ナノマイクロメカニクス、(7)ナノマイクロセンサー
	応用物理学	応用物性	4401	(1)磁性体、(2)超伝導体、(3)誘電体、(4)光物性、(5)微粒子、(6)有機分子、(7)液晶、(8)新機能材料、(9)スピントロニクス、(10)有機・分子エレクトロニクス、(11)バイオエレクトロニクス
		結晶工学	4402	(1)金属、(2)半導体、(3)非晶質、(4)微結晶、(5)セラミックス、(6)結晶成長、(7)エピタキシャル成長、(8)結晶評価、(9)ヘテロ構造、(10)電子・光機能
		薄膜・表面界面物性	4403	(1)強誘電体薄膜、(2)カーボン系薄膜、(3)酸化物エレクトロニクス、(4)薄膜新材料、(5)表面、(6)界面、(7)真空、(8)ビーム応用、(9)走査プローブ顕微鏡、(10)電子顕微鏡
		光工学・光量子科学	4404	(1)光学素子・装置・材料、(2)光情報処理、(3)視覚工学、(4)量子エレクトロニクス、(5)レーザー、(6)非線形光学、(7)量子光学、(8)フォトニック結晶、(9)光エレクトロニクス、(10)微小光学、(11)光計測、(12)光記録、(13)光制御、(14)光プロセッシング
		プラズマエレクトロニクス	4405	(1)プラズマ、(2)プラズマプロセス、(3)プラズマ応用、(4)反応性プラズマ、(5)プラズマ化学、(6)プラズマ処理、(7)プラズマ計測
		応用物理学一般	4406	(1)力、(2)熱、(3)音、(4)振動、(5)電磁気、(6)物理計測・制御、(7)標準、(8)センサー、(9)エネルギー変換、(10)放射線、(11)加速器
	量子ビーム科学	量子ビーム科学	4501	(1)加速器要素技術開発、(2)量子ビーム測定手法、(3)データ処理・解析手法、(4)検出器、(5)量子ビーム産業応用、(6)量子ビーム医療応用、(7)小型量子ビーム発生技術、(8)レーザー、(9)X線、(10)ガンマ線、(11)放射光、(12)中性子、(13)ミュオン、(14)電子・陽電子、(15)ニュートリノ、(16)イオンビーム、(17)陽子ビーム、(18)その他の量子ビーム
	計算科学	計算科学	4601	(1)数理工学(数理解析・計画・設計・最適化)、(2)計算力学、(3)数値シミュレーション、(4)マルチスケール、(5)大規模計算、(6)超並列計算(並列化計算、3次元計算)、(7)数値計算手法、(8)先進アルゴリズム

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
化学	基礎化学	物理化学	5201	(1)構造化学、(2)電子状態、(3)分子動力学、(4)化学反応、(5)反応動力学、(6)分子分光、(7)表面・界面、(8)溶液、(9)クラスター、(10)理論化学、(11)生物物理化学
		有機化学	5202	(1)構造有機化学、(2)反応有機化学、(3)有機合成化学、(4)有機元素化学、(5)有機光化学、(6)物理有機化学、(7)理論有機化学
		無機化学	5203	(1)金属錯体化学、(2)有機金属化学、(3)無機固体化学、(4)生物無機化学、(5)核・放射化学、(6)超分子錯体、(7)多核・クラスター錯体、(8)配位高分子、(9)溶液化学、(10)ナノマテリアル、(11)結晶構造、(12)触媒、(13)元素資源
	複合化学	機能物性化学	5301	(1)光物性、(2)電子物性、(3)スピン、(4)複合物性、(5)分子素子、(6)超分子、(7)液晶、(8)結晶、(9)薄膜、(10)表面・界面、(11)コロイド・量子ドット、(12)電気化学
		合成化学	5302	(1)選択的合成、(2)錯体・有機金属触媒、(3)ファインケミカルズ、(4)不斉合成、(5)触媒設計・反応、(6)環境調和型合成、(7)反応場、(8)自動合成、(9)生体模倣合成、(10)コンビナトリアル合成、(11)有機分子触媒、(12)天然物合成、(13)合成関連資源
		高分子化学	5303	(1)高分子合成、(2)高分子反応・分解、(3)不斉重合、(4)自己組織化高分子、(5)高分子構造、(6)高分子物性、(7)機能性高分子、(8)生体関連高分子、(9)高分子錯体、(10)高分子薄膜・表面、(11)重合触媒、(12)高分子資源
		分析化学	5304	(1)サンプリング・前処理、(2)溶媒・固相抽出、(3)機器分析、(4)スペクトル分析、(5)レーザー分光、(6)質量分析、(7)X線・電子分光、(8)界面・微粒子分析、(9)電気化学分析、(10)化学・バイオセンサー、(11)分離分析、(12)クロマトグラフィー、(13)電気泳動分析、(14)流れ分析(FIA)、(15)マイクロ流路分析、(16)分析試薬、(17)環境分析、(18)有機・高分子分析、(19)バイオ分析
		生体関連化学	5305	(1)核酸関連化学、(2)タンパク質・酵素化学、(3)糖質関連化学・糖鎖工学、(4)天然物有機化学、(5)生物無機化学、(6)生体関連反応、(7)分子認識、(8)生体機能化学、(9)バイオテクノロジー、(10)生体触媒、(11)生体機能材料、(12)生体構造化学
		グリーン・環境化学	5306	(1)環境計測、(2)センサー・モニタリング、(3)汚染物質評価、(4)汚染指標物質、(5)環境評価、(6)環境情報化学、(7)汚染物質、(8)汚染除去材料、(9)環境負荷低減物質、(10)生分解性物質、(11)環境修復材料、(12)グリーンケミストリー、(13)サステイナブルケミストリー、(14)リサイクル、(15)元素回収、(16)安全化学、(17)資源分析
		エネルギー関連化学	5307	(1)エネルギー変換、(2)低炭素化学、(3)高機能触媒、(4)光触媒、(5)分子素子材料、(6)エネルギー資源、(7)省エネルギー化学
	材料化学	有機・ハイブリッド材料	5401	(1)液晶、(2)結晶、(3)有機半導体材料、(4)有機光学材料、(5)有機無機ハイブリッド材料、(6)分子素子材料、(7)機能材料
		高分子・繊維材料	5402	(1)高分子材料物性、(2)高分子材料合成、(3)繊維材料、(4)ゴム材料、(5)ゲル、(6)高分子機能材料、(7)天然・生体高分子材料、(8)ポリマーアロイ、(9)高分子系複合材料、(10)高分子・繊維加工
		無機工業材料	5403	(1)結晶、(2)ガラス、(3)セラミックス、(4)金属材料、(5)層状・層間化合物、(6)イオン交換体、(7)イオン伝導体、(8)光触媒、(9)高機能触媒、(10)電気化学材料、(11)ナノ粒子・量子ドット、(12)多孔体
		デバイス関連化学	5404	(1)半導体デバイス、(2)電気・磁気・光デバイス、(3)生体機能応用デバイス、(4)電池、(5)分子センサー

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
工	機械工学	機械材料・材料力学	5501	(1)材料設計・プロセス・物性・評価、(2)連続体力学、(3)構造力学、(4)損傷力学、(5)破壊、(6)疲労、(7)環境強度、(8)信頼性設計、(9)生体力学、(10)ナノマイクロ材料力学、(11)バイオ材料力学
		生産工学・加工学	5502	(1)生産モデリング、(2)生産システム、(3)生産管理、(4)工程設計、(5)工作機械、(6)成形加工、(7)切削・研削加工、(8)特殊加工、(9)超精密加工、(10)ナノマイクロ加工、(11)精密位置決め・加工計測
		設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5503	(1)設計工学、(2)形状モデリング、(3)CAD・CAM・CAE、(4)創造工学、(5)機構学、(6)機械要素、(7)機能要素、(8)故障診断、(9)安全・安心設計、(10)ライフサイクル設計、(11)リサイクル設計、(12)トライボロジー、(13)ナノマイクロトライボロジー
		流体工学	5504	(1)数値流体力学、(2)流体計測、(3)圧縮・非圧縮流、(4)乱流、(5)混相流、(6)反応流、(7)非ニュートン流、(8)マイクロ流、(9)分子流体力学、(10)バイオ流体力学、(11)環境流体力学、(12)音響、(13)流体機械、(14)油空圧機器
		熱工学	5505	(1)熱物性、(2)対流、(3)伝導、(4)輻射、(5)物質輸送、(6)燃焼、(7)ナノマイクロ熱工学、(8)熱機関、(9)冷凍・空調、(10)伝熱機器、(11)エネルギー工学、(12)バイオ熱工学
		機械力学・制御	5506	(1)運動力学、(2)動的設計、(3)振動学、(4)振動解析・試験、(5)制御機器、(6)モーションコントロール、(7)振動制御、(8)機械計測、(9)耐震・免震設計、(10)交通機械制御、(11)音響情報・制御、(12)音響エネルギー
		知能機械学・機械システム	5507	(1)ロボティクス、(2)メカトロニクス、(3)ナノマイクロメカトロニクス、(4)バイオメカニクス、(5)ソフトメカニクス、(6)情報機器・知能機械システム、(7)精密機械システム、(8)人間機械システム、(9)情報システム
	電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器	5601	(1)電気エネルギー工学(発生・変換・貯蔵、省エネルギーなど)、(2)電力系統工学、(3)電気機器、(4)パワーエレクトロニクス、(5)電気有効利用、(6)電気・電磁環境、(7)照明
		電子・電気材料工学	5602	(1)電気・電子材料(半導体、誘電体、磁性体、超誘電体、有機物、絶縁体、超伝導体など)、(2)薄膜・量子構造、(3)厚膜、(4)作成・評価技術
		電子デバイス・電子機器	5603	(1)電子デバイス・集積回路、(2)回路設計・CAD、(3)光デバイス・光回路、(4)量子デバイス・スピンドデバイス、(5)マイクロ波・ミリ波・テラヘルツ波、(6)波動利用工学、(7)バイオデバイス、(8)記憶・記録、(9)表示、(10)センシングデバイス、(11)微細プロセス技術、(12)インターコネクト・パッケージのシステム化・応用
		通信・ネットワーク工学	5604	(1)電子回路網、(2)非線形理論・回路、(3)情報理論、(4)信号処理、(5)通信方式(無線、有線、衛星、光、移動)、(6)変復調、(7)符号化、(8)プロトコル、(9)アンテナ、(10)中継・交換、(11)ネットワーク・LAN、(12)マルチメディア、(13)暗号・セキュリティ
		計測工学	5605	(1)計測理論、(2)計測機器、(3)計測システム、(4)信号処理、(5)センシング情報処理
		制御・システム工学	5606	(1)制御理論、(2)システム理論、(3)知識型制御、(4)制御機器、(5)制御システム、(6)複雑系、(7)システム情報(知識)処理、(8)社会システム工学、(9)経営システム工学、(10)環境システム工学、(11)生産システム工学、(12)バイオシステム工学
土木工学		土木材料・施工・建設マネジメント	5701	(1)コンクリート、(2)鋼材、(3)高分子材料、(4)複合材料・新材料、(5)木材、(6)施工、(7)舗装・瀝青材料、(8)維持・管理、(9)建設事業計画・設計、(10)建設マネジメント、(11)地下空間、(12)土木情報学
	構造工学・地震工学・維持管理工学	5702	(1)応用力学、(2)構造工学、(3)鋼構造、(4)コンクリート構造、(5)複合構造、(6)風工学、(7)地震工学、(8)耐震構造、(9)地震防災、(10)維持管理工学	
	地盤工学	5703	(1)土質力学、(2)基礎工学、(3)岩盤工学、(4)土地地質、(5)地盤の挙動、(6)地盤と構造物、(7)地盤防災、(8)地盤環境工学、(9)トンネル工学	
	水工学	5704	(1)水理学、(2)環境水理学、(3)水文学、(4)河川工学、(5)水資源工学、(6)海岸工学、(7)港湾工学、(8)海洋工学	
	土木計画学・交通工学	5705	(1)土木計画、(2)地域都市計画、(3)国土計画、(4)防災計画・環境計画、(5)交通計画、(6)交通工学、(7)鉄道工学、(8)測量・リモートセンシング、(9)景観・デザイン、(10)土木史	
	土木環境システム	5706	(1)環境計画・管理、(2)環境システム、(3)環境保全、(4)用排水システム、(5)廃棄物、(6)土壌・水環境、(7)大気循環・騒音振動、(8)環境生態	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード	
工	建築学	建築構造・材料	5801	(1)荷重論、(2)構造解析、(3)構造設計、(4)コンクリート構造、(5)鋼構造、(6)木構造、(7)合成構造、(8)基礎構造、(9)構造材料、(10)建築工法、(11)保全技術、(12)地震防災、(13)構造制御、(14)耐震設計、(15)耐風設計	
		建築環境・設備	5802	(1)音・振動環境、(2)光環境、(3)熱環境、(4)空気環境、(5)環境設備計画、(6)環境心理生理、(7)建築設備、(8)火災工学、(9)地球・都市環境、(10)環境設計	
		都市計画・建築計画	5803	(1)計画論、(2)設計論、(3)住宅論、(4)各種建物・地域施設、(5)都市・地域計画、(6)行政・制度、(7)建築・都市経済、(8)生産管理、(9)防災計画、(10)景観・環境計画	
		建築史・意匠	5804	(1)建築史、(2)都市史、(3)建築論、(4)意匠、(5)様式、(6)景観・環境、(7)保存・再生	
	材料工学	金属物性・材料	5901	(1)電子・磁気物性、(2)力学・熱・光物性、(3)界面・薄膜物性、(4)磁性・電子・情報材料、(5)超伝導・半導体材料、(6)アモルファス・金属ガラス・準結晶、(7)第一原理計算・材料設計シミュレーション、(8)原子・電子構造評価、(9)拡散・相変態・状態図	
		無機材料・物性	5902	(1)結晶構造・組織制御、(2)力学・電子・電磁・光・熱物性、(3)表面制御、(4)機能性セラミックス材料、(5)機能性ガラス材料、(6)構造用セラミックス材料、(7)カーボン材料、(8)誘電体、(9)無機材料創成・合成プロセス	
		複合材料・表界面工学	5903	(1)機能性複合材料、(2)構造用複合材料、(3)ハイブリッド・スマート・生体材料、(4)表面・粒界制御、(5)プラズマ処理・レーザー加工・表面処理、(6)耐久性・環境劣化・モニタリング・評価、(7)接合・接着・溶接、(8)易リサイクル接合・複合、(9)設計・作製プロセス・加工、(10)複合高分子	
		構造・機能材料	5904	(1)強度・破壊靱性、(2)信頼性、(3)エネルギー材料、(4)燃料電池・電池材料、(5)センサー・光機能材料、(6)生体・医療・福祉材料、(7)多機能材料、(8)社会基盤構造材料、(9)機能性高分子材料	
		材料加工・組織制御工学	5905	(1)塑性加工・成形、(2)加工・熱処理、(3)精密・特殊加工プロセス、(4)結晶・組織制御、(5)電気化学プロセス、(6)粉末プロセス・粉末冶金、(7)薄膜プロセス・めっき・配線、(8)電極触媒・作用	
		金属・資源生産工学	5906	(1)反応・分離・精製、(2)融体・凝固、(3)鋳造、(4)結晶育成・成長、(5)各種製造プロセス、(6)エコマテリアル化・省エネルギープロセス、(7)希少資源代替プロセス・ユビキタス化、(8)環境浄化・低負荷・環境調和、(9)リサイクル・循環・再利用・変換、(10)資源分離・保障・確保	
	プロセス・化学工学	化工物性・移動操作・単位操作	6001	(1)平衡・輸送物性、(2)流動・伝熱・物質移動操作、(3)蒸留、(4)抽出、(5)吸収、(6)吸着、(7)イオン交換、(8)膜分離、(9)異相分離、(10)超高度分離、(11)攪拌・混合操作、(12)粉粒体操作、(13)晶析操作、(14)薄膜・微粒子形成操作、(15)高分子成形加工操作	
		反応工学・プロセスシステム	6002	(1)気・液・固・超臨界流体反応操作、(2)新規反応場、(3)反応速度、(4)反応機構、(5)反応装置、(6)材料合成プロセス、(7)重合プロセス、(8)計測、(9)センサー、(10)プロセス制御、(11)プロセスシステム設計、(12)プロセス情報処理、(13)プロセス運転・設備管理	
		触媒・資源化学プロセス	6003	(1)触媒反応、(2)触媒調製化学、(3)触媒機能解析、(4)エネルギー変換プロセス、(5)化石燃料有効利用技術、(6)資源・エネルギー有効利用技術、(7)省資源・省エネルギー技術、(8)燃焼技術	
		生物機能・バイオプロセス	6004	(1)生体触媒工学、(2)生物機能工学、(3)食品工学、(4)医用化学工学、(5)バイオ生産プロセス、(6)生物環境プロセス、(7)マイクロ・ナノバイオプロセス、(8)応用生物電気化学、(9)バイオリクター、(10)バイオセンサー、(11)バイオセパレーション、(12)バイオリファイナリー、(13)生物情報工学	
	学	総合工学	航空宇宙工学	6101	(1)航空宇宙流体力学、(2)構造・材料、(3)振動・強度、(4)誘導・航法・制御、(5)推進・エンジン、(6)飛行力学、(7)航空宇宙システム、(8)設計・計装、(9)特殊航空機、(10)宇宙利用・探査、(11)航空宇宙環境
			船舶海洋工学	6102	(1)推進・運動性能、(2)材料・構造力学、(3)船舶海洋流体力学、(4)計画・設計・生産システム、(5)建造・艦装、(6)海上輸送システム、(7)船用機関・燃料、(8)海洋環境、(9)海洋資源・エネルギー、(10)海洋探査・機器、(11)海中・海底工学、(12)極地工学、(13)海事システム
地球・資源システム工学			6103	(1)応用地質、(2)地殻工学、(3)リモートセンシング、(4)地球計測、(5)地球システム、(6)資源探査、(7)資源開発、(8)資源評価、(9)資源処理、(10)廃棄物地下保存・処分、(11)地層汚染修復、(12)深地層開発、(13)素材資源、(14)再生可能資源・エネルギー、(15)資源経済	
核融合学			6104	(1)炉心プラズマ、(2)周辺・ダイバータプラズマ、(3)プラズマ計測、(4)核融合理論・シミュレーション、(5)プラズマ・壁相互作用、(6)プラズマ対向機器・加熱機器、(7)燃料・ブランケット、(8)低放射化材料、(9)電磁・マグネット、(10)慣性核融合、(11)核融合システム工学、(12)安全・生物影響・社会環境	
原子力学			6105	(1)放射線工学・ビーム科学、(2)炉物理・核データ、(3)原子力計測・放射線物理、(4)熱流動、(5)構造、(6)システム設計・安全工学、(7)原子力材料・核燃料、(8)同位体・放射線化学、(9)燃料サイクル、(10)バックエンド、(11)新型原子炉、(12)保健物理・環境安全、(13)原子力社会環境	
エネルギー学			6106	(1)エネルギー生成・変換、(2)エネルギー輸送・貯蔵、(3)エネルギー節約・効率利用、(4)エネルギーシステム、(5)環境調和、(6)自然エネルギーの利用	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
総合生物	神経科学	神経生理学・神経科学一般	6201	(1)分子・細胞神経科学、(2)発生・発達・再生神経科学、(3)神経内分泌学、(4)臨床神経科学、(5)神経情報処理、(6)行動神経科学、(7)計算論的神経科学、(8)システム神経生理学、(9)体性・内臓・特殊感覚
		神経解剖学・神経病理学	6202	[神経解剖学] (1)神経回路網、(2)神経組織学、(3)分子神経生物学、(4)神経微細形態学、(5)神経組織細胞化学、(6)神経発生・分化・異常、(7)神経再生・神経可塑性、(8)神経実験形態学、(9)脳画像解剖学、(10)神経細胞学
				[神経病理学] (11)神経細胞病理学、(12)分子神経病理学、(13)神経変性疾患、(14)脳発達障害・代謝性疾患、(15)認知症疾患、(16)脳循環障害、(17)脳腫瘍、(18)脊髄・末梢神経・筋肉疾患
	神経化学・神経薬理学	6203	(1)分子・細胞・神経生物学、(2)発生・分化・老化、(3)神経伝達物質・受容体、(4)細胞内情報伝達、(5)グリア細胞、(6)精神・神経疾患の病態と治療、(7)幹細胞生物学・再生・修復、(8)神経可塑性、(9)中枢・末梢神経薬理学、(10)神経創薬、(11)神経ゲノム科学	
	実験動物学	実験動物学	6301	(1)環境・施設、(2)感染症、(3)凍結保存、(4)安全性、(5)疾患モデル、(6)育種遺伝、(7)発生工学、(8)実験動物福祉、(9)動物実験技術、(10)リサーチバイオリソース、(11)評価技術
	腫瘍学	腫瘍生物学	6401	(1)ゲノム不安定性、(2)エピジェネティクス、(3)がんゲノム解析、(4)発がん、(5)炎症とがん、(6)実験動物モデル、(7)遺伝子改変動物、(8)がん遺伝子、(9)がん制御遺伝子、(10)シグナル伝達、(11)DNA複製、(12)細胞周期、(13)がん遺伝、(14)アポトーシス、(15)細胞極性、(16)細胞接着・運動、(17)浸潤・転移、(18)がん細胞の特性、(19)がん微小環境、(20)血管新生、(21)リンパ管新生、(22)幹細胞、(23)細胞老化、(24)細胞不死化
				(25)疫学研究、(26)バイオバンク、(27)遺伝子環境相互作用、(28)予防介入研究、(29)化学予防、(30)がん研究と社会の接点
		腫瘍診断学	6402	(1)ゲノム解析、(2)プロテオミクス解析、(3)発現解析、(4)がんの個性診断、(5)オーダーメイド治療、(6)薬効評価と予測、(7)バイオマーカー、(8)腫瘍マーカー、(9)分子イメージング、(10)エピゲノム、(11)m i R N A、(12)機能性R N A
		腫瘍治療学	6403	(1)抗がん物質探索・ケミカルバイオロジー、(2)化学療法、(3)分子標的治療、(4)内分泌療法、(5)ドラッグデリバリー、(6)物理療法、(7)遺伝子治療、(8)核酸治療、(9)細胞療法、(10)液性免疫、(11)細胞免疫、(12)抗体療法、(13)免疫療法、(14)ワクチン療法、(15)細胞免疫療法、(16)サイトカイン、(17)免疫抑制、(18)免疫活性化
	ゲノム科学	ゲノム生物学	6501	(1)ゲノム構造多様性、(2)動物ゲノム、(3)植物ゲノム、(4)微生物ゲノム、(5)メタゲノム、(6)オルガネラゲノム、(7)ゲノム進化、(8)ゲノム構築、(9)ゲノム維持修復、(10)ゲノム機能発現、(11)遺伝子発現調節、(12)トランスクリプトーム、(13)プロテオーム、(14)メタボローム、(15)エピゲノム、(16)比較ゲノム、(17)生物多様性
ゲノム医科学		6502	(1)疾患関連遺伝子、(2)個別化医療、(3)遺伝子診断、(4)ヒトゲノム構造多様性、(5)ゲノム創薬、(6)再生医療、(7)ゲノムワイド関連解析、(8)ヒトゲノム配列再解析、(9)疾患モデル生物ゲノム、(10)疾患エピゲノミクス、(11)ヒト集団遺伝学、(12)遺伝統計学、(13)メディカルインフォマティクス、(14)ヒト・動物細菌叢	
システムゲノム科学		6503	(1)遺伝子ネットワーク、(2)蛋白質ネットワーク、(3)代謝ネットワーク、(4)発生分化、(5)合成生物学、(6)データベース生物学、(7)バイオデータベース、(8)モデル化とシミュレーション、(9)バイオインフォマティクス、(10)ゲノム解析技術、(11)機能性R N A、(12)エピゲノム制御、(13)ゲノム生物学、(14)遺伝子資源	
生物資源保全学	生物資源保全学	6601	(1)保全生物、(2)生物多様性保全、(3)系統生物保全、(4)遺伝子資源保全、(5)生態系保全、(6)在来種保全、(7)微生物保全、(8)細胞・組織・種子保存	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
生 物 学	生物科学	分子生物学	6701	(1)染色体構築・機能・分配、(2)エピジェネティクス、(3)クロマチン動態、(4)DNA複製、(5)DNA損傷・修復、(6)組換え、(7)転写・転写調節、(8)転写後調節、(9)RNA、(10)翻訳、(11)翻訳後修飾、(12)超分子複合体
		構造生物化学	6702	(1)糖質、(2)脂質、(3)核酸、(4)タンパク質、(5)酵素、(6)遺伝子及び染色体、(7)生体膜及び受容体、(8)細胞間マトリックス、(9)細胞小器官、(10)翻訳後修飾、(11)分子認識及び相互作用、(12)変性とフォールディング、(13)立体構造解析及び予測、(14)NMR、(15)質量分析、(16)X線結晶解析、(17)高分解能電子顕微鏡解析
		機能生物化学	6703	(1)酵素の触媒機構、(2)酵素の調節、(3)遺伝子の情報発現と複製、(4)生体エネルギー変換、(5)金属タンパク質、(6)生体微量元素、(7)ホルモンと生理活性物質、(8)細胞情報伝達機構、(9)膜輸送と輸送タンパク質、(10)細胞内タンパク質分解、(11)細胞骨格、(12)免疫生化学、(13)糖鎖生物学、(14)生物電気化学
		生物物理学	6704	(1)タンパク質・核酸の構造・動態・機能、(2)運動・輸送、(3)生体膜・受容体・チャンネル、(4)光生物、(5)細胞情報・動態、(6)脳・神経系の情報処理、(7)理論生物学・バイオインフォマティクス、(8)構造生物学、(9)フォールディング、(10)構造・機能予測、(11)1分子計測・操作、(12)バイオイメージング、(13)非平衡・複雑系
		細胞生物学	6705	(1)細胞構造・機能、(2)生体膜、(3)細胞骨格・運動、(4)細胞内情報伝達、(5)細胞間情報伝達、(6)細胞周期、(7)細胞質分裂、(8)核構造・機能、(9)細胞間相互作用・細胞外マトリックス、(10)タンパク質分解、(11)クロマチン、(12)オルガネラ形成・動態
		発生生物学	6706	(1)細胞分化、(2)幹細胞、(3)胚葉形成・原腸形成、(4)器官形成、(5)受精、(6)生殖細胞、(7)遺伝子発現調節、(8)発生遺伝、(9)進化発生
	基礎生物学	植物分子・生理科学	6801	(1)色素体機能・光合成、(2)植物ホルモン・成長生理・全能性、(3)オルガネラ・細胞壁、(4)環境応答、(5)植物微生物相互作用・共生、(6)代謝生理、(7)植物分子機能
		形態・構造	6802	(1)動物形態、(2)植物形態、(3)微生物・藻類形態、(4)比較内分泌、(5)分子形態学、(6)形態形成・シミュレーション、(7)組織構築、(8)微細構造、(9)顕微鏡技術・イメージング
		動物生理・行動	6803	(1)代謝生理、(2)神経生物、(3)神経行動、(4)行動生理、(5)動物生理化学
		遺伝・染色体動態	6804	(1)細胞遺伝、(2)集団遺伝、(3)進化遺伝、(4)人類遺伝、(5)遺伝的多様性、(6)発生遺伝、(7)行動遺伝、(8)変異誘発、(9)染色体再編・維持、(10)モデル生物開発、(11)トランスボゾン、(12)QTL解析、(13)エピジェネティクス
		進化生物学	6805	(1)生命起源、(2)真核生物起源、(3)オルガネラ起源、(4)多細胞起源、(5)分子進化、(6)形態進化、(7)機能進化、(8)遺伝子進化、(9)進化生物学一般、(10)比較ゲノム、(11)実験進化学
		生物多様性・分類	6806	(1)分類群、(2)分類体系、(3)進化、(4)遺伝的多様性、(5)集団・種多様性、(6)群集・生態系多様性、(7)分類形質、(8)系統、(9)種分化、(10)自然史、(11)博物館
		生態・環境	6807	(1)個体群、(2)生物社会、(3)種間関係、(4)群集、(5)生態系、(6)進化生態、(7)行動生態、(8)自然環境、(9)生理生態、(10)分子生態、(11)保全生態学
人類学	自然人類学	6901	(1)形態、(2)先史・年代測定、(3)生体機構、(4)分子・遺伝、(5)生態、(6)霊長類、(7)進化、(8)成長・老化、(9)社会、(10)行動・認知、(11)生殖・発生、(12)骨考古学、(13)地理的多様性	
	応用人類学	6902	(1)生理人類学、(2)人間工学、(3)生理的多型性、(4)環境適応能、(5)全身的協働、(6)機能的潜在性、(7)テクノ・アダプタビリティ、(8)ソマトメトリー、(9)被服、(10)生体・適応、(11)体質・健康、(12)法医人類学、(13)医療人類学	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
農	生産環境農学	遺伝育種科学	7001	(1) 遺伝子発現制御・エピゲノム、(2) 遺伝子ネットワーク、(3) オミクス解析、(4) トランスボゾン、(5) オルガネラ、(6) 生長・発生遺伝、(7) ゲノム・染色体解析、(8) 生殖・雑種・倍数性、(9) 環境ストレス、(10) 生物的ストレス、(11) 収量・バイオマス、(12) 加工適性・成分育種、(13) 遺伝育種リソース・多様性、(14) 遺伝子地図・QTL解析、(15) 遺伝子導入・変異作出、(16) ゲノム育種・マーカー育種、(17) 育種理論・インフォマティクス、(18) 有用遺伝子組換え植物作出・アセスメント
		作物生産科学	7002	(1) 食用作物、(2) 工芸作物、(3) 飼料・草地利用作物、(4) バイオ燃料植物、(5) 資源植物、(6) 栽培・作付体系、(7) 農作業体系、(8) 作物品質・食味、(9) 雑草科学、(10) 雑草制御、(11) アレロケミカル、(12) 有機農業、(13) 環境調和型作物生産、(14) ファイトレメディエーション、(15) 休耕地管理、(16) 地力維持・増強、(17) ストレス応答反応、(18) 生育環境・気候変動、(19) 生育予測・モデル
		園芸科学	7003	(1) 果樹、(2) 野菜、(3) 観賞・景観環境植物、(4) 植物生産管理技術、(5) 組換え遺伝子・遺伝子解析技術、(6) 園芸ゲノム科学・バイオインフォマティクス、(7) 受粉受精・胚発生、(8) 果実発育・成熟、(9) 生育障害・生理障害、(10) 植物成長調節物質、(11) 色素芳香成分・機能性成分、(12) 環境応答・環境調節、(13) 施設園芸・植物工場、(14) ポストハーベスト・青果物加工技術、(15) 種苗種子生産・繁殖、(16) 資源植物開発利用、(17) 生体計測・園芸ロボティクス、(18) 園芸福祉・園芸療法
		植物保護科学	7004	(1) 植物病原体、(2) 線虫・寄生性高等植物、(3) ゲノム、(4) 系統分類・進化、(5) 病原性、(6) 抵抗性、(7) 病害発生、(8) 病害診断、(9) 同定、(10) 病害防除・治療、(11) 伝染・生態・媒介、(12) 宿主特異性、(13) 植物感染生理、(14) 植物-病原体相互作用、(15) 植物生理病、(16) ポストハーベスト病害、(17) 抵抗性育種、(18) RNAサイレンシング、(19) 内生菌・共生菌 (20) 化学農薬・生物農薬、(21) 薬剤耐性・除草剤耐性、(22) 農薬障害、(23) 植物成長調整剤・プラントアクチベーター、(24) 天然生理活性物質、(25) 病害虫管理、(26) ダニ・線虫管理、(27) 雑草管理、(28) 外来植物、(29) アレロパシー、(30) 総合的病害虫管理 (IPM)、(31) 媒介昆虫、(32) 害虫個体群、(33) 天敵、(34) 侵入病害虫、(35) 昆虫分類、(36) 発生予察、(37) 鳥獣管理、(38) 環境ストレス応答・耐性、(39) 植物生育環境、(40) 耕種の防除・物理的防除、(41) 病害虫抵抗性作物、(42) 植物傷害応答、(43) 植物-昆虫相互作用
学	農芸化学	植物栄養学・土壌学	7101	(1) 植物成長・生理、(2) 植物栄養代謝、(3) 植物代謝調節、(4) 植物分子生理学、(5) 肥料、(6) 土壌生成・分類、(7) 土壌物理、(8) 土壌化学、(9) 土壌生物、(10) 土壌環境、(11) 土壌生態学、(12) 土壌肥沃度、(13) 土壌汚染防除
		応用微生物学	7102	(1) 微生物分類、(2) 発酵生産、(3) 微生物生理、(4) 微生物遺伝・育種、(5) 微生物酵素、(6) 微生物代謝、(7) 微生物機能、(8) 微生物利用学、(9) 環境微生物、(10) 二次代謝産物生産、(11) 微生物生態学、(12) 微生物制御学、(13) 遺伝子資源、(14) 遺伝子発現、(15) 代謝制御、(16) 環境・細胞応答、(17) 微生物ゲノム
		応用生物化学	7103	(1) 動物生化学、(2) 植物生化学、(3) 酵素利用学、(4) 遺伝子工学、(5) タンパク質工学、(6) 構造生物学、(7) 生物工学、(8) 代謝工学、(9) 酵素化学、(10) 糖質・脂質科学、(11) 細胞・組織培養、(12) 代謝生理、(13) 遺伝子発現、(14) 物質生産、(15) 細胞応答、(16) 情報伝達、(17) 微量元素
		生物有機化学	7104	(1) 生物活性物質、(2) 細胞機能調節物質、(3) 農薬科学、(4) 植物成長調節物質、(5) 情報分子、(6) 生合成、(7) 天然物化学、(8) ケミカルバイオロジー、(9) 物理化学、(10) 分析化学、(11) 有機合成化学、(12) 生物制御化学、(13) 分子認識、(14) 構造活性相関
		食品科学	7105	(1) 食品化学、(2) 食品生化学、(3) 食品機能、(4) 栄養化学、(5) 栄養生化学、(6) 分子栄養学、(7) ニュートリゲノミクス、(8) 食品物理学、(9) 食品分析、(10) 食品工学、(11) 食品製造・加工、(12) 食品貯蔵、(13) 食品安全性
森林園科学	森林科学	7201	(1) 生態・生物多様性、(2) 遺伝・育種、(3) 生理、(4) 分類、(5) 立地・気象、(6) 造林、(7) 病理・微生物、(8) 昆虫・動物、(9) 計画・管理、(10) 政策・経済、(11) 持続的林業、(12) 作業システム・林道・機械、(13) 治山・砂防・緑化、(14) 水資源・水循環、(15) 物質循環・フラックス、(16) 気候変動・炭素収支、(17) バイオマス、(18) 景観生態・風致・緑地管理、(19) 環境教育・森林教育	
	木質科学	7202	(1) 組織構造、(2) 材質・物性、(3) セルロース・ヘミセルロース、(4) リグニン、(5) 抽出成分・生理活性成分、(6) 微生物、(7) きのこ・木材腐朽菌、(8) 化学加工・接着、(9) 保存・文化財、(10) 乾燥、(11) 機械加工、(12) 木質材料、(13) 強度・木質構造、(14) 居住性、(15) 林産教育、(16) 木質バイオマス、(17) 紙パルプ	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
農学	水圏応用科学	水圏生産科学	7301	(1)水圏環境、(2)生物環境、(3)環境保全、(4)水質・底質、(5)海洋・物質循環、(6)藻場・干潟、(7)修復・再生、(8)環境微生物、(9)プランクトン、(10)ネクトン、(11)ベントス、(12)赤潮、(13)環境毒性、(14)水圏生態システム、(15)温暖化、(16)生物多様性、(17)リモートセンシング
				(18)分類・形態、(19)生態・行動、(20)バイオリギング、(21)資源・資源管理、(22)漁業、(23)増養殖、(24)水産動物、(25)水産植物、(26)遺伝・育種、(27)魚病・水族病理、(28)水産工学、(29)漁村社会・水産政策、(30)水産経済・経営・流通、(31)水産教育、(32)水産開発
		水圏生命科学	7302	(1)発生、(2)生理、(3)免疫・生体防御、(4)代謝・酵素、(5)水族栄養、(6)生化学、(7)分子生物学、(8)マリンゲノム、(9)遺伝子資源、(10)生物工学、(11)微生物機能、(12)糖鎖生物学、(13)ケミカルバイオロジー、(14)バイオメテイクス、(15)生物活性物質、(16)天然物化学、(17)生体高分子、(18)分析化学、(19)水産食品化学、(20)機能性食品、(21)水産食品加工・貯蔵、(22)食品微生物、(23)食品衛生、(24)自然毒、(25)食品安全性、(26)ゼロエミッション、(27)水圏バイオマス利用、(28)バイオエネルギー
	社会経済農学	経営・経済農学	7401	(1)食料自給・食料安全保障、(2)食料経済、(3)農漁村経済・計画、(4)農業関連産業、(5)食農環境経済、(6)食料政策、(7)農林水産業政策、(8)国際食料経済・貿易、(9)農林水産投資・金融、(10)農畜水産物・食品流通、(11)フードシステム、(12)食の安全・リスク管理、(13)農林水産業経営、(14)農林水産技術・知識評価、(15)経営管理・診断・計画、(16)土地利用、(17)農の付加価値化、(18)マーケティング、(19)経営倫理・CSR、(20)集落営農、(21)農林水産業支援組織、(22)経営主体、(23)食農情報システム、(24)企業の農業参入、(25)農業普及
		社会・開発農学	7402	(1)農村社会、(2)農村生活、(3)地産地消、(4)食農教育、(5)農村リーダー・NPO、(6)都市農村交流、(7)女性の農業・社会参画、(8)農社会と文化、(9)農業・農村の多面的機能、(10)農史・農法比較、(11)農思想・倫理、(12)国際農業、(13)国際農漁村開発、(14)開発プロジェクトマネジメント、(15)技術の普及と移転、(16)食遷移、(17)コモンズ
	農業工学	地域環境工学・計画学	7501	(1)農業水利・灌漑排水、(2)農地整備・保全、(3)農村計画、(4)農村環境、(5)地域景観・生態系、(6)地域振興・持続可能性、(7)物質エネルギー循環・管理、(8)水資源、(9)自然エネルギー、(10)地域ガバナンス、(11)地域防災、(12)土壤環境保全、(13)農業施設・ストックマネジメント、(14)農村道路、(15)集落排水、(16)国際農業農村開発、(17)水理、(18)水文・気象、(19)水・水環境、(20)土壤物理、(21)土質力学、(22)応用力学、(23)材料・設計・施工
		農業環境・情報工学	7502	(1)生物生産システム、(2)生物生産機械、(3)施設園芸・植物工場、(4)生物環境調節、(5)バイオプロセッシング、(6)農業生産環境、(7)農業気象・微気象、(8)気象災害、(9)地球環境・温暖化影響、(10)環境改善・緑化、(11)再生可能エネルギー、(12)農作業技術管理、(13)農業労働科学、(14)ポストハーベスト工学、(15)流通管理 (16)生体計測、(17)細胞計測、(18)非破壊計測、(19)画像計測、(20)環境ストレス応答、(21)バイオセンシング、(22)画像情報処理・画像認識、(23)アグリバイオインフォマティクス、(24)リモートセンシング、(25)地理情報システム、(26)モデリング・シミュレーション、(27)コンピュータネットワーク・ICT、(28)農業ロボティクス、(29)精密農業、(30)生物環境情報、(31)農業情報、(32)農作業情報
	動物生命科学	動物生産科学	7601	(1)育種、(2)繁殖、(3)栄養・飼養、(4)飼料、(5)代謝・内分泌制御
				(6)家畜衛生、(7)動物管理・福祉、(8)環境、(9)施設・生産システム、(10)草地、(11)放牧、(12)畜産物、(13)糞尿処理、(14)畜産バイオマス、(15)畜産経営、(16)畜産物流通
		獣医学	7602	(1)病理、(2)病態、(3)薬理、(4)トキシコロジー、(5)病原微生物、(6)人獣共通感染症、(7)寄生虫、(8)獣医公衆衛生、(9)防疫、(10)疫学 (11)内科、(12)外科、(13)臨床繁殖・産科、(14)診断・検査、(15)臨床病理、(16)治療・看護、(17)疾病予防・制御、(18)麻酔・鎮痛、(19)放射線科学、(20)動物福祉・倫理
	統合動物科学	7603	(1)生理、(2)組織、(3)解剖、(4)内分泌、(5)細胞機能、(6)免疫、(7)生体防御、(8)遺伝、(9)エピジェネティクス、(10)ゲノム、(11)発生・分化、(12)生体情報、(13)生態、(14)行動、(15)心理 (16)遺伝子工学、(17)細胞工学、(18)発生工学、(19)幹細胞、(20)再生医療、(21)イメージング、(22)野生動物、(23)実験動物、(24)疾患モデル動物、(25)コンパニオンアニマル、(26)動物介在療法、(27)バイオリソース、(28)生物多様性	

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
農 学	境界農学	昆虫科学	7701	(1)昆虫機能利用・有用物質生産、(2)養蚕・蚕糸、(3)昆虫病理、(4)昆虫病原微生物・ウイルス、(5)昆虫生態、(6)昆虫生理生化学、(7)昆虫分子生物学、(8)昆虫行動、(9)昆虫個体群・群集、(10)昆虫進化・系統分類、(11)昆虫遺伝・ゲノム、(12)昆虫発生・生殖、(13)生活史・季節適応、(14)化学生態学、(15)化学的・物理的交信、(16)寄生・共生、(17)クモ・ダニ・線虫、(18)養蜂、(19)ポリネーション、(20)社会性昆虫、(21)昆虫ミメティクス
		環境農学(含ランドスケープ科学)	7702	(1)バイオマス、(2)生物環境、(3)遺伝資源、(4)生物多様性、(5)環境分析、(6)環境修復、(7)環境浄化、(8)水域汚染、(9)環境適応、(10)生態系サービス、(11)資源環境バランス、(12)資源循環システム、(13)環境価値評価、(14)低炭素社会、(15)LCA、(16)環境調和型農業、(17)流域管理、(18)陸海域の統合農学、(19)地域農学 (20)ランドスケープデザイン、(21)造園、(22)緑地計画、(23)景観形成・保全、(24)文化的景観、(25)自然環境保全・自然再生、(26)都市環境デザイン、(27)自然環境影響評価、(28)生物生息空間、(29)生態系機能、(30)景観生態、(31)都市農地、(32)公園管理・緑地環境管理、(33)都市公園・防災公園、(34)自然公園、(35)環境緑化学、(36)都市緑化植物、(37)観光・グリーンツーリズム・レクリエーション、(38)参加型まちづくり、(39)CSRと緑化
		応用分子細胞生物学	7703	(1)細胞生物学、(2)染色体工学、(3)糖鎖工学、(4)オルガネラ工学、(5)細胞・組織工学、(6)エピジェネティクス、(7)発現制御、(8)発生・分化制御、(9)細胞間相互作用、(10)分子間相互作用、(11)生物間相互作用、(12)バイオセンサー、(13)細胞機能、(14)分子情報、(15)機能分子設計、(16)プロテオーム、(17)メタボローム、(18)物質生産、(19)培養工学、(20)バイオリジクス
医 歯 薬 学	薬学	化学系薬学	7801	(1)有機化学、(2)合成化学、(3)生体関連物質、(4)天然物化学、(5)有機反応学、(6)ヘテロ環化学、(7)不斉合成
		物理系薬学	7802	(1)物理化学、(2)分析化学、(3)製剤学、(4)生物物理化学、(5)同位体薬品化学、(6)生命錯体化学、(7)分子構造学、(8)構造生物学、(9)イメージング、(10)ドラッグデリバリー、(11)情報科学
		生物系薬学	7803	(1)生化学、(2)分子生物学、(3)免疫学、(4)細胞生物学、(5)発生物学、(6)ゲノム機能学、(7)生理化学、(8)内分泌学
		薬理系薬学	7804	(1)薬理学、(2)薬効解析学、(3)神経生物学、(4)薬物治療学、(5)細胞情報伝達学、(6)毒性・医薬品安全性学、(7)システム薬理学、(8)ゲノム薬理学
		天然資源系薬学	7805	(1)生薬学、(2)薬用資源学、(3)天然薬物学、(4)漢方・和漢薬、(5)伝統医薬、(6)生合成、(7)抗生物質・微生物薬品学、(8)天然活性物質、(9)薬用食品学
		創薬化学	7806	(1)医薬品化学、(2)医薬分子設計、(3)医薬品探索、(4)医薬分子機能学、(5)ゲノム創薬、(6)レギュラトリーサイエンス、(7)ケミカルバイオロジー、(8)バイオ医薬品
		環境・衛生系薬学	7807	(1)環境衛生学、(2)環境化学、(3)環境動態学、(4)食品衛生学、(5)栄養化学、(6)微生物・感染症学、(7)中毒学、(8)環境毒性学、(9)化粧品科学、(10)衛生試験
		医療系薬学	7808	(1)薬物動態学、(2)薬物代謝学、(3)薬物輸送担体、(4)薬物動態・代謝スクリーニング系、(5)ヒトの薬物動態・代謝予測系、(6)臨床化学、(7)個別医療 (8)臨床薬学、(9)医療薬剤学、(10)医薬品情報・安全性学、(11)薬剤経済学、(12)社会薬学、(13)病院薬学・保険薬局管理学、(14)医療薬学教育学

分野	分科	細目名	分科・細目コード	キーワード
医 歯 薬 学	社会医学	疫学・予防医学	8101	(1)疫学、(2)臨床疫学、(3)臨床試験、(4)臨床統計学、(5)環境疫学、(6)分子遺伝疫学、(7)予防医学、(8)健康診断、(9)検診、(10)集団検診、(11)健康管理、(12)健康増進
		衛生学・公衆衛生学	8102	(1)環境保健、(2)産業保健、(3)食品衛生、(4)地域保健、(5)地域医療、(6)母子健康、(7)成人保健、(8)高齢者保健、(9)国際保健、(10)保健医療行政、(11)保健医療政策、(12)介護福祉
		病院・医療管理学	8103	(1)病院管理学、(2)医療管理学、(3)医療情報学、(4)医療の質、(5)診療録管理、(6)リスクマネジメント、(7)院内感染管理、(8)クリティカルパス
		法医学	8104	(1)法医学、(2)法医鑑定学、(3)アルコール医学、(4)法歯学、(5)DNA多型医学、(6)法医病理学
	内科系臨床医学	内科学一般（含心身医学）	8201	(1)心療内科学、(2)ストレス科学、(3)東洋医学、(4)代替医療、(5)緩和医療、(6)総合診療、(7)プライマリーケア、(8)老年医学
		消化器内科学	8202	(1)上部消化管学(食道、胃、十二指腸)
				(2)下部消化管学(小腸、大腸)
				(3)肝臓学
				(4)胆道学、膵臓学
				(5)消化器内視鏡学
		循環器内科学	8203	(1)臨床心臓学
				(2)臨床血管学
				(3)分子心臓学
				(4)分子血管学
		呼吸器内科学	8204	(1)臨床呼吸器学
				(2)分子細胞呼吸器学
		腎臓内科学	8205	(1)腎臓学
				(2)高血圧学、(3)水・電解質代謝学、(4)人工透析学
		神経内科学	8206	(1)神経分子病態学、(2)神経病態免疫学、(3)臨床神経分子遺伝学
				(4)臨床神経生理学、(5)臨床神経形態学、(6)臨床神経心理学、(7)神経機能画像学
代謝学	8207	(1)エネルギー・糖質代謝異常、(2)メタボリックシンドローム		
		(3)脂質代謝異常、(4)プリン代謝異常、(5)骨・カルシウム代謝異常、(6)電解質代謝異常		
内分泌学	8208	(1)内分泌学、(2)生殖内分泌学		
血液内科学	8209	(1)血液内科学、(2)血液腫瘍学		
		(3)血栓・止血学、(4)輸血学、(5)造血幹細胞移植学、(6)血液免疫学、(7)免疫制御学		
膠原病・アレルギー内科学	8210	(1)膠原病学、(2)リウマチ学		
		(3)アレルギー学、(4)臨床免疫学、(5)炎症学		

平成26年度採用分海外特別研究員申請書作成要領

I	申請書の構成について	1
II	電子申請システムのID・パスワードの取得について	1
III	「申請書情報」の入力について	4
IV	「申請内容ファイル」の作成について	14
V	受入意思確認書について	15
VI	評価書について	16
VII	申請書の提出方法について	17
	<参考>申請書作成・提出の流れ	18

別添

I 申請書の構成について

種類	入力方法	作成者	内容	提出方法
申請書情報	Web 直接入力	申請者	氏名・研究課題名・派遣先等の基礎的な必要情報	全て揃えてから Web 上で提出 ※申請書情報を最初に作成し、その他は順不同で作成可。 ※期限までに全て揃わない場合、申請不可。
申請内容ファイル	本会 HP よりダウンロードした様式(Word 等)で作成 →Web 取込	申請者	研究状況、業績、研究等	
受入意思確認書	Web 直接入力	海外での受入研究者	受入研究者による受入の意思についてコメント	
評価書	Web 直接入力	評価書作成者	評価書作成者による申請者について評価コメント	
申請件数一覧	Web 出力 →承認・印刷	申請機関	申請機関による申請の承認	紙媒体での提出
申請リスト				

※海外特別研究員の申請は、電子申請システムを通じて行います。電子申請システムの利用にあたっては、「[研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・機関申請用）](#)」または「[研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・個人申請用）](#)」を併せて参照してください。

II 電子申請システムの ID・パスワードの取得について

海外特別研究員の申請は、募集要項 9. 申請手続(1)申請手続を行う機関に記載の申請時点（申請受付期間時点）での所属状況により手続きが異なります。「機関申請者」と「個人申請者」のいずれに該当するか、以下により各自確認してから適切な手続きを踏んでください。

- ・科学研究費補助金取扱規定（文部省告示）第 2 条に規定されている研究機関 → 「機関申請者」（募集要項 4. 申請資格（1） ※1 を参照）
- ・科学研究費補助金取扱規定（文部省告示）第 2 条に規定されていない研究機関 → 「個人申請者」
- ・海外の研究機関等に所属の者 → 「個人申請者」
- ・申請時点においては所属のない者 → 「個人申請者」

[注]本会の特別研究員に採用されている者は、海外特別研究員申請時に海外の大学等研究機関において研究活動を行っている場合であっても、必ず日本国内の所属機関を通じて申請手続を行ってください。（この場合は、「機関申請者」に該当します。）

<機関申請者>

申請手続きは、必ず申請時点の所属機関（以下「申請機関」という。）を通じて行ってください。（機関申請者に該当する者が、申請書を電子申請システムにより直接本会へ提出（送信）したものは、受け付けません。）

申請機関担当者に ID・パスワードの発行依頼を行います。ID・パスワードは特別研究員事業（PD・DC2・DC1・RPD）と共通して使用することが可能です。

※電子申請システムの利用にあたっては、「研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・機関申請用）」を併せて参照してください。

<個人申請者>

申請手続きは各自で行い、申請書は電子申請システムにより直接本会へ提出（送信）してください。

電子申請システムホームページ（http://www-shinsei.jsps.go.jp/topyousei/top_ken.html）の左側にある「ID・パスワード発行申請（海外特別研究員・個人申請用）」より ID・パスワードの発行申請を行います。

各項目への入力要領は以下の表を参考にしてください。

ここで登録した内容は、連絡先を除き申請書情報入力画面に反映され、申請書作成時には修正することはできませんので、ご注意ください。ID・パスワード発行申請時に記載した内容（連絡先を除く。）に変更が生じた場合や誤りがあった場合には、ID・パスワードの取得からやり直してください。

※電子申請システムの利用にあたっては、「[研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・個人申請用）](#)」を併せて参照してください。

画面	項目	入 力 要 領
1	同 意	記載されている内容を全て熟読し確認・同意した上で、「同意する」を選択し、「OK」をクリックします。
2	個人申請理由選択	申請時点（申請書提出時点）での所属状況について、該当するものを以下の3つから選択し、「OK」をクリックします。 1. 国内に所属の機関・団体があるが、科研費の応募資格のない機関のため 2. 海外の研究機関等団体に所属しているため 3. 現在、機関・団体への所属がないため
3	氏 名 (戸籍名)	戸籍に記載されている氏名を姓・名に分けて漢字等およびフリガナ欄に入力してください。一部の旧字等の JIS 第1水準・第2水準(JIS・X0208)にない文字は使用することができませんので、入力できない場合には第1水準・第2水準の文字に置き換えて入力してください。置き換える漢字がない場合は、全角カタカナで入力してください。 ※姓（名字）または名（名前）しかない場合には、「姓」の欄に全て入力してください。 ※採用者として公表する際など、通常本会で取り扱う際に使用する「登録名」については、申請書情報作成時に戸籍名とは異なるものを指定できますので、ここでは必ず戸籍名を登録してください。 ※外国人の場合は、外国人登録証明書・住民票・在留カード等に記載されている氏名を入力してください。
	性 別	戸籍上の性別について、男・女いずれかを必ずチェックしてください。
	生年月日	生年月日を西暦で入力してください。
	課程種別	(1) プルダウンメニューから次の4つのうちいずれかを選択してください。 ・博士課程（3年制）・・・区分制博士課程の後期課程、後期課程のみの博士課程 ・博士課程（5年一貫制）・・・5年一貫制博士課程（本作成要領P.13参照） ・博士課程（医・歯・獣医学系4年制）・・・博士(医学)、博士(歯学)、博士(獣医学)等を授与する4年制の博士課程 ・外国における博士課程

3	課程種別	<p>※ 論文博士取得（見込）の者は、「博士課程（3年制）」を選択してください。</p> <p>※ 外国における博士相当の学位（Ph.D など）取得（見込）の者は、「外国における博士課程」を選択してください。</p> <p>※ 専門職学位課程は、博士課程には含まれません。当該学位を以て申請することはできません。</p> <p>(2) 「博士課程（医・歯・獣医学系4年制）」を選択した者で、平成26年4月1日現在の年齢が35歳以上となる者は、「臨床研修の実績」についてプルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学（平成12年改正前の医師法に基づく臨床研修を修了） ：平成16年3月31日以前より行われた1年以上の初期臨床研修 ・ 医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了） ：平成16年4月1日以降より行われた2年以上の初期臨床研修 ・ 歯学（1年以上の臨床研修を修了） ：平成18年3月31日以前より行われた平成12年改正前の歯科医師法の努力義務規定に基づく研修も含む。 ・ 獣医学（6月以上の臨床研修を修了） ：獣医師法に基づく研修 <p>※別添の「<u>臨床研修の期間を証明する書類について</u>」を必ず確認してください。</p> <p>※該当者は、採用内定後の派遣開始手続時に「臨床研修の期間を証明する書類」を提出する必要があります。</p> <p>※平成16年4月1日以前に臨床研修を行っている場合は、「医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了）」には該当しません。</p> <p>※「医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了）」に該当する場合は、規定のフォーマットによる証明書類を提出する必要があります。（本作成要領別添参照）</p>
	機 関 名	<p><個人申請の理由 1の場合> 機関の正式名称を直接テキスト入力してください。 (例. ○○株式会社、○○県立△△病院 など)</p> <p><個人申請の理由 2の場合> 「一覧」ボタンをクリックし「機関コード表」を参照して入力してください。 ※該当するものがない場合は、「999999」を入力し、下の枠内に具体的な名称を、和文・英文両方ともテキスト入力してください。 ※コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合も、該当するものがない場合と同様に対応してください。</p>
	部局・部署名	<p><個人申請の理由 1の場合のみ> 「一覧」ボタンをクリックし「部局コード表」を参照して入力してください。 ※該当するものがない場合は、「9999」を入力し、右側の枠内に具体的な名称をテキスト入力してください。 ※コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合も、該当するものがない場合と同様に対応してください。（コード表の「(系)」と記載があるものについては、正式名称に「(系)」がない場合でも該当するものとして選択してください。）</p>
	職名・身分等	<p><個人申請の理由 1・2の場合共通> 「一覧」ボタンをクリックし「職名コード表」を参照して入力してください。 ※該当するものがない場合は、「999」を入力し、右側の枠内に具体的な名称をテキスト入力してください。 ※コード表に、似ているが合致はしない名称しかない場合も、該当するものがない場合と同様に対応してください。 ※ポストクの場合には、「201」（ポストク）を入力してください。</p>
	連絡先	必要時に、確実に連絡の取れる連絡先を入力してください。

Ⅲ 「申請書情報」の入力について

(1) 「申請書情報」(申請書のP.1～4)については、電子申請システム上で直接入力して作成します。
「(英文)」と指定のされた項目以外は全て日本語で入力してください。

(2) 「申請書情報」の修正は、申請者が申請機関(個人申請の場合は、日本学術振興会。以下同様。)へ申請書を提出(送信)するまでは自由に修正することができます。

以下に、申請書情報PDFでの番号に従い入力要領を説明します。

※画面上で赤い「*」のある項目は必須入力項目です。

※以下、グレー：表示内容の確認のみ。 黄色：全員必須入力項目。 色無し：選択必須項目。

申請書上での番号	項目	入力要領
④	分科・細目コード	「一覧」ボタンをクリックして「分科・細目コード表」を参照の上、4桁のコードを入力し、「確定」ボタンをクリックしてください。
②	分科	「分科・細目コード」を入力し、「確定」ボタンをクリックすれば、コード表に基づき対応する「分科」名が確認画面に表示されます。内容を確認してください。
③	細目	「分科・細目コード」を入力し、「確定」ボタンをクリックすれば、コード表に基づき対応する「細目」名が確認画面に表示されます。内容を確認してください。
①	審査領域	「分科・細目コード」を入力し「確定」ボタンをクリックした後、以下の2パターンに分かれます。 ①分科・細目コードに応じて審査領域が自動的に決まる場合 「領域」欄に領域名が表示され、「審査希望領域」欄の枠内が灰色になり、選択できないようになります。入力は不要です。 ※「分科・細目コード表」に「審査可能領域」が表示されていない場合がこちらに該当します。
	審査希望領域 (審査希望領域を選択できる場合)	②審査を希望する領域を選択する必要がある場合 「領域」欄には何も表示されず、「審査希望領域」欄が選択可能な状態になります。希望する領域をプルダウンメニューから選択してください。 ※「審査を希望することが可能な領域」については、「分科・細目コード表」を参照。 (例)『総合領域』内の細目「情報学基礎理論(1001)」で申請する場合。 →「分科・細目コード表」を参照すると○印のある「数物系科学」領域と「工学」領域の2領域が審査可能領域であるため、この2つのいずれかを選択してください。
⑤	専門分野	分科・細目にかかわらず、自分の専門分野を漢字等により7字以内でテキストで入力してください。
⑥	氏名(登録名)	登録名は、海外特別研究員採用者として公表する際など、通常海外特別研究員として本会で取り扱う際に使用する氏名です。旧姓や通称名等を使用することも可能です。初期設定として戸籍名を表示していますので、適宜修正してください。 ()で旧姓を併記することなども可能です。特に制限はありません。 なお、和文証明書発行時に、戸籍名と登録名が一致しない場合には両方を併記します。
	氏名(戸籍名)	ID・パスワード発行の際、申請機関から事前に電子申請システムに登録された情報(個人申請者の場合にはご自身で入力された情報)が自動表示されます。誤りがあった場合は、入力データを一時保存した上で「申請機関担当者(または申請機関の部局担当者)」に連絡し、修正を依頼してください(個人申請者の場合は、ID・パスワード発行からやり直してください)。 戸籍名を使用する必要がある事務処理(郵送時宛名・税務処理等)については、こちらを使用します。

	氏名 (ローマ 字表記)	ローマ字表記については希望するものを半角で入力してください。こちらは、英文証明書発行時等に使用しますので、入力の際にはご注意ください。 入力は、姓は全て大文字、名は最初の一文字のみ大文字、以降は小文字です。 (証明書使用時の例：YAMADA, Taro) 登録名、戸籍名のいずれとも合致せず同一人物と判断できないものにはできませんが、登録名と戸籍名のいずれに合致させても、併記したものにして構いません。
⑦	性別	戸籍上の性別について、男・女いずれかを必ずチェックしてください。 (個人申請者の場合は、ID・パスワード発行の際にご自身で入力された情報が自動表示されます。誤りがあった場合は、ID・パスワード発行からやり直してください。)
⑧	国籍	「日本」「日本以外」のいずれかを必ずチェックしてください。 「日本以外」にチェックした場合のみ、「国名コード」を、「一覧」ボタンをクリックして「国名コード表」を参照の上、入力してください。「日本」にチェックした者は入力しないでください。国名コード表に該当するものが無い場合は「ZZZ」を入力し、具体的な国名をテキストで入力してください。
⑧	永住許可 の有無	<u>申請時点で永住許可があることが必要です</u> ので、ご注意ください。 「国籍」欄で「日本以外」にチェックした場合のみ、プルダウンメニューから永住許可の有/無のいずれかを必ず選択してください。 日本国籍以外の者は永住許可がなければ申請資格がないので、日本に永住を許可されていることを証明する「外国人登録証明書」または「住民票」等を採用内定後の派遣開始手続時に提出いただきます。 ※在留資格が「留学」「日本人の配偶者等」の者は申請できません。
⑨	生年月日	ID・パスワード発行の際、申請機関から事前に電子申請システムに登録された情報(個人申請者の場合にはご自身で入力された情報)が表示され、それに基づき、平成26年4月1日現在の満年齢も自動表示されます。 この年齢が募集要項に記載の年齢要件を満たしていない場合は申請できません。 誤りがあった場合は、「申請機関担当者(または申請機関の部局担当者)」に連絡し、修正を依頼してください(個人申請者の場合は、ID・パスワード発行からやり直してください)。
⑩	大学院 博士課程 入学年月	(1) 在学/修了した博士課程の状況を入力してください。 (例) 2009年4月 入・進学 (2) 複数の博士課程に在学したことがある場合や、複数の学位を取得している者は、今回の申請に関する学位取得等に係るものを入力し、⑩「学歴」欄に、全ての在学した博士課程の状況や学位取得状況についてテキストで入力してください。 (3) 「3年次編入学」の場合は、そのように選択しその年月を入力してください。 ※ ここでの「3年次編入学」は、修士課程修了者が5年一貫制博士の3年次に編入学することを指します。それ以外の変則的な編入学に該当する場合には、入学種別を「入・進学」とした上で、⑩「学歴」欄に具体的にテキストで入力してください。 (4) 「転入学」の場合は、そのように選択しその年月を入力してください。⑩「学歴」欄に具体的にテキストで入力してください。 (5) 論文博士取得(見込)の者については、空欄としてください。ただし、当該課程において、「単位取得済満期退学」または「中途退学」している場合は、入力してください。
⑩	大学院 博士課程 大学名	(1) 大学の国内外の別をプルダウンから選択してください。 ※個人申請者の場合で、ID・パスワード発行時に課程種別欄で「外国における博士課程」を選択した場合、「海外の大学」が自動選択されます。また、「外国における博士課程」以外を選択した場合、「国内の大学」が自動選択されます。誤りがあった場合には、ID・パスワード発行からやり直してください。 ※複数の博士課程に在学したことがある場合や、複数の学位を取得している者は、今回の申請に関する学位取得等に係るものを入力してください。 (2) 「一覧」ボタンをクリックし「機関コード表」を参照して入力してください。該当するものが無い場合は「99999」(海外の大学の場合は「999999」)を入力し、具体的な機関名をテキストで入力してください。

⑩	大学院 博士課程 研究科名	「一覧」ボタンをクリックし「部局コード表」を参照して「部局コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「9999」を入力し、具体的な部局名をテキストで入力してください。海外の大学の場合は、対応する和名で判断し「部局コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「9999」を入力し、具体的な研究科名の和名をテキストで入力してください。
⑩	大学院 博士課程 課程種別	<p>※個人申請者の場合は、ID・パスワード発行の際にご自身で入力された情報が自動表示されます。誤りがあった場合は、ID・パスワード発行からやり直してください。(1) プルダウンメニューから次の4つのうちいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程（3年制）・・・区分制博士課程の後期課程、後期課程のみの博士課程 ・博士課程（5年一貫制）・・・5年一貫制博士課程（本作成要領P.13参照） ・博士課程（医・歯・獣医学系4年制）・・・博士(医学)、博士(歯学)、博士(獣医学)等を授与する4年制の博士課程 <p>・外国における博士課程</p> <p>※ 論文博士取得（見込）の者は、「博士課程（3年制）」を選択してください。</p> <p>※ 外国における博士相当の学位（Ph.D など）取得（見込）の者は、「外国における博士課程」を選択してください。</p> <p>※ 専門職学位課程は、博士課程には含まれません。当該学位を以て申請することはできません。</p> <p>(2) 「博士課程（医・歯・獣医学系4年制）」を選択した者で、採用年度の4月1日現在の年齢が35歳以上となる者は、「臨床研修の実績」についてプルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学（平成12年改正前の医師法に基づく臨床研修を修了） <ul style="list-style-type: none"> ：平成16年3月31日以前より行われた1年以上の初期臨床研修 ・医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了） <ul style="list-style-type: none"> ：平成16年4月1日以降より行われた2年以上の初期臨床研修 ・歯学（1年以上の臨床研修を修了） <ul style="list-style-type: none"> ：平成18年3月31日以前より行われた平成12年改正前の歯科医師法の努力義務規定に基づく研修も含む。 ・獣医学（6月以上の臨床研修を修了） <ul style="list-style-type: none"> ：獣医師法に基づく研修 <p>※<u>別添</u>の「<u>臨床研修の期間を証明する書類について</u>」を必ず確認してください。</p> <p>※該当者は、採用内定後の派遣開始手続時に「臨床研修の期間を証明する書類」を提出する必要があります。</p> <p>※平成16年4月1日以前に臨床研修を行っている場合には、「医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了）」には該当しません。</p> <p>※「医学（平成12年改正医師法に基づく臨床研修を修了）」に該当する場合は、規定のフォーマットによる証明書類を提出する必要があります。（本作成要領 <u>別添</u>参照）</p>
⑩	大学院 博士課程 修了・退学等	<p>(1) 修了区分としては、プルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了 ・単位修得済満期退学 ・中途退学 <p>(2) 申請時から採用年度の4月1日までに「修了」等する<u>予定</u>の場合は、「見込」としてください。</p> <p>(3) 人文学・社会科学の学位の取得が著しく困難な分野を専攻する者が募集要項4.申請資格（1）「学位」のただし書きに基づき申請する場合は、「単位修得済満期退学」を選択し、満期退学年月を入力してください。</p> <p>※当該課程（専攻）における博士の授与状況について資料を求めることがあります。</p> <p>(4) 論文博士取得（見込）の者については、原則として空欄としてください。ただし、当該博士課程において、過去に「単位修得済満期退学」または「中途退学」している場合は、その退学年月を入力してください。</p>

⑩	大学院 博士課程 学位	(1) 学位取得(見込)日を西暦で入力してください。 (2)プルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。 ・博士取得 ・論文博士取得 ・外国における博士相当の学位取得(Ph.D など) (3) 申請時から採用年度の4月1日までに「博士取得」等する <u>予定</u> の場合は、「見込」としてください。
⑩	大学院 博士課程 学位付記 専攻分野	(1) 「学位」欄の学位種別として、「博士取得」「論文博士取得」を選択した者のみ、取得(見込)の博士の学位について、学位に付記される専攻分野名を入力してください。 ※所属専攻名ではなく、学位記に記載される「博士(○○学)」の()に入る文言を入力してください。 外国における学位の場合には、専門分野を入力してください。 (2) 全角19字以内で入力してください。それより長くなる場合は、「学歴」欄に正確な専攻分野名を入力してください。 (3) PDFに変換時、自動で「()」が前後に追加されますので、名称のみ入力してください。
⑪	学 歴	学部・修士課程(博士前期課程を含む)・博士課程に係る学歴を西暦で入力してください。 必要事項を正確にテキストで入力し、不要な文字は消去してください。必要に応じて行をずらしてください。 1行に40字まで入力可。第1行目は省略しないでください。 「⑩大学院博士課程」欄の記載と相違ないように留意して入力してください。
⑫	研究・職歴 等	本会特別研究員、及びそれ以外の同様のフェローシップの採用歴も含めてテキストで西暦を入力してください。研究生歴も本欄に入力してください。1行に50字まで入力可。 例：2009年4月～2011年3月 ○○会社中央研究所研究員 ※特別研究員採用歴を入力する際には、下記の例に従って入力してください。 資格について当初の内定・採用の状況と、その後の資格変更の状況を全て入力してください。また、採用年度(2桁)と受付番号を末尾に記載してください。(例えば、平成21年度採用 受付番号 123 場合、末尾に「21-123」と入力)(下記の記入例を参照。) 例1：平成2008年4月～2009年3月 DC1申請・採用(18-123) 平成2009年4月～2011年3月 DC1採用後PDに変更(18-123) 例2：2008年4月～2010年3月 DC2内定後PDに変更(18-4567) 例3：2010年4月～2013年3月 PD申請・採用(20-123) 例4：2010年4月～2011年3月 PD内定後DCに変更(20-4567) 2011年4月～2013年3月 DC2採用後PDに変更(20-4567)
⑬	現在の 所属機関	(1)所属機関名については、ID・パスワード発行をした際の情報が自動表示されます。 機関申請者の場合にはID・パスワードを発行した機関名が、個人申請者の場合にはご自身で入力された情報が表示されます。 誤りがあった場合には、機関申請者・個人申請者のいずれに関してもID・パスワード発行からやり直す必要があります。修正後が機関申請者に該当する場合には、正しい所属機関にID・パスワードの発行依頼を行ってください。修正後が個人申請者に該当する場合には、個人申請用ID・パスワード発行手続きを行ってください。 (2)職名については、外国の大学等研究機関のポスドクの場合には、「201」(ポスドク)を入力してください。 なお、日本学術振興会特別研究員の場合には資格毎(SPD、PD、RPD、DC)にコードが異なりますので、適切なコードを入力してください。 コードが存在しない場合には、「999」を入力し、具体的な名称をテキストで入力してください。 (3)「任期の有無」欄は、有・無のいずれかを選択してください。現在、所属が無い場合および在学中の場合については、選択する必要はありません。 ※入力方法は、本作成要領P.11【研究者情報の入力について】を参照。

⑭	申請資格	(1)募集要項「4. 申請資格(1)」で(I)と(II)のいずれに該当するかを確認してください。なお、(I)常勤研究者には任期付も含まれます。 (2)プルダウンメニューから次のいずれかを選択してください。 ・「(1)常勤研究者」・・・申請資格(I)に該当する者が選択 ・「(2)常勤研究者を志望する者」・・・申請資格(II)に該当する者が選択 ※なお、個人申請者につきましては、申請資格(II)に該当することになります。
⑮	海外特別研究員終了後の進路	「申請資格」欄で(II)に該当する者は必ず記入してください。 「我が国の大学等学術研究機関、国公立試験研究機関等に所属する常勤研究者を志望する」というものでも差し支えないが、なるべく具体的に記入してください。
⑯	奨学金・フェローシップの有無	(1)プルダウンメニューから該当するものを選択してください。 (2)「有」または「申請中」を選択した場合、該当する奨学金・フェローシップの名称をテキストで入力してください。
⑰	研究課題名	・研究課題名は具体的な研究内容を 40字以内 (記号、数字等も全角/半角に関わらずすべて1字として数える)で簡潔に入力してください。40字を超えて入力することはできません。 ・研究課題名には、副題を入力しても差し支えありません。特に共同研究課題の場合は、申請者が担当する部分を副題として記載してください。ただし、副題を含めて40字以内としてください。 ・ 化学式、数式による表記は避け 、漢字、カナ等入力してください。ただし、DNA等アルファベットで表記することが一般的なものは差し支えありません。 漢字等で書く例：H ₂ O→水 ・JIS 第1水準及び第2水準以外の文字コードや特殊フォントは使用することができません。詳細は、「研究者養成事業用申請者向け操作手引」を参照してください。 (使用できない文字の例) ・半角カナ ・○数字(①、②、③・・・) ・ローマ数字(I~Vの小文字を含む) 他 ・研究課題名(英文)も250バイト以内で入力してください。 ・なお、申請書提出後、 研究課題名を変更することはできません。
⑱	派遣を希望する期間	(1)派遣開始日を入力してください。 (2)派遣開始日は、2014年4月1日から2015年2月28日までの間です。
⑲	派遣国	「一覧」ボタンをクリックし「国名コード表」を参照して「国名コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「ZZZ」を入力し、具体的な国名をテキストで入力してください。 なお、「アメリカ合衆国」は「米国」(コード：USA)、「イギリス」は「英国」(コード：GBR)という国名で取り扱います。
⑳	海外における受入の大学等研究機関での身分	英文で記載してください。 例. Postdoctoral Fellow、Research Fellow 等
㉑	平成26年度採用分特別研究員との併願	平成26年度採用分の特別研究員・PD、RPDと併願を予定している場合は、併願する事業をプルダウンメニューから選択してください。
㉒	現住所	※入力方法は、本作成要領P.9【住所入力について】を参照。 (1)現住所を、郵送時の宛名として正しい語順で入力してください。 (2)特に「希望連絡先」として「現住所」を希望する場合は、確実に届くように、「〇〇様方」など必要な情報は全て記載してください。 ※居住していない住所の場合には、「〇〇様方」の記載が必要です。 (3)確実に連絡が取れるように、Emailアドレスを複数所有している場合には、Email2にも記載してください。

⑳	所属機関 (所在地・ 機関名・部 局等名)	<p>※入力方法は、本作成要領P.9【住所入力について】を参照。</p> <p>(1) 現在研究に従事している機関での申請者の連絡先について、住所・機関名・部局名・研究室名等を、郵送時の宛名として正しい語順で入力してください。</p> <p>記載された内容は、申請者への連絡の際に使用することがありますので、申請者に直接通じないもの(事務局・受入研究者等の情報)は入力しないでください。</p> <p>(2) 特に「希望連絡先」として「所属機関」を希望する場合は、確実に届くように、必要な情報は全て記載してください。(例、「××棟000号室」や「〇〇研究室」など。)</p> <p>※研究科名等まででは到着しない場合が多いですので、略さず、研究室名まで入力してください。</p> <p>なお、所属機関のない者は、本欄は全て未入力でも構いません。</p>
㉑	希望連絡先	<p>(1) 審査結果の開示については、電子申請上で行いますが申請・審査中・採用手続き時に連絡が必要な場合に使用するための連絡先として希望するものを選択してください。</p> <p>上記の「現住所」または「所属機関」の住所を連絡先としたい場合は、「1. 現住所」または「2. 所属機関」のボタンを選択すれば、自動的に上の「現住所」欄または「所属機関」欄で入力済の内容がこの「希望連絡先」欄にコピーされます(後から「現住所」欄または「所属機関」欄を修正した場合も同様)。</p> <p>もし、「現住所」「所属機関」のいずれとも異なる住所(実家等)を希望連絡先としたい場合は、「3. その他」のボタンを選択し、直接入力してください。</p> <p>※入力方法は、本作成要領P.9【住所入力について】を参照。</p> <p>(2) 郵便物を発送する場合は、本欄に表示される住所をそのままのかたちで印字して発送するため、郵便物等確実に受け取れる住所となるよう、「現住所」「所属機関(研究室名まで入力のこと)」「その他」欄の入力の際に留意してください。(例、「〇〇研究室」、「〇〇様方」など必要な情報は全て記載してください。)(居住していない住所の場合は、「〇〇様方」の記載が必要です。)</p> <p>なお、機関によっては、学生宛の郵便物を受け取らないところもあるので、希望連絡先はできる限り現住所としてください。</p> <p>また、本欄に記入した内容が今後の本会からの連絡先となるので、変更が生じた場合は、直ちに届け出てください。</p> <p>(3) 確実に連絡を取れるように、Emailアドレスを複数所有している場合には、Email2にも記載してください。</p> <p>Emailについては、<u>今年中申請者本人と連絡の取れるアドレス</u>を正確に記載してください。申請書情報入力時、「希望連絡先」として登録したEmailにアドレス確認のためメールを送信します。メールの受信を確認した上で、申請書情報の入力を完了してください。審査結果を開示した際には、本会特別研究員ホームページの掲示板にその旨を掲載するとともに、こちらに記載のEmailアドレス宛に開示した旨を通知します。有効なアドレスが登録されていないなど、当該メールを受信できなかった場合の責任は負いません。なお、面接出欠回答をはじめ、本会が指定する期限までに所定の手続きがなされなかった場合には選考辞退となりますので、ご注意ください。また、選考途中での登録のe-mailアドレスの変更はできませんので、ご注意ください。</p>
㉒ ・ ㉓ ・ ㉔ 共通事項	住所	<p>【住所入力について】</p> <p>※入力方法については、下欄を参照してください。</p> <p>(1) 一番上のプルダウンメニューから、「国内の住所」・「海外の住所」のいずれかを選択してください。</p> <p>(2) 「国内の住所」を選択した場合は、郵便番号を入力してください。 (入力例：123-4567)</p> <p>(3) 国内の住所の場合は「住所1」～「住所3」欄に、海外の住所の場合には「住所1」～「住所5」欄に、住所を適切なところで区切って入力してください。郵送に使用する場合はそのまま使用しますので、宛名として正しい語順で入力してください。 ※海外の住所の場合には、必ず最後に郵便番号を記載してください。</p> <p>(4) 「海外の住所」を選択した場合は、「国名」欄に宛名として使用する形式の国名を入力してください。(例、USA、CHINAなど)</p>

⑳	現在の受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> ・申請時において研究機関に所属していない場合や申請者本人が常勤研究者である場合等、現在の受入研究者に該当するものがない場合は空欄でも構いません。 ・「科研費研究者番号」については、研究者本人または所属機関事務局に問い合わせを入力してください。研究者番号を有しない場合または不明の場合には、「99999999」と入力してください。 ・所属機関・部局・職名については、複数の身分を兼ねている場合は、原則として本務を入力してください（大学内の研究所等の研究者が大学院研究科の教員を兼ねている場合は、本務である当該研究所における身分を入力により入力すること）。・外国人の方の場合は、「フリガナ」および「漢字等」欄は両方カタカナで入力してください。 <p>※入力方法は、本作成要領P. 11【研究者情報の入力について】を参照。</p>
㉑	出身大学院の研究指導者大学院での受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> ・学位取得の博士課程における研究指導者を必ず入力してください。 ・論文博士の場合は、それに代えて論文審査の主査を入力してください。 ・所属機関・部局・職名は修了当時の内容としてください。 ・「所属機関名」欄は、原則として「大学院博士課程」の「⑩大学名」欄に入力したものと一致させてください。 ・外国人の方の場合には、「フリガナ」および「漢字等」欄は両方カタカナで入力してください。 ・現在の受入研究者と同内容の場合は、入力画面の「現在の受入研究者の内容を複写」という文字をクリックすれば、この「出身大学院の研究指導者」欄に入力内容を複写できます。 <p>※入力方法は、本作成要領P. 11【研究者情報の入力について】を参照。</p>
㉒	海外における受入研究者	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず受入研究者本人と連絡をとり、受入について承諾を得てください。なお、申請時に提出する「受入意思確認書」とは別に、採用内定となった後、改めて受入研究者の受入承諾書（受入を正式に承諾している旨の証明書）を求めることとなります。 ・この欄で入力した内容は、採用内定時に発行する証明書に記載されますので、入力の際にはご注意ください。 ・現在の受入研究者と同内容の場合は、入力画面の「現在の受入研究者の内容を複写」という文字をクリックすれば、この「海外における受入研究者」欄に入力内容を複写できます。 ・氏名について、「FAMILY NAME」は全て大文字で、「First Name」及び「Middle Name」は最初の文字のみ大文字であとは小文字としてください（「-（半角ハイフン）」や半角スペースを文字の間に入れた場合、その後の最初の文字は大文字で表記されます）。また、「Middle Name」については、アルファベットのイニシャルと省略記号「.」で表記してください。 ・受入機関については、海外における優れた大学等研究機関を一つ選び記入してください。複数の研究機関を受入研究機関として申請書に記載することはできません。また、我が国の大学等学術研究機関が海外に設置する研究所等、または営利を目的とした民間研究所等を受入研究機関とすることはできません。「受入機関名」の「種別」欄にて、受入機関の該当する種別を選択してください。・住所は郵送時に使用できる語順で記載し、郵便番号や国名を最後に記載してください。 ・「Email」欄は、受入意思確認書の作成依頼メールを送付する際に使用します。本メールにて、受入意思確認書を作成するホームページのURL、ログインIDおよびパスワードを送付しますので、入力の際には誤記のないよう注意してください。また、必ず海外における受入研究者本人のEmailアドレスを入力するものとし、申請者のEmailアドレスを入力することはできません。 <p>※入力方法は、本作成要領P. 11【研究者情報の入力について】を参照。</p>
㉓	評価書作成者	<p>「日本学術振興会海外特別研究員申請者に関する評価書」作成者1名の氏名等を入力してください。</p> <p>プルダウンメニューから選択することにより、「㉑現在の受入研究者」、「㉒大学院での受入研究者」欄に入力した内容を複写することが可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Email」欄は、評価書の作成依頼メールを送付する際に使用します。本メールにて、評価書を作成するホームページのURL、ログインIDおよびパスワードを送付しますので、入力の際には誤記のないよう注意してください。また、必ず評価書作成者本人

⑳	評価書作成者	<p>の Email アドレスを入力するものとし、申請者の Email アドレスを入力することはできません。</p> <p>※入力方法は、本作成要領 P. 11 【研究者情報の入力について】を参照。</p>
⑬ ・ ㉔ ・ ㉕ ・ ㉖ ・ ㉗ 共通事項	<p>【研究者情報の入力について】</p> <p>※入力方法については、下欄を参照してください。</p>	
	全 般	<p>複数の身分を兼ねている場合は、原則として本務を入力すること。</p> <p>(例) 大学内の研究所等の研究者が大学院研究科の教員を兼ねている場合は、本務である当該研究所における身分により入力すること。</p> <p>ただし、大学外の研究者が「連携大学院」協定等により、大学院の客員教員等として研究指導者となっている場合は、当該大学院研究科における身分により入力すること。</p>
	所属機関	<p>(1) 「国内の機関」・「海外の機関」のいずれかを選択してください。</p> <p>(2) 「一覧」ボタンをクリックし、「機関コード表」を参照して、「所属機関コード」を入力してください。廃止や統合等でコード表に記載されていない機関については、国内の機関は「99999」、海外の機関は「999999」を入力し、具体的な機関名をテキストで入力してください。</p>
	部局名	<p>(1) 「国内の機関」を選択した場合で、大学(放送大学・大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構を含む)の場合は「一覧」ボタンをクリックし「部局コード表」を参照して「部局コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「9999」を入力し、具体的な部局名をテキストで入力してください。</p> <p>また、上記の大学等以外の場合は、空欄としてください。</p> <p>(2) 「海外の機関」を選択した場合で、大学の場合には、以下のとおりとします。</p> <p>「一覧」ボタンをクリックし、「部局コード表」を参照して、対応する和名の部局名が記載されている場合には、「部局コード」を入力してください。部局コード表に記載されていない部局の場合には、「9999」と入力し、具体的な部局名の和名をテキストで入力してください。</p>
	部局種別	<p>(1) 「国内の機関」を選択した場合は、大学(放送大学・大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構を含む)の場合のみ入力してください。大学の場合は、「学部」「学系」「研究科」「附置研等」「研究院」のうち該当するものをプルダウンメニューで選択してください。該当するものがない場合は、「その他」を選択し、具体的な部局種別をテキストで入力してください。</p> <p>大学内の研究所や大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構の場合は、「附置研等」を選択してください。</p> <p>(2) 「海外の機関」を選択した場合には、以下のとおりとします。</p> <p>大学の場合は、該当するものがプルダウンメニューにある場合にはそれを選択し、ない場合には「その他」を選択し、具体的な部局種別をテキストで入力してください。</p>
職 名	<p>「一覧」ボタンをクリックし「職名コード表」を参照して、「職名コード」を入力してください。該当するものが無い場合は「999」を入力し、具体的な職名をテキストで入力してください。</p>	
㉔	研究活動における主な使用言語	<p>・「①審査領域」で数物系科学・化学・工学・生物学・農学・医歯薬学のいずれかの領域を選択した者^{*1}は英語について必ず記入してください。英語以外の言語については任意とし、必ずしも記入しなくて構いません。</p> <p>・「①審査領域」で人文学・社会科学のいずれかの領域を選択した者^{*2}は、派遣国での研究活動(論文執筆、学会発表、調査、研究討論等)において主に使用する言語を記入してください。(複数回答可)</p> <p>^{*1}「審査希望領域」として、数物系科学・化学・工学・生物学・農学・医歯薬学のいずれかを選択した者を含みます。</p> <p>^{*2}「審査希望領域」として、人文学・社会科学のいずれかを選択した者を含みます。</p>

⑩	語学検定試験結果	<p>(1) 「研究活動における主な使用言語」で記入した言語について、過去に語学能力検定試験を受けた者は、試験コード・級/スコア・取得年月を入力してください。 ※同じ言語について複数の試験の結果を入力することも可能です。 ※複数の言語の試験結果を記入する場合には、「研究活動における主な使用言語」で記入した言語の順に入力してください。</p> <p>(2) 「一覧」ボタンをクリックし、「語学検定試験コード表」を参照して、「試験コード」を入力してください。該当するものが無い場合は、「9999」を入力し、「言語」および「試験名称」をテキストで入力してください。</p> <p>(3) 3種類以上の試験を受けている場合は、成績の良い試験結果を申請者自ら選択の上、記入してください。</p> <p>(4) スコアに有効期限がある試験（例：TOEFL）について、有効期限が過ぎた場合も含めて記入して構いません。</p>																									
⑪	自己評価	<p>・「研究活動における主な使用言語」で記入した言語のうち、前項の⑩語学能力検定試験結果を記入していない言語についてのみ記入してください。</p> <p>・下記「自己評価の基準」に添って、優・良・可・不可のいずれかを記入してください。</p> <p>自己評価の基準</p> <table border="1" data-bbox="427 741 1522 1384"> <thead> <tr> <th></th> <th>読解力</th> <th>作文力</th> <th>ヒアリング力</th> <th>会話力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>論文・新聞等の内容をほぼ完全に読める。</td> <td>論文・手紙等をほぼ完璧に書ける。</td> <td>学会講演・映画・ニュース等の内容をほぼ完全に聞き取れる。</td> <td>学会講演・質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論がほぼ完全にできる。</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>自分の専門の論文をほぼ完全に読める。</td> <td>論文・手紙等を書ける。ただし、多少の校閲は必要とする。</td> <td>学会講演をほぼ完全に聞き取れる。</td> <td>学会講演はほぼ完全にできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論は半分程度にできる。</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>自分の専門の論文を、辞書を引きながらであれば読める。</td> <td>論文・手紙等を、辞書を引きながらであれば書ける。</td> <td>学会講演を50%程度であれば聞き取れる。</td> <td>学会講演はメモを用いればできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論はスムーズではないが意志の疎通は可能。</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>辞書を用いても文章を読むのが困難。</td> <td>辞書を用いても文章を書くのが困難。</td> <td>学会講演を理解するのが困難。</td> <td>相手の理解が得られるよう会話するのが困難。</td> </tr> </tbody> </table>		読解力	作文力	ヒアリング力	会話力	優	論文・新聞等の内容をほぼ完全に読める。	論文・手紙等をほぼ完璧に書ける。	学会講演・映画・ニュース等の内容をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演・質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論がほぼ完全にできる。	良	自分の専門の論文をほぼ完全に読める。	論文・手紙等を書ける。ただし、多少の校閲は必要とする。	学会講演をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演はほぼ完全にできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論は半分程度にできる。	可	自分の専門の論文を、辞書を引きながらであれば読める。	論文・手紙等を、辞書を引きながらであれば書ける。	学会講演を50%程度であれば聞き取れる。	学会講演はメモを用いればできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論はスムーズではないが意志の疎通は可能。	不可	辞書を用いても文章を読むのが困難。	辞書を用いても文章を書くのが困難。	学会講演を理解するのが困難。	相手の理解が得られるよう会話するのが困難。
	読解力	作文力	ヒアリング力	会話力																							
優	論文・新聞等の内容をほぼ完全に読める。	論文・手紙等をほぼ完璧に書ける。	学会講演・映画・ニュース等の内容をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演・質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論がほぼ完全にできる。																							
良	自分の専門の論文をほぼ完全に読める。	論文・手紙等を書ける。ただし、多少の校閲は必要とする。	学会講演をほぼ完全に聞き取れる。	学会講演はほぼ完全にできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論は半分程度にできる。																							
可	自分の専門の論文を、辞書を引きながらであれば読める。	論文・手紙等を、辞書を引きながらであれば書ける。	学会講演を50%程度であれば聞き取れる。	学会講演はメモを用いればできる。質疑応答、ネイティブスピーカーとの交渉・討論はスムーズではないが意志の疎通は可能。																							
不可	辞書を用いても文章を読むのが困難。	辞書を用いても文章を書くのが困難。	学会講演を理解するのが困難。	相手の理解が得られるよう会話するのが困難。																							
⑫	海外における研究・留学歴	<p>・在外研究、大学以降の外国留学等について最大3件まで入力してください。3件以上ある場合は、渡航期間の長い主要なものを優先。</p> <p>・「訪問先」欄には国や機関名等を入力してください。</p> <p>・「目的」欄は、まずプルダウンメニューから渡航目的の概要を選択し、次にその詳細についてテキストで具体的に記入してください。</p> <p>・「期間」欄について、現在渡航中のものについては、予定している渡航終了日を入力してください。</p>																									
⑬	海外特別研究員制度における支援の必要性	<p>・過去に海外での研究経験（国際会議、学会発表等を除く。）がある場合、または、派遣を開始する予定日より前に、既に海外の研究機関において研究を行っている場合は、本制度において支援を受けなければならない理由について説明をしてください。</p> <p>・⑫「海外における研究・留学歴」の「目的」欄で、「会議・学会等出席」以外を選択・記入している場合も、上記と同様に、支援の必要性について説明をしてください。</p> <p>・改行は5回まで可能。1600バイト以内（改行は2バイトとして計算）。</p>																									

【参考】 5年一貫制の博士課程（平成24年4月1日現在）。

このほかにも、申請受付時までに開設している場合があるので、各自大学に確認してください。

<国立大学>

筑波大学大学院	人文社会科学研究科（哲学・思想専攻、歴史・人類学専攻、文芸・言語専攻）、生命環境科学研究科（環境バイオマス共生学専攻）、
京都大学大学院	アジア・アフリカ地域研究研究科（東南アジア地域研究専攻、アフリカ地域研究専攻、グローバル地域研究専攻）
大阪大学大学院	生命機能研究科（生命機能専攻）
岡山大学大学院	自然科学研究科（地域惑星物質科学専攻）
九州大学大学院	システム生命科学府（システム生命科学専攻）
長崎大学大学院	工学研究科（グリーンシステム創成科学専攻）、水産・環境科学総合研究科（海洋フィールド生命科学専攻）
総合研究大学院大学大学院	物理科学研究科（構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇宙科学専攻）、高エネルギー加速器科学研究科（加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻）、複合科学研究科（統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻）、生命科学研究科（遺伝学専攻、基礎生物学専攻、生理科学専攻）、先導科学研究科（生命共生体進化学専攻）

<私立大学>

青山学院大学大学院	総合文化政策学研究科（総合文化政策学専攻）、国際マネジメント研究科（国際マネジメントサイエンス専攻）
国際仏教学大学院大学大学院	仏教学研究科（仏教学専攻）
同志社大学大学院	総合政策科学研究科（技術・革新的経営専攻）
立命館大学大学院	先端総合学術研究科（先端総合学術専攻）
東亜大学大学院	総合学術研究科（医療科学専攻、人間科学専攻、デザイン専攻、臨床心理学専攻）

IV 「申請内容ファイル」の作成について

(1) 下記の点に注意のうえ、作成してください。

- ① 10ポイント以上の文字で記入してください。
- ② 「(英文)」と指定された項目以外は日本語で記入してください。
- ③ 様式中の各項目について指定されたもの以外の項目を付け加えること、及び記入しない項目の省略等、様式の加工・変更はできません。
- ④ 本会所定の様式のページ数を変更することはできません。

これらが守られていなければ不備の申請書とみなします。また、内容に矛盾のあるもの、記入漏れなどについても不備とみなします。

注：上記のルールに従わなかった場合には、書類不備のため審査にあたり不利益を生じることがあります。

(2) 本会ホームページに募集要項・「申請内容ファイル」(申請書のP.5以降)の電子ファイルを公開しているのので、活用してください。

本会「海外特別研究員」ホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>)

→「申請手続き」→「募集要項」→「申請書」

(3) 申請書P.12が空欄となる場合も、様式の枠はそのまま残して提出してください。

「4.研究業績」欄の記入例

下記はあくまでも一例であり、体裁は申請書に記載されている注記を踏まえた上で、適宜調整してください。

(1) 学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文、著書

(査読有り)

- 1) 学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp57-62、2004
- 2) 麴町治郎、学振太郎、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp33-39、2010
- 3) 半蔵門花子、麴町次郎、学振太郎 (6番目)、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、千代田三郎(〇名省略)、「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp10-25、2012

他 5 報 ▼

書ききれない場合で省略する場合は、項目別に省略した数を記載してください。

最大20名程度に省略する場合は、

- ① first author, second author, last author、申請者本人、申請書2ページ目に記載の各研究者は省略不可。
- ② 申請者本人氏名には、下線を引くとともに、後ろに何番目の著者にあたるかを記載。
- ③ その他については、どなたを記載するかは定めません。
- ④ 論文と同一の順番で記載。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

- 1) 学振太郎・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp57-62、2007

(3) 国際会議における発表

(口頭発表 査読有り)

- 1) 〇Gakushin T., Hanzoumon H,・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、BB-11、Los Angeles, USA、(June 2006)
- 他 2 件

パンフレット等に掲載された際に付された番号があれば記載してください。

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

(口頭発表 査読無し)

- 1) 〇学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、No.200、仙台、2005年9月

(5) 特許

(公開中)

- 1) (特許の番号) 号、「(名称)」、麴町治郎、学振太郎、2005年4月

(6) その他 (受賞歴等)

- 1) 学振太郎・・・「(賞の名称)」、2005年4月

【発表(印刷)前】▲

既に「発表(印刷)済」のものど、「発表(印刷)前」のものに分けて記載してください。

(1) 学術雑誌等 (紀要・論文集等も含む) に採録決定されたもの
(査読有り)

- 1) 麴町治郎、学振太郎、・・・ 「(題名)」、『(掲載誌名)』、〇〇出版、〇号、pp33-39、2013

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表の申し込みが受理されたもの

- 1) 〇学振太郎、半蔵門花子、・・・ 「(題名)」、『(学会名)』、No.201、東京、2013年7月

V 受入意思確認書について

- (1) 受入意思確認書は、海外での受入研究者の受入に関する意思を確認する書類です。
- (2) 「申請書情報」を完了した後、申請書管理画面より「受入意思確認書作成依頼」ボタンをクリックしてください。
- (3) 「受入意思確認書作成依頼確認」画面にて、以下を参考に各項目の入力・確認をしてください。
※以下、グレー：表示内容の確認のみ。 黄色：全員必須入力項目。 色無し：選択必須項目。

項目	入力・確認要領
派遣を希望する期間	海外特別研究員としての採用を希望する期間に誤りがないか確認してください。
研究課題名	海外特別研究員の研究課題名に誤りがないか確認してください。
研究内容・研究計画の概要	海外における受入研究者が受入意思確認書を作成する際の参考のため、海外特別研究員採用中に行う研究内容および研究計画の概要を半角2000字以内で入力してください。半角英数字のみ入力可能。図表を挿入することはできません。
海外における受入研究者	記載内容に誤りがないか確認してください。 Emailに記載のアドレス宛に、受入意思確認書作成に必要なログインID・パスワードを送付しますので、重点的に確認します。申請者本人のアドレスにすることはできません。

- (4) 海外における受入研究者に、電子申請システムを通じて受入意思確認書作成依頼のメールが送付されます。受入研究者ご本人が、当該メールに記載のURLへアクセスし、同記載のID・パスワードを使用してログインし、受入意思確認書を作成します。

電子申請システムからのメールが受信拒否される可能性もあるため、必ず申請者本人からも海外における受入研究者に連絡を取り、正しく受信されているか確認してください。受信できていない場合には、Email等を確認・修正の上、再度、受入意思確認書作成依頼の処理を行ってください。

- (5) 海外における受入研究者が入力する受入意思確認書の各項目の入力・確認要領は次ページの表を参照してください。

※ 海外における受入研究者が電子申請システムの操作についてお困りの場合には、「研究者養成事業用申請者向け操作手引 (海外特別研究員・受入研究者用)」を参照し、補佐してください。

※ 以下、グレー：表示内容の確認のみ。 黄色：全員必須入力項目。 色無し：選択必須項目。

項目	入 力 ・ 確 認 要 領
Applicant name	申請者氏名。
Desired fellowship tenure	申請者の入力した、海外特別研究員制度において派遣を希望する期間。本欄の内容を確認してください。
Research project	申請者の入力した研究課題名（英文）。本欄の内容を確認してください。
Outline of research plan / content	申請者の入力した海外特別研究員採用中に行う研究内容および研究計画の概要。本欄の内容を確認してください。
Host researcher	申請者の入力した海外における受入研究者についての情報が記載されているので、誤りがないか確認してください。
Exception clause	特記事項欄。受入にあたっての条件等、特記すべき事項がある場合に入力してください。特に特記事項がない場合は空欄としてください。 入力にあたっては、英語または日本語。半角 1000 文字（全角では 500 字）以内、改行は 5 回まで可。

- (6) 海外における受入研究者より受入意思確認書が提出されると、申請書情報の希望連絡先に記載の Email1 および Email2 宛に、作成が完了した旨のメールが電子申請システムより送付されます。受入意思確認書の提出状況については、「申請書管理」画面の該当の「処理状況」欄においても確認することができます。

VI 評価書について

- (1) 評価者は、「海外における受入研究者」も含めて、本人の研究内容に精通している研究者 1 名とし、必ずしも「現在の受入研究者」である必要はありません。また、評価者は退官された方や現在所属がない研究者の方でも構いません。
- (2) 「申請書情報」を完了した後、申請書管理画面より「評価書作成依頼」ボタンをクリックします。
- (3) 「評価書作成依頼確認」画面にて、以下を参考に各項目の入力・確認をします。

※以下、グレー：表示内容の確認のみ。 黄色：全員必須入力項目。 色無し：選択必須項目。

項目	入 力 ・ 確 認 要 領
研究課題名	海外特別研究員の研究課題名（和文・英文）に誤りがないか確認します。
評価書作成者	記載内容に誤りがないか確認します。 連絡先に記載のアドレス宛に、評価書作成に必要なログイン ID・パスワードを送付しますので、念入りに確認します。申請者本人のアドレスにすることはできません。

- (4) 評価書作成者に、電子申請システムを通じて評価書作成依頼のメールが送付されます。評価書作成者ご本人が、当該メールに記載の URL へアクセスし、同記載の ID・パスワードを使用してログインし、評価書を作成することになります。

電子申請システムからのメールが受信拒否される可能性もあるため、必ず申請者本人からも評価書作成者に連絡を取り、正しく受信されているか確認してください。受信できていない場合には、Email 等を確認・修正の上、再度、評価書作成依頼の処理を行ってください。

- (5) 評価書作成者が入力する評価書の各項目の入力・確認要領は次ページの表を参照してください。
- ※ 評価書作成者が電子申請システムの操作についてお困りの場合には、「研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・評価書作成者用）」を参照し、補佐してください。
- ※ 海外における受入研究者が電子申請システムの操作についてお困りの場合には、「研究者養成事業用申請者向け操作手引（海外特別研究員・受入研究者用）」を参照し、補佐してください。

※ 以下、グレー：表示内容の確認のみ。 黄色：全員必須入力項目。 色無し：選択必須項目。

項目	入 力 ・ 確 認 要 領
評価書作成者	申請者の入力した評価書作成者の氏名・所属機関名・部局名・職名が表示されます。内容に誤りがないか確認してください。
申請者	申請者の入力した申請者の登録名・ローマ字表記・所属機関名（和文のみ）・部局名（和文のみ）・職名（和文のみ）が表示されます。
研究課題名	申請者の入力した研究課題名（和文）・（英文）が表示されます。
申請者との関係	申請者との関係を具体的かつ詳細に入力してください。 例．現在の受入研究者、出身大学院における研究指導者 等
評価	審査の重要な資料となるので、申請者についてできる具体的かつ明確に記入してください。 入力にあたっては、英語または日本語。半角 4000 文字（全角では 2000 字）以内、改行は 10 回まで可。

- (6) 評価書作成者より評価書が提出されると、申請書情報の希望連絡先に記載の Email1 および Email2 宛に、作成が完了した旨のメールが電子申請システムより送付されます。評価書の提出状況については、「申請書管理」画面の該当の「処理状況」欄においても確認することができます。

VII 申請書の提出方法について

① 機関申請者について

・【申請者】

申請機関が指定する期限までに、電子申請システムより申請書を提出（送信）してください。

・【申請機関担当者】

以下の期限までに、電子申請システム上で申請書を承認（「申請リスト」を確定）し、申請書を本会に提出（送信）してください。

提出（送信）期限：平成25年5月13日（月）17：00

また、「申請件数一覧」および「申請リスト」電子申請システムより出力・印刷し、以下の期間に紙媒体で提出してください。

受付期間：平成25年5月13日（月）～ 16日（木）（必着）

受付時間：9：30～12：00 及び 13：00～17：00（日本時間）

＜申請書類提出先＞

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1 麹町ビジネスセンター

独立行政法人 日本学術振興会 海外特別研究員 募集担当

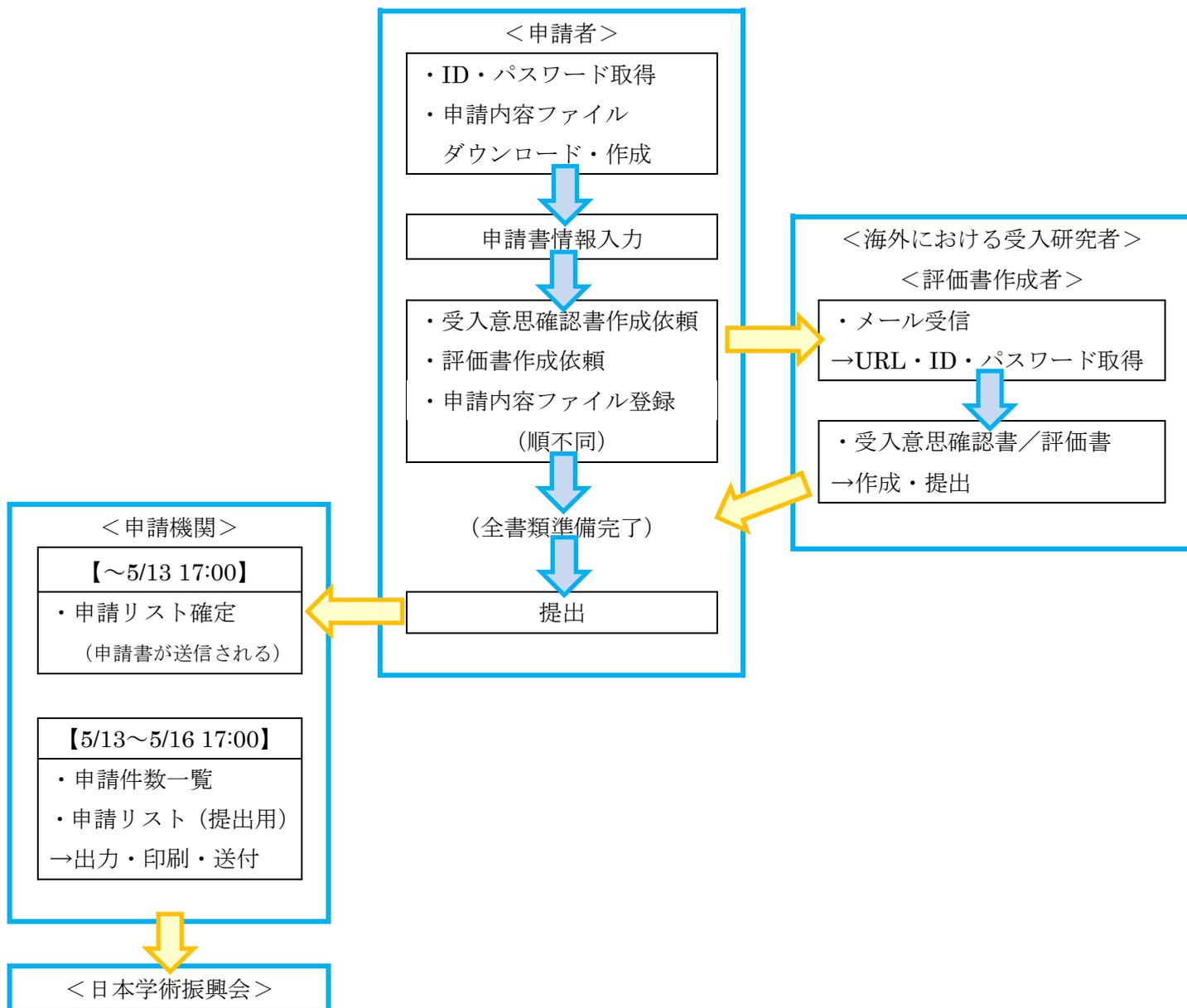
② 個人申請者について

・【申請者】

以下の期限までに、電子申請システムより申請書を提出（送信）してください。

提出（送信）期限：平成25年5月13日（月）17：00（日本時間）

<参考> 申請書作成・提出の流れ



「臨床研修の期間を証明する書類」について

募集要項に記載のとおり、採用年度の4月1日現在35歳以上37歳未満の申請者については、採用内定後の手続きの際に、標記の書類を添付することが必要です。その際、提出する書類の必要記載事項等を以降に示します。申請前に必ずいずれに該当するか以下を確認した上で、申請してください。

「臨床研修の期間を証明する書類」【該当者のみ】……………1部

医師法、歯科医師法又は獣医師法に定められた臨床研修を修了した者のうち医学、歯学又は獣医学を履修する我が国の4年制の博士課程在学者又は修了者で、採用年度の4月1日現在35歳以上37歳未満である申請者は、当該臨床研修を修了した機関等から発行された証明書類を、採用内定後の手続き時に提出してください。

当該証明書類は、「医師法、歯科医師法又は獣医師法16条の2に基づく臨床研修であること」、「当該臨床研修を修了したこと」及び「臨床研修の期間」が明記されたものとします。臨床研修病院から交付された「臨床研修修了証」の写しをもって代えても構いません。

臨床研修を行ったが、修了まで至っていない場合は該当しません。研修期間等必要事項については、下表を参照してください。

根拠となる法律	採用開始日 現在の年齢	研修期間等の必要事項
医師法	36歳以上 37歳未満	<u>平成12年改正医師法に基づく2年以上の臨床研修（平成16年4月1日の施行日以降に行われた初期臨床研修）を修了した者</u>
	35歳以上 36歳未満	<u>平成12年改正前の医師法に基づく1年以上の臨床研修を修了した者、</u> 又は、 <u>平成12年改正医師法に基づく2年以上の臨床研修（平成16年4月1日の施行日以降に行われた初期臨床研修）を修了した者</u>
歯科医師法	35歳以上 36歳未満	<u>1年以上の臨床研修を修了した者【平成18年3月31日以前より行われた平成12年改正前の歯科医師法の努力義務規定に基づく研修を含む】</u>
獣医師法	35歳以上 36歳未満	<u>6月以上の臨床研修を修了した者【獣医師法に基づく研修】</u>

なお、採用年度の4月1日現在35歳未満である者は、当該臨床研修を修了していても、当該証明書類は提出不要です。

赤下線と**青下線**のものでは、取扱いが異なりますので、ご自身でいずれに該当するか以下を参照し確認された上で申請し、必要事項の全て記載された証明書類を採用内定後の手続き時に指定の期日までに添付してください。

○医師法（平成12年改正医師法に基づく2年以上の臨床研修を修了した者）

上記に該当する方については、証明書類の必要条件是以下の5点です。

- ① 下記のフォーマットであること
- ② 9桁のプログラム番号が明記されていること
- ③ 臨床研修の期間として、平成16年4月1日以降より2年以上実施されていることが確認できること。
- ④ 当該臨床研修を「修了した」旨の記載があること
- ⑤ 施設長（病院長等）の公印があること。

※いわゆる初期臨床研修（卒後臨床研修の中でも初期の期間）を平成16年4月1日以降から開始し修了している者が、「平成12年改正医師法に基づく2年以上の臨床研修を修了した者」に該当します。当該期間に「後期研修」や「専門研修」、「専門医研修」などの臨床研修を行っていても、当該期間より前に臨床研修を行ったことがある場合は、「平成12年改正前の医師法に基づく1年以上の臨床研修を修了した者」に該当しますので次ページ以降を参照してください。

① 厚生労働省が定めている、この形式の修了証である。

臨床研修修了証
様式14

ふりがな 研修医の氏名		
生年月日	昭和 平成	年 月 日
医籍登録番号 及び登録年月日	第 平成	年 月 日
修了した臨床研修に係る研修プログラムの番号及び名称	プログラム番号	研修プログラムの名称
研修開始年月日 及び研修修了年月日	平成 平成	年 月 日開始 年 月 日修了
臨床研修を行った臨床研修病院の病院施設番号及び名称	病院施設番号	基幹型臨床研修病院の名称
	協力型臨床研修病院の名称	
臨床研修協力施設で研修を行った場合にはその名称		

※研修中断により複数のプログラムを履修した場合には、修了認定を行った以外のプログラム及び当該プログラムを履修した病院の名称について、別紙に記載すること。

② 9桁のプログラム番号が記載されている。

③ 平成16年4月1日以降より2年間である。

④ 「修了した」旨が明記されている。

⑤ 施設長の公印がある。

上の者は、○○プログラムの課程を修了したことを認定する。
 平成 年 月 日
 ○○病院 院長 印
 ○○病院研修管理委員会委員長 印

提出の際は、コピーで可。

○医師法：平成12年改正前の医師法に基づく1年以上の臨床研修を修了した者

○歯科医師法：1年以上の臨床研修を修了した者

○獣医師法：6ヶ月以上の臨床研修を修了した者

上記3つのいずれかに該当する方については、証明書類の必要記載事項は以下の4点です。

① 「臨床研修」である旨の記載

ここで指すのは、医師法、歯科医師法又は獣医師法16条の2に基づく臨床研修です。
ただし、証明書類に「16条の2に基づく」という記載は必須ではありません。

② 当該臨床研修を「修了した」旨の記載。

歯科医師において、義務化後の平成18年4月以降に受けた臨床研修の場合は必須。
それ以外の場合は無くても良い。

③ 臨床研修の期間（合算して指定の年月以上実施されていることが必要）

一つの機関で行った臨床研修では指定の年月に満たない場合には、他の機関における臨床研修の証明書類と合わせて複数添付し合算することでも可。

④ 施設長（病院長等）の公印

なお、提出する際は、

- ・ 証明書の場合には、コピーではなく原本を提出してください。
- ・ 認定証（書）や修了証、研修手帳など一度しか発行できないもの場合には、コピーで構いません。

以降、サンプルを示します。

<例1>

証明書

1. 氏名

2. 生年月日

3. 勤務期間等

勤務期間	勤務機関名称	勤務時間
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	日	時間 分
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	日	時間 分
平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	日	時間 分

4. 従事した科・職務の内容

① 〇〇大学（〇〇院）として臨床研修を行いました。

上記のとおり相違ないことを証明いたします。

平成 年 月 日

〇〇大学〇〇院〇〇科〇〇科長
〇〇 〇〇〇 印

② 「修了」については、義務化後の歯科医師の臨床研修以外は省略可。

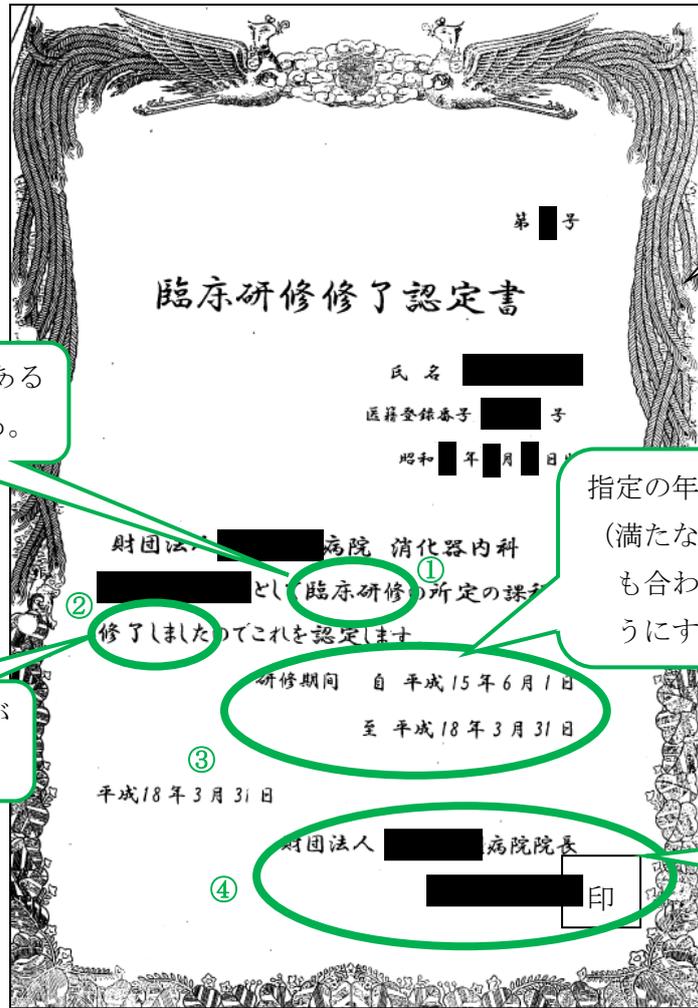
③ 指定の年月以上である。
(満たない場合は、他機関での証明書類も合わせて提出し、合算して満たすようにする。)

④ 施設長の公印がある。

証明書の場合には、原本を提出。

勤務等ではなく、「臨床研修」であることが確認できる。

<例2>



認定証(書)や修了証などの場合には、コピーで可。

「臨床研修」であることが確認できる。

指定の年月以上である。
(満たない場合は、他機関での証明書類も合わせて提出し、合算して満たすようにする。)

「修了した」旨が確認できる。

施設長の公印がある。

<例3> 研修の手帳で、「研修歴」というページに研修期間や施設長(病院長等)の公印があるものでも可。

研修歴 ①

「臨床研修」であることが確認できる。

研修手帳の場合、該当箇所のコピーで可。

〇〇〇医 氏名 申請 太郎
生年月日 S00年00月00日
卒業年次 〇〇大学 H12年卒業

H13年5月16日~H14年5月15日
施設名 〇〇市立〇〇病院
施設長名 〇〇市立〇〇病院長 院長 太郎 印
認定施設 非認定施設
特記すべき研修の内容 (〇印)
一般 小児 リウマチ リハビリテーション
その他 ()
主たる指導医名(署名) 指導 太郎 印
整形外科専門医 整形外科専門医ではない

H14年5月16日~H15年5月15日
施設名 △△△病院
施設長名 △△△病院長 院長 二郎 印
認定施設 非認定施設
特記すべき研修の内容 (〇印)
一般 小児 リウマチ リハビリテーション
その他 ()
主たる指導医名(署名) 指導 二郎 印
整形外科専門医 整形外科専門医ではない

H16年5月16日~H17年5月15日
施設名 〇〇市立〇〇病院
施設長名 〇〇市立〇〇病院長 院長 花子 印
特記すべき研修の内容 (〇印)
一般 小児 リウマチ リハビリテーション
その他 ()
主たる指導医名(署名) 指導 太郎 印
整形外科専門医 整形外科専門医ではない

施設長の公印がある。

合算して指定の年月以上である。
(満たない場合は、他機関での証明書類も合わせて提出し、合算して満たすようにする。)

②「修了」については、義務化後の歯科医師の臨床研修以外は省略可。